

令和 4 年度
神戸大学附属図書館年次報告

令和 5 年 1 0 月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

＊附属図書館ホームページ掲載＊

<https://lib.kobe-u.ac.jp/about/facts/reports/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 土佐 幸雄

令和2年1月から約3年間、我々の生活に多大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月8日から「5類感染症」になり、ようやく以前の日常が戻りつつあります。本年度も、神戸大学附属図書館年次報告書を刊行する時期となりました。ここに、令和4年度に附属図書館が実施した事業をまとめてご報告致します。

附属図書館の最近の大きなトピックと言えば、まずは何と言っても、自然科学系図書館の改修工事が終わり、令和5年4月3日（月）にリニューアルオープンしたことです。改修中は閉館・騒音等で大変ご迷惑をおかけしましたが、生まれ変わった図書館の入館者数は、コロナ禍前の改修前に比べて1.5倍以上増えました。いつ見ても多くの学生が、さまざまな学習・研究シーンに対応した種々の新しいスペースを活用している様子で、学生のニーズにある程度応えられたのではないかと思います。

研究支援においては、例年通り本学の所属研究者が執筆した論文の著作権を調査し学術成果リポジトリ Kernel での無料公開を進める一方、本学研究者出版論文のさらなるオープンアクセス化（雑誌購読者しか読めない形から、誰でも無料で読める形への転換）を推進することを目的に、10大学でコンソーシアムを組み、新しい形式での電子ジャーナル契約を締結しました。その結果、一昨年の3.5倍の論文がオープンアクセスとなっており、経過は順調と言えます。

また、科学研究費補助金（研究成果促進費）の採択により、令和4年度は「新聞記事文庫」のデジタル公開を前進させることができました。「新聞記事文庫」は、明治末から昭和45年までにわたる約50万件の記事からなる新聞切抜のコレクションで、他に代替物のない貴重なものです。本学の所蔵貴重資料や研究成果の無料公開を今後も推進し、より多くの研究者に届けることで、科学の発展に少しでも寄与できればと思います。

本報告書により、多くの方々に附属図書館の活動をご理解いただくとともに、今後の図書館運営について忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。それらのご意見を参考に、附属図書館は、館長をはじめ附属図書館職員一同、よりよい図書館サービスを目指し、今後とも取り組んで参ります。

令和4年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 本年度の取り組みの概要</u>	p. 1
---------------------------------	------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p. 7
(2) 学生用資料整備	p. 11
(3) 資料提供サービスと利用促進	p. 12
(4) 図書館相互利用 (ILL) サービス	p. 18
(5) 学生との協働及び学生参加型の取組	p. 19
(6) 情報リテラシー教育の推進支援	p. 21

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p. 25
(2) 電子的情報基盤の整備	p. 28
(3) 蔵書目録データベースの整備	p. 32
(4) 資料の保存	p. 33

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催	p. 34
(2) 震災文庫	p. 36
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p. 38
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p. 39
(5) 国際連携	p. 41

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 42
(2) 事務組織と人事管理	p. 44
(3) 予算及び財務会計業務	p. 49
(4) 施設整備・システム整備	p. 52
(5) 図書館界での諸活動	p. 54

<付録>

付録 1	神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について	p. 56
付録 2	KU VISION 2030	p. 59
付録 3	達成度評価 令和 4 年度事業年度に係る業務の実績（第 4 期中期目標）	p. 61
付録 4	数値結果実績（第 3 期～第 4 期）	p. 63
付録 5	達成度評価の根拠資料 附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	p. 65
付録 6	附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	p. 92
付録 7	自然科学系図書館の改修とその結果	p. 99

基本統計表

付録 8	蔵書・受入等の現況（各館室別）	p. 106
付録 9	サービス業務の現況（各館室別）	p. 107
付録 10	電子的情報サービスの現況	p. 108
付録 11	図書館組織図・事務組織図	p. 109
付録 12	附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p. 110
付録 13	附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p. 118
付録 14	附属図書館活動日誌	p. 120

1. 本年度の取り組みの概要

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

本年度は時間外開館を従来の実施館の全館で再開したこともあり、年間総入館者数は 370,273 人で前年度の 1.9 倍、また 1 日あたり入館者数は 1.8 倍となった。コロナ禍前の令和元年度と比較すると、年間総入館者数では 46%、1 日あたり入館者数は 52%の回復にとどまっているが、密を避けるために閲覧席を間引いて供用したことや改修に伴う自然科学系図書館の休館も影響していると考えられる。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、前年度と同額の 4 千万円とし各館室へ配分したものの、光熱費等の高騰の影響を受け予算額通りの執行は行われず各館室の予算執行率は中央値で 90%台前半にとどまった。前年度に整備した学生用図書の選定評価を従来通り実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことを確認した。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため限られた予算の中で適切な資料選定を行うと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

(3) 資料提供サービスと利用促進

学生への年間貸出総冊数は 217,652 冊で、前年度比約 1.14 倍となった。1 日あたり入館者数（同約 1.8 倍）と比べれば緩やかな増加だが、コロナ禍前の令和元年度の 209,180 冊を超えており、平成 30 年度の 208,442 冊を底に回復傾向が見て取れる。利用促進においては、前年度に実施した「オンライン読書室」や電子ブックを利用した「仮想展示」といった非来館型の取り組みに代えて、本を借りて読むことを促進する来館型のイベント「読書マラソン」を、ネットワーク上のツールを利用することで非来館型のノウハウも活用しつつ実施し、アンケートでも好評価を得た。

(4) 図書館相互利用（ILL）サービス

図書館相互利用（ILL）について、本年度は前年度に比べ、来館型の資料利用が増えたこともあり、文献複写の受付・依頼、現物貸借の受付・依頼ともに減少した。社会科学系図書館は、複写・貸借ともに学内全体の約半数を受け付けており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。

(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

「附属図書館学生チーム ULiCS（うりくす）」は本年度末時点で 10 名が参加し、計 7 回の定例会（オンラインと対面併用による）開催、団体誌『The ULiCS Times』の第 11 号～第 12 号の発行・公開等の活動を行った。また、体験型・ゲーム形式イベントとして「化石本発掘」「クイズラリー『兵庫の旅』」を企画、実施。学生参加型のイベント読書会「まごまご読書倶楽部」もオンラインにて 10 回実施した。令和元年、令和 3 年に続き神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会を開催。活動の可視化促進のため、学内学生団体（KooBee）発行サークル図鑑への掲載やツイッター広報も継続して実施、ULiCS 文庫の開催にも積極的に取り組んだ。

(6) 情報リテラシー教育の推進支援

図書館員が1コマを担当する全学共通授業科目「情報基礎」は、本年度もオンデマンド型遠隔授業として開講され、23クラス・2,668人が受講した。授業の理解度テストは、全ての設問で正解率が8割以上となった。また「情報基礎」と同じく必修科目である「初年次セミナー」では、図書館ツアーのほか、文献検索ガイダンス等を対面で行った。オーダーメイドガイダンスや図書館主催ガイダンス、オリエンテーションは対面・オンライン・オンデマンドに対応しており、オーダーメイドガイダンスの依頼件数はコロナ禍前よりも多くなった。さらに、パスファインダー「KULiP」の運用と内容更新、チャットによるオンラインレファレンスを継続して行った。

◆学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

第4期中期計画期間前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費について、令和2年10月8日の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.74億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは前年度の契約タイトルを維持することができたが、今後、価格の高騰や為替の影響により第4期中期計画期間後半（令和7～9年度）の整備方針を検討する必要がある。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.55億円で前年度から約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費（学生用資料費・e-study資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費）の確保が困難となっているが、本年度は前年度から約2%減の約0.71億円の予算を確保した。しかし、資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、前年度と同額の0.26億円を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、電子ジャーナル利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

今後、光熱水料の高騰や雇用単価の値上げ等のより経費負担が増える見込みのため、学生用資料費や外国雑誌センター予算を見直し検討をおこなう必要がある。

(2) 電子的情報基盤の整備

本年度末における電子ジャーナル購読数は37,668タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約140万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は前年度の規模を維持している。

円安の進行によって令和5年度の所要見込が大幅に増加しており、今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から「転換契約」という新しい契約形態が提案され、本学は、国内10大学によるパイロットプロジェクトに参加し、令和5年1月からSpringer Nature社との転換契約を開始した。

(3) 蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の本年度実績は、特殊資料（和漢古書、マイクロ資料など）と研究室からの返納図書、製本雑誌等を合わせ約62,572冊で、全蔵書数約378万冊のうち約335万冊（約89%）がOPAC（オンライン目録）で検索できるようになった。特に和古書は、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、重点的に入力を行っている。

(4) 資料の保存

整理作業促進のため「資料収容力確保策に関する実務指針」の改訂を行い、資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。本年度竣工の自然科学系図書館増築部分の共同利用書庫について、海事科学分館改修時への備えも含めて今後の方針を策定し、附属図書館全体における体系的な資料整備を進めている。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

◆社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

前年度に続き本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり、社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しい年となった。総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、令和2年3月以降、原則不可となり前年度に続き貸出冊数は0冊となった。

資料展については、3年ぶりに展示ホールでの開催を再開した。社会科学系図書館所蔵「住田文庫」資料を中心に、江戸時代の漂流をテーマとした資料展示を実施した。テーマの意外さを含めて好評を得ることができ、所蔵資料・古文書の紹介、それも一般にはあまり知られていない事柄の紹介としても、有意義であったと評価できる。

(2) 震災文庫

社会科学系図書館にある震災文庫は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前予約制（基本的に学内者のみ、本学のみ所蔵の資料利用は学外者も受付）での利用に制限したため、残念ながら利用者数は低調だった。所蔵資料総数は約5万7千件となり、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力111件だった。また、サンテレビジョンから寄贈を受けた阪神・淡路大震災当日の動画81件をデジタルアーカイブで公開し、これをもって平成7年1月17日（震災当日）に撮影した全映像の処理が完了した。また、助力を得た教員2名と携わった職員のチームが学長表彰を受けるなど、その活動が内外で高い評価を得た。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

平成11年から「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を3本柱に「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っている。「経済関係資料」では「新聞記事文庫」の電子化公開を進めており、本年度は科学研究費補助金および学内要求予算により画像データおよびテキストデータの作成を大きく進めることができた。そのほか、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業による電子化・画像公開や、「若林家文書」の電子化公開準備など、コンテンツの拡充を進めている。さらに本年度は、令和4年9月のシステム改修において IIIF や JPCOAR スキーマといった共通規格への対応および各コレクションの公開形式の統一を行い、外部データベースとの連携や維持管理のしやすさが向上した。今後はこのことを生かして外部データベースとの連携を拡大し利活用を推進することと、電子化画像の保存体制の改善に引き続き取り組むことが課題である。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

平成18年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ (Kernel)」は、本年度は2,021件のコンテンツが新規登録され、総コンテンツ数は36,487件に達し、順調にコンテンツ数をのばしている。

る。「オープンアクセス推進 WG」では、今年度も重点的な取組として、神戸大学研究者紹介システム「KUID」に登録された論文情報 2,217 件の各ジャーナルの著作権調査を手分けして実施し、公開可能なもののうち 499 件について著者へ登録依頼し、131 件を登録した。また、本年度は「研究データ管理検討 WG」を設置し、研究データ管理・公開支援に関する情報収集を進めた。引き続き、「神戸大学オープンアクセス方針」を含めたオープンアクセス・オープンサイエンスに関する周知・広報活動の拡大や、令和 4 年 7 月に策定された「神戸大学研究データ管理・公開ポリシー」に基づく研究データ公開支援の実践に向けた情報収集・検討を行い、全学 WG の検討にも寄与していく。

（５）国際連携

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止により、海外渡航および海外からの来日が困難な状況のため、国立大学図書館協会海外派遣事業への応募は見送ることとなった。今後の海外渡航に向けて、海外派遣には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

◆管理運営等

（１）図書館組織と運営

令和 3 年 4 月から櫻井徹教授（国際文化学研究科）が附属図書館長の任に当たっている。3 名の副館長の役割分担も前年度から継続している。附属図書館運営委員会はメール回議 1 回を含め 5 回開催した。第 4 期中期計画前半（令和 4～6 年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、令和 2 年 10 月 8 日の部局長会議において、上限 4.1 億円として承認を得ており、本年度は 3.74 億円（決算ベース）が措置された。情報サービス課連絡会議により各館室の問題や状況を共有し、均一のサービス提供や問題点の解決を行った。研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員から意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

（２）事務組織と人事管理

令和 5 年 3 月時点で、附属図書館事務部は 2 課 2 グループ 11 係、定員 44 名、非常勤職員 35 名、計 79 名であった。経済経営研究所図書係に定員 3 名、大学文書史料室に定員 3 名、非常勤職員 2 名を配置している。10 月から課長補佐の体制を、情報管理課 1 名・情報サービス課 3 名から、情報管理課 2 名・情報サービス課 2 名に変更し、情報管理課課長補佐 1 名を電子情報担当とした。本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの研修が対面から Web に変更となるなか、学外の Web 研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。時間外開館及び土・日開館業務の体制については、予算の縮減と委託経費の上昇により外部委託は維持困難と判断し、学生アルバイトと非常勤職員（パート）により実施した。業務改善は、継続検討となった課題に新規事項も加え、引き続き取り組んでいく。

（３）予算及び財務会計業務

経常運営費・経常事業費の当初予算総額は 248,836 千円で、前年度の 252,883 千円から 4,047 千円の減となった。為替相場での極端な円安傾向やウクライナ情勢などの世界的なエネルギー危機の影響から電気料金等光熱水料の価格が上昇し、経常運営費ばかりでなく図書館資料費などの経常事業費の執行にも大きく影響した。自然科学系図書館の改修について、移転費や建物新営設備費、設備整備事業経費、施設整備費等の経費が予算措置され、学内預り金制度の活用で確保した 20,000 千円等とあ

わせ、什器・設備類の設置や移転作業を実施できた。光熱水料については、感知式照明や LED などの器具の更新により経費節減に努めているが、今後も高止まりが予想される。時間外開館についても、学内の予算措置を受けて実施できている状況から、予算配分を待って開館時間が決まり、年度当初に予定が定まらないという問題も生じていることから、可能な限りの規模の維持と必要な経費の確保は今後も大きな課題である。

本年度、外部資金等による収入として、新聞記事文庫デジタル化のための科研費を獲得することができた。また、附属図書館として初めて日本無線株式会社との間でネーミングライツ・パートナー協定を結び、1 年 6 ヶ月の期間ネーミングライツ料の収入を得られることとなった。その他、伊藤喜商事株式会社から、自然科学系図書館のテーブル・椅子の寄付を受けた。今後も外部資金等の獲得に努めたい。

（４）施設整備・システム整備

学修支援機能の強化を目的としたラーニングコモンズ（LC）設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を、前年度と本年度の 2 年間で実施し、令和 5 年 3 月に竣工した。共創スペースとしての LC に相応しい什器と設備が充実した。前年度から建物老朽化対策経費等により改修工事を実施していた社会科学系図書館管理棟の外壁について、本年度に完成した。

図書館システムについては、令和 4 年 9 月のリプレースを大きなトラブルもなく予定通り完了させることができた。サーバのクラウド化（情報基盤センターのサービスを利用）、デジタルアーカイブシステムの図書館システムとの統合、施設予約等の新機能の追加が主な変更点である。また、システム更新に合わせてネットワークの構成についても見直しを行った。具体的には、事務系機器は事務系ネットワークに移行するとともに、自動貸出機及び利用者用の端末等については、それぞれのプライベートネットワークに移行した。今後はシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。

（５）図書館界での諸活動

本年度は国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業の実施担当として全国の大学図書館職員向けのフォーラムを開催し、参加者は 200 名を超えた。兵庫県大学図書館協議会では引き続き会長館、事務局として協議会の運営にあたった。国立情報学研究所（NII）の 1 部会の委員を務め、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）でも 1 作業部会員を務めた。国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会の委員を務めた。他機関・団体等が開催する研修等に、講師等として 4 名の職員が携わった。他機関との連携は参加する職員自身の資質向上にもつながるものであり、今後も推進が期待される。

◆コロナ禍の収束に向けて

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、前年度に引き続き閲覧席数を制限して開館を行った。一方で、平日夜間及び土日の時間外開館については、経済経営研究所図書館及び改修工事中のため閉館している自然科学系図書館を除く 7 つの図書館室にて再開した。時間外開館の再開もあり、本年度の年間入館者総数は 370,273 人となり、コロナ禍前の半数程度に留まるものの、前年度に比べると 2 倍近くまで増加した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として始めた、郵送による資料貸出やチャットによる利用者相談受付を本年度は通常サービスとして実施した。

学生の読書推進及び図書館利用・貸出促進のため、「読書マラソン」を 11 月 1 日から 1 月 16 日まで開催し、延べ 43 名が参加した。令和元年度まで毎年開催していたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていなかったイベントであり、3 年ぶりの開催であった。学生の多様なニーズを

直接選書に反映させる学生選書ツアーも、3年ぶりに書店で開催することができた。11月4日午前と午後の2回実施したツアーには学生17名が参加し、選ばれた図書172冊を図書館の蔵書として購入した。その他にも、会場での展示会開催や、卒業生等の一部学外者の利用再開など、コロナ禍の収束に向けた対応を進めた。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

《開館状況》

<4月>

	館室	平日	土曜	日曜
休業期 (4/1-4/4)	社会科学系図書館	8:45-19:00	10:45-17:00	10:45-17:00
	医学分館	8:45-19:00	休館	休館
	その他の館	8:45-17:00	休館	休館
授業期・試験期 (4/5-4/4/30)	総合・国際文化学図書館	8:45-21:00	休館	休館
	社会科学系図書館	8:45-19:00	10:45-17:00	10:45-17:00
	経済経営研究所図書館	8:45-17:00	休館	休館
	その他の館	8:45-19:00	休館	休館

※4月 は時間外開館要員の手配等、実施準備が整わないため、令和3年度第4回附属図書館運営委員会で承認された時間で実施

※祝日は休館

<5月以降>

	館室	平日	土曜	日曜
授業期・試験期	総合・国際文化学図書館	8:45-21:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	社会科学系図書館	8:45-20:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	経済経営研究所図書館	8:45-17:00	休館	休館
	その他の館	8:45-20:00	10:00-18:00	休館
休業期	社会科学系図書館	8:45-20:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	医学分館	8:45-20:00	10:00-18:00	休館
	その他の館	8:45-17:00	休館	休館

※5月以降は、令和3年度第5回附属図書館運営委員会で承認された時間で実施

※祝日は休館

※自然科学系図書館は改修工事に伴い令和3年12月1日から休館

※次の通り、臨時休館があった。

1/24、大雪のため全館17時以降臨時休館

1/25、大雪による交通機関の運休(神戸市バス)のため六甲地区の6館は終日臨時休館

- ・本年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」のレベルは終始「レベル1」であり、下表の方針に従って対応した。
- ・時間外開館再開については、前年度は社会科学系図書館と医学分館のみで時間を限定しての実施であったが、大学執行部に要望していた経費が予算配分されたことを受け、その他の館においても、下表に従い学生のアパート雇用が可能となった5月から、前頁の表のとおり実施した。
- ・学外者の入館は前年度から引き続き、原則不可としていたが、卒業生、放送大学生、EU 研究修了プログラム登録者、附属中等教育学校3年生以上の学生については、入館と貸出を2月13日から再開した。
- ・前年度に引き続き、密を避けるために閲覧席を間引いて供用した。令和5年4月から通常に復する予定。
- ・ラーニングコモンズでのグループ学習については、総合・国際文化学図書館と社会科学系図書館では10月以降可とした。令和5年4月からは人文科学図書館でも可とする予定。
- ・図書館利用証（学生証）の代わりに、スマートフォン上に表示させた利用者バーコードを読み取らせて入館ゲートを通過する「スマホ入館」を、経済経営研究所図書館と医学分館を除いた7館室で運用している。

レベル	図書館の対応
0(通常)	利用制限なし。時間外開館を行う。学外者を利用可とする。
1(一部制限)	現状どおりの感染症対策を行う。 時間外開館を行う(学生雇用が可能な場合)。 学外者を制限付き利用可とする。
2(制限-小)	時間外開館を中止する。学内者の滞在を2時間までとする。 学外者を利用不可とする。
3(制限-中)以上	座席利用、入館制限を検討する。

《入館状況》

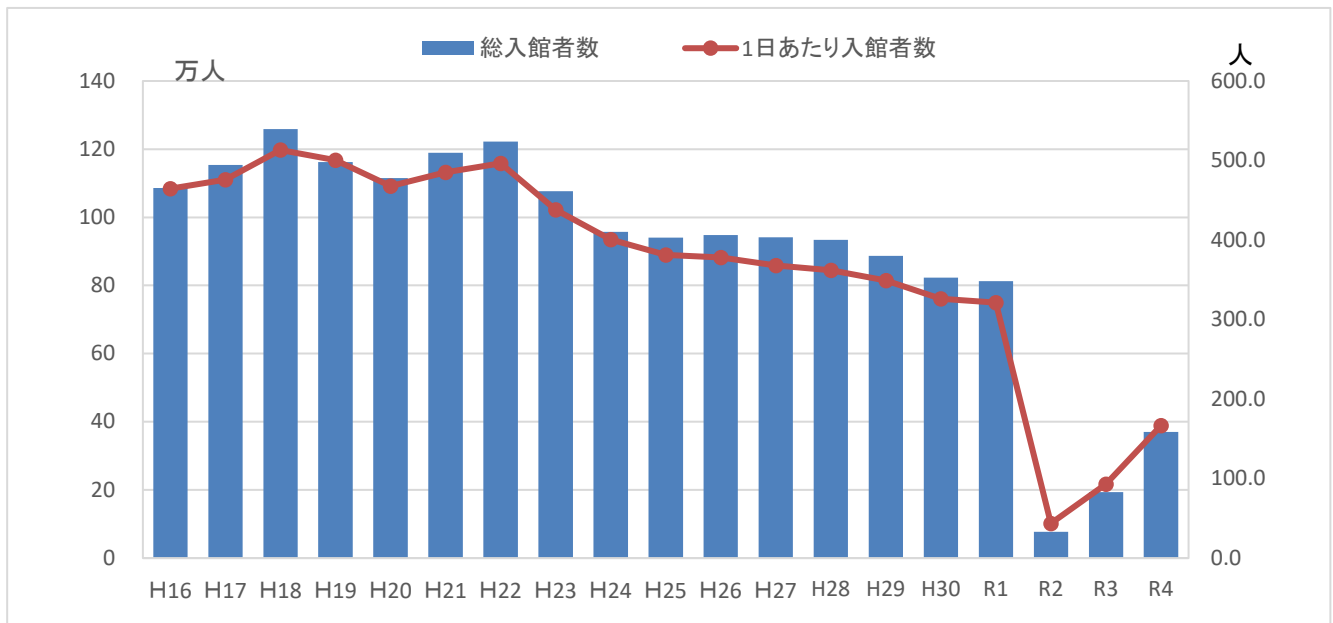
＜入館者数経年推移＞

平成16年度以降の年間総入館者数及び1日あたりの入館者数の経年推移を次に掲げる。

改修工事（平成20年度総合・国際、平成25年度社会系）及び入退館管理システム導入（平成23・24年度）があった年に入館者数が減少している。平成26年度以降についても緩やかに減少傾向であった。

令和2年度は感染症対策による休館、開館時間短縮、学生の入構制限などを反映し、令和元年度の1割程度に利用が減少したが、前年度は開館日数が増えたこともあり、入館者数は令和2年度の約2.5倍となり、本年度は時間外開館を再開したことで、自然科学系図書館が全期間休館であったにもかかわらず、入館者数は前年度の約1.9倍となり、コロナ禍前の令和元年度と比較しても、1日あたりの入館者数は約5割程度に回復した。

＜入館者数の推移＞



＜全館入館者数＞

	年間のべ 開館日数	年間総入館者数	1日あたり入館者数
R4/R3	1.06	1.9	1.8
R4/R1	0.88	0.46	0.52
R1 年度	2,528	812,400	321.4
R3 年度	2,088	193,979	92.9
R4 年度	2,219	370,273	166.9

- 表は、本年度の全館入館者数を前年度及び令和元年度と比較したものである。

＜通常開館＞

平日（時間内）1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R4/R3	2.77	2.24	－	1.86	1.52	1.25	1.26	2.04	1.80	1.91
R4/R1	0.47	0.68	－	0.99	0.47	0.39	0.43	0.79	0.40	0.57
R1 年度	858.8	525.7	317.5	229.3	194.6	12.4	266.4	135.6	181.9	302.6
R3 年度	145.0	160.2	155.2	122.3	60.3	3.8	90.9	52.5	40.4	90.2
R4 年度	401.6	358.2	0	227.2	91.9	4.8	114.3	106.9	72.6	172.0

- 表は1日あたりの入館者数（平日 17:00 まで）を、本年度と、前年度及び令和元年度とを比較したものである。
- 前年度と比較すると、館によってばらつきがあるが全体として約 2 倍弱となっている。またコロナ禍前の令和元年度と比較すると、全体としては約 6 割弱に回復している。人文科学図書館がほぼ同

レベルに回復しているのが目立つ。

<夜間開館>

平日夜間（17:00～）時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R4/R3	－	1.66	－	－	－	－	2.08	－	－	1.76
R4/R1	0.30	0.34	－	0.67	0.43	－	0.19	0.15	0.21	0.31
R1 年度	160.4	83.2	83.5	56.6	28.2	－	63	22.7	41.1	67.8
R3 年度	－	16.9	－	－	－	－	5.8	－	－	12.1
R4 年度	48.5	28.1	－	37.9	12.1	－	12.0	3.6	8.5	21.3

- ・ 前年度に夜間開館を実施した社会系と医学の2館について、それぞれ前年度比約1.7倍、約2倍であった。またコロナ禍前の令和元年度と比較すると、館によって15%から2/3程度とかなりばらつきがあるが、全体としては3割程度の回復にとどまっている。

<土曜（・日曜）開館>

土曜（・日曜）の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R4/R3	－	0.78	－	－	－	－	－	－	－	0.78
R4/R1	0.29	0.32	－	0.72	0.37	－	0.31	0.43	0.23	0.37
R1 年度	204.3	259.3	137.4	86	38.3	6	85.2	36.5	71	134
R3 年度	－	105.5	－	－	－	－	－	－	－	12.1
R4 年度	59.39	81.88	－	62.23	14.33	－	26.73	15.57	16.23	49.23

- ・ 前年度に土曜開館を実施した社会科学系図書館について、前年度比8割弱となった。またコロナ禍前の令和元年度と比較すると、館によって23%から7割程度とかなりばらつきがあるが、全体としては37%程度の回復となっている。

<祝日授業日開館、試験期特別開館>

- ・ いずれも本年度は実施しなかった。

<24時間開館>

- ・ 医学分館で、医学部・医学研究科・保健学研究科・附属病院所属者を主対象として平成9年度から実施しているが、令和2年4月8日以降新型コロナウイルス感染症対応のため、本年度も引き続き休止した。

◆評価と課題

本年度は時間外開館を従来の実施館の全館で再開したこともあり、年間総入館者数は370,273人で前年度の1.9倍、また1日あたり入館者数は1.8倍となった。コロナ禍前の令和元年度と比較すると、年間総入館者数では46%、1日あたり入館者数は52%の回復にとどまっているが、前年度に引き続き、密を避けるために閲覧席を間引いて供用したことも影響していると考えられる。別項「(3) 資料提供サービスと利用促進」で見ると、貸出数は令和元年度実績のレベルに回復しており、入館者の利用目的として資料貸出の他に個人学習の需要の高さが、感染症流行下の入館者統計に反映されていると推察す

る。加えて自然科学系図書館が改修のため終始休館であった影響も見逃せない。自然科学系図書館のサービス対象学部と比較的近く、休館の間利用者の ILL 窓口館となった人文科学図書館の入館者の回復が他館と比較して目立つのも、改修の影響が要因の一つと推察される。

令和 5 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症となることに伴い、次年度はいわゆるアフターコロナの状況となるが、入館者数がどのように推移していくか注視していきたい。またリニューアルオープンした自然科学系図書館を積極的にアピールまた活用して、入館者の増加に取り組んでいく必要がある。その一方で、予算の都合で時間外開館の規模（時間及び実施日）を縮減せざるを得ず、その影響を把握して縮減の措置（対象館や時間等）が適切であるか検証しつつ対処する必要がある。

（２）学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

＜資料費予算と重点整備＞

- 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算（図書館セグメント）から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費（部局セグメント）を合わせて実施することとなっている。
- 本年度の学生用資料費予算は 40,000 千円、前年度と同額を維持し、前年度の配分方法を踏襲して各館室へ配分した。また電気料金等の大幅な価格上昇が予想されたため年度当初は執行を 50%保留、以後光熱水料の執行状況を踏まえて漸次見直しが行われ、11 月 7 日をもっていったん保留は撤廃されたものの、その後図書館予算に大幅な赤字が見込まれたことから 1 月 31 日に以後の学生用資料費の執行は原則停止となった。3 月に入り残額調整のため一部対応可能な館室が追加の発注を行っているが本年度は当初予算と執行額が異なり、予算に対する各館室の執行率は中央値で 90%台前半にとどまった。
- 平成 28 年度から E-Study 事業費は独立した予算項目とした。本年度予算は前年度から変更なく 4,664 千円である。
- 平成 18 年度から震災文庫資料費（400 千円）は独立した予算項目となっている。
- 平成 16 年度から実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（663 冊）、社会科学系図書館（965 冊）、自然科学系図書館（648 冊）、人間科学図書館（397 冊）において実施し省力化・合理化を進めた。なお保健科学図書室については、購入点数も少なく省力化があまり見込めないことから平成 29 年度から装備付納品を中止した。

＜各館室の整備状況＞

R4 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	1,793	153	2,055	901	373	522	18	552	308	697	7,372
雑誌種数	70	19	14	116	15	64	0	130	60	67	555

- 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

＜選書体制と収集方針＞

- 平成 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。

- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- ・ また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの）を平成 22 年度から実施している。令和 2 年度および前年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインによる電子ブック選書にて実施したが、本年度はジュンク堂書店三宮店において 11 月 4 日に店頭選書を実施した。あわせて 17 名の学生（学部生 12 名、院生 5 名）が参加して選書を行い、172 冊を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取組を継続する方針である。

＜選書評価＞

- ・ 平成 18 年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。本年度末には、令和 3 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。（令和 4 年度第 5 回附属図書館運営委員会で報告）

＜電子ブックの整備と利用結果＞

- ・ 日本語の学術図書を中心に電子ブックを提供する Maruzen eBook Library の購入数（雑誌はタイトル数）と利用状況を下に示す。新型コロナウイルス感染症の流行をうけ購入数を大幅に増加させた令和 2 年度および前年度と比較すると本年度の購入数はコロナ禍前の水準に戻っているが、利用数は前年度とさほど遜色なく電子書籍の利用が定着していることが伺える。

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
購入数	55	176	95	249	209	593	839	224
利用数	117	366	921	1,765	3,005	15,171	33,133	31,763

R2 年度、R3 年度の利用数には電子ブッククリックエストキャンペーンの試読含む

◆評価と課題

平成 26 年度以降令和 2 年度まで減額が続いていた学生用資料費だが、本年度は予算額こそ前年度同様、前年同額を維持したものの上述の通り光熱費等の高騰の影響を受け執行が保留され、各館室の予算執行率は中央値で 90%台前半にとどまった。今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため可能な限り予算規模の維持が望まれる。新型コロナウイルス感染症に関しては令和 5 年 5 月から学外一般の入館・貸出も再開されている。とはいえコロナ禍前への単純な回帰はありえない。資料構築の面では冊子と電子媒体の双方を、予算と利用実態を考慮しながら整備していくべきと考える。

（３）資料提供サービスと利用促進

貸出及びデリバリーサービス（＝図書配送）冊数等の詳細は、＜付録＞基本統計表のとおりである。相互利用サービスについては、2（４）に後述する。

《貸出サービス》

通常の貸出サービスに加えて、入館制限への対応および新型コロナウイルス感染症対策として令和 2 年度から実施している、以下の非来館型サービスを、本年度も引き続き行った。

- ・ Web での延長回数を無制限に
平成 26 年 10 月から、対面による貸出の延長回数を無制限としているが、令和 2 年度から感染症対策の一環として、Web サイトの「アカウントサービス」からの延長も無制限とした。
- ・ 郵送貸出
学生（学部生、院生）を対象に、郵送による資料貸出を実施した。

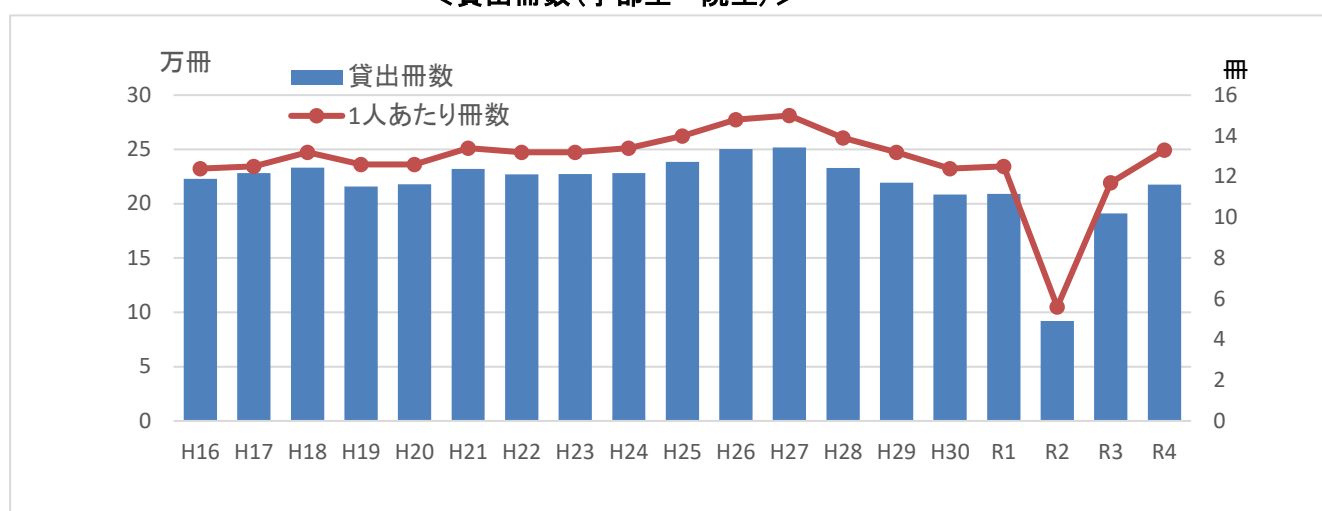
＜郵送貸出数＞

	R2		R3		R4	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
総合・国際	77	476	18	44	2	6
社会系	58	189	33	115	10	49
自然系	23	76	4	13	1	5
人文	83	243	9	20	0	0
人間	45	197	7	21	0	0
研究所	0	0	1	1	0	0
医学	15	29	1	5	0	0
保健	7	24	8	35	1	5
海事	6	16	4	10	0	0
計	314	1,250	85	264	14	65

・本年度は開館日数がコロナ禍前の令和元年度の約 88%にまで戻ったこともあり、前年度の約 1/4 程度の冊数となった。

＜貸出冊数（学部生・院生）経年推移＞

＜貸出冊数(学部生・院生)＞



平成 16～令和 4 年度の経年推移を上に掲げた。

- ・本年度の貸出冊数は 217,652 冊であり、前年度比約 1.14 倍となった。

- ・ 学生 1 人当たりの貸出冊数は 13.3 冊（前年度：11.7 冊）であった。
- ・ 学部生の貸出数は 125,707 冊、1 人あたりの貸出冊数は 10.8 冊（前年度比約 1.14 倍）、大学院生の貸出数は 91,945 冊、1 人あたりの貸出冊数は 19.4 冊（同約 1.13 倍）であった。

＜館室別学部生・院生貸出冊数＞

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R4/R3	1.16	1.51	－	1.11	1.16	1.43	0.93	1.49	1.77	1.14
R3	49,808	50,225	25,005	18,243	20,539	890	6,525	8,831	10,974	191,040
R4	57,831	75,901	0	20,167	23,832	1,272	6,051	13,173	19,425	217,652

- ・ 館室別の貸出数を前年度と比較した結果、前年度比にばらつきがみられた。

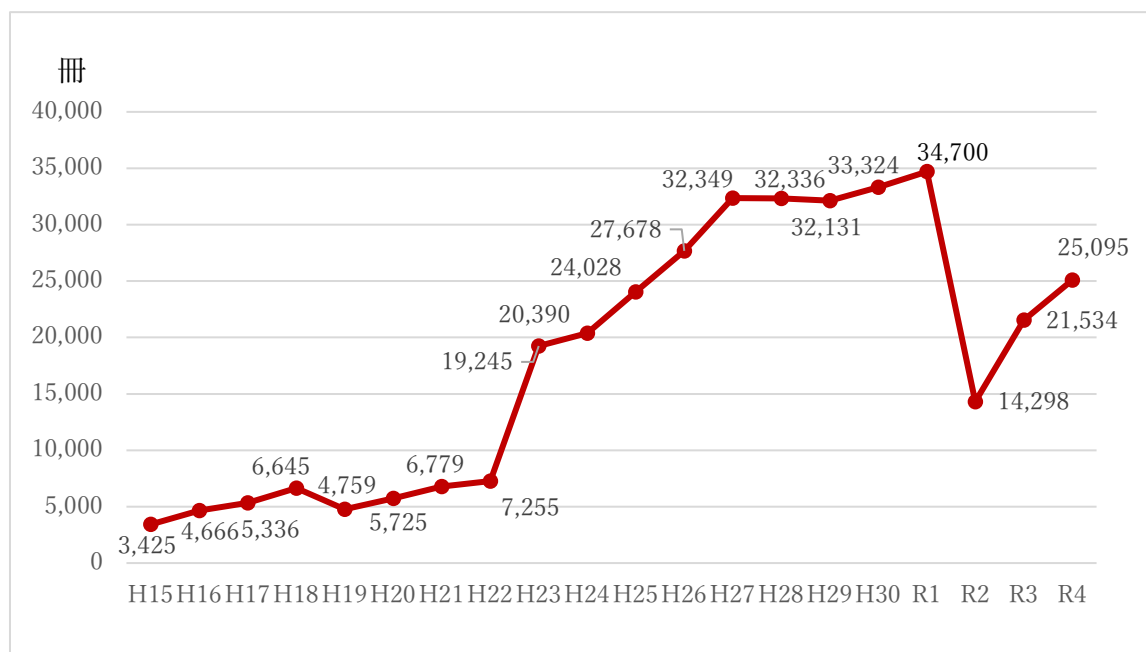
＜卒業生及び修了者に対する貸出＞

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月に始まった。令和 2 年 4 月 9 日の臨時休館以降、在籍者以外の利用を停止していたが、令和 5 年 2 月 13 日から入館と貸出を再開した。

《デリバリーサービス》

＜デリバリーサービスの推移＞

＜デリバリーサービス貸出冊数推移＞



デリバリーサービスは、学内の図書館にある資料を最寄りの図書館に取り寄せるサービスであり、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間には学部学生も）を対象に始まった。平成 23 年度から六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大した。平成 27 年度には経済経営研究所図書館が加わり、全館室でサービスを利用できる体制が整った。

＜館別デリバリーサービス取扱冊数＞

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
R4/R3	1.11	1.42	0.00	1.51	1.07	1.08	0.99	1.14	1.27	1.17
R3 年度	10,977	7,266	3,354	9,633	5,511	710	1485	1491	2,641	43,068
R4 年度	12,178	10,333	0	14,506	5,874	768	1474	1698	3,359	50,190

- ・ 上の表は、館別に本年度の発送冊数と受取冊数を合算し、前年度と比較したものである。
- ・ 発送冊数と受取冊数を合算しているため、貸出冊数の2倍の数値になっている。
- ・ 本年度は、前年度の約1.17倍であった。

＜附属中等教育学校への図書貸出サービス＞

附属中等教育学校に対する図書貸出サービスは、平成24～28年度の間、総合・国際文化学図書館と人間科学図書館の2館が所蔵する図書について「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができるまでの5年間限りの特別措置として始まった。その後これを継承するものとして、平成29年3月「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」が附属学校部長と附属図書館長の間で締結され、平成29年度からは、配送による貸出サービスに加え、中等教育学校生徒が総合・国際文化学図書館と人間科学図書館に直接来館して貸出を受けることができるようになり、デリバリーサービスの集配場所に附属中等教育学校図書室を加えることで手続きの簡素化を図った。令和2年度からは試行として、前期課程3年次生（中学3年生）から利用可とするとともに、社会科学系図書館、自然科学系図書館の所蔵資料を配送貸出により利用可とし、令和3年10月からは試行として全館室の所蔵資料を配送貸出により利用可とした。この経緯を踏まえて、令和4年8月に「附属中等教育学校への図書の貸出サービスに関する申し合わせ」を改めて締結し、令和2年度以降の試行内容を本年度から正式サービスとした。

なお、令和2年3月以降は学外者同様、来館利用を停止していたが、令和5年2月13日から再開した。

＜貸出冊数＞

カッコ内は直接来館による貸出数（内数）

館室名 /年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
総・国	134	11	0	246	135	92(37)	20(17)	264(261)	15	0	161(123)
人間	7	25	7	7	54	3(3)	8(8)	3(3)	4	0	12
社会系	－	－	－	－	－	－	－	－	4	2	19
自然系	－	－	－	－	－	－	－	－	0	3	13
その他の館室	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	6
合計	141	36	7	253	189	95(40)	28(25)	267(264)	23	5	211(123)

※本年度の総合・国際における直接来館貸出数のうち120冊は、授業において教員引率のうえ見学で来館した際に貸出

※本年度のその他の館室貸出数の内訳：人文1、医学4、保健1

《利用促進》

＜テーマ図書展示＞

平成 26 年度から全館で共通テーマを設定して、所蔵図書館からテーマに沿った図書を館員が選び、期間を決めて展示する取組を実施している。

共通テーマ展示としては、従来の「レポート・論文の書き方」に加えて、本年度は新たに「夏休みに読みたい本」と「神戸／神戸大学ゆかりの図書」もテーマに設定し、それぞれ複数館で実施した。各館で設定するテーマについても、専門とする分野に関連したものや、館の近隣で開催した展示会やイベント等にコラボしたものとするなど、工夫して実施した。

展示の種類	テーマ	実施館	実施開始月
共通テーマ展示	レポート・論文の書き方	総合・国際文化学図書館	4 月
		社会科学系図書館	4 月
		人文科学図書館	5 月
		人間科学図書館	4 月
		経済経営研究所図書館	4 月
		医学分館	5 月
		保健科学図書室	6 月
		海事科学分館	4 月
	夏休みに読みたい本	総合・国際文化学図書館	7 月
		人文科学図書館	7 月
		人間科学図書館	7 月
		海事科学分館	7 月
	神戸／神戸大学ゆかりの図書	総合・国際文化学図書館	10 月
		社会科学系図書館	10 月
		人間科学図書館	10 月
		経済経営研究所図書館	10 月
		海事科学分館	10 月
巡回展示	SDGs 推進室／V.School 推薦図書～SDGs と価値創造を知るための 30 冊～	人文科学図書館	4 月
		保健科学図書室	5 月
テーマ展示	医学生による医学生のための英語おすすめ本	医学分館	4 月
	関西経済の先人たち	社会科学系図書館	7 月
	SDGs を考える(ゴール 5～6)	経済経営研究所図書館	7 月
	あなたはどっち派?おすすめの電子ブックと図書	医学分館	7 月
	オープンキャンパスミニ展示	海事科学分館	8 月
	山口誓子特別展「誓子と宙(そら)」関連展示	人文科学図書館	9 月
	読む・見る・歩く 神戸	人文科学図書館	10 月
	神戸大学史・特別展「神戸大学 120 年ー創立 120 周年記念ー」関連展示	人文科学図書館	11 月
	海に親しむ	人文科学図書館	12 月
	神戸新聞連載特集:21 世紀の人文科学 ～第 4 弾～	人文科学図書館	12 月

読むくすり	総合・国際文化学図書館	1 月
そこそこ評価されているのに一度も貸出されていない図書	社会科学系図書館	1 月
筋トレノススメ	人間科学図書館	1 月
SDGs を考える(ゴール 7～9)	経済経営研究所図書館	1 月
医の道を志す人に贈る本	医学分館	1 月
教員推薦図書	海事科学分館	1 月
神戸新聞連載特集:21 世紀の人文科学 ～第 5 弾～	人文科学図書館	2 月

＜テーマ図書展示実施回数＞

H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
31	37	44	49	47	50	12	37	36

＜イベント＞

・読書マラソン

読書推進および図書館利用・貸出促進のための企画である。エントリーして図書館の本を読み、内容や感想を専用フォームから投稿するとポイントを獲得でき、そのポイント数によって図書館オリジナルグッズが貰えるというもの。令和元年度に 2 回目を実施して以来、3 年ぶりに実施した。期間は 11 月 1 日～1 月 16 日。

前回の実績を踏まえ、以下のようにいくつかの変更や新規取組を加えた。

- ・対象は総合・国際文化学図書館から、休館中の自然科学系図書館を除く全館に変更
- ・ポイントカードは紙のものからネットワーク上の「LINE ショップカード」に変更
- ・読書感想の提出は紙の読書カードからネットワーク上の「読書のきろく」フォームに変更
- ・期間は 2 ヶ月から 2 ヶ月半に変更
- ・景品獲得条件を 10 冊達成から 3,6,10 冊達成に変更

異なり参加者数（1 回でも読書の記録を送った参加者数）は 43 名で、前回の読書カード提出者 19 名から 2 倍以上となり、10 冊達成した完走者数も 19 名と、前回の 13 名と比べて 1.5 倍となった。



◆評価と課題

本年度の学部生・院生への貸出冊数は 217,652 冊であり、前年度比約 1.14 倍となった。一日あたりの入館者数が前年度比約 1.8 倍であるのと比べれば緩やかな増加ではあるが、コロナ禍前の令和元年度の 209,180 冊を超えており、貸出冊数は平成 30 年度の 208,442 冊を底に回復傾向である。これは令和元年度の学部学生貸出可能冊数上限の 10 冊への増加や、Web での延長回数の無制限化といった施策も要因の一部と考えられる。感染症流行下における非来館型の図書館サービスとして、郵送による資料貸出を本年度も継続して行ったが、開館日数が増えたこともあり前年度の 1/4 程度、令和 2 年度の約 5% の冊数となり、主なサービスから補足的サービスとなった感がある。

利用促進においては、前年度に実施した「オンライン読書室」や電子ブックを利用した「仮想展示」といった非来館型の取り組みに代えて、本を借りて読むことを促進する来館型のイベント「読書マラソン」を、ネットワーク上のツールを利用することで非来館型のノウハウも活用しつつ実施し、アンケートでも好評価を得た。今後は図書館の利用促進に寄与するべく、対面型と非来館型それぞれの利点と実

施におけるノウハウを生かしつつ、取り組んでいきたい。

（４）図書館相互利用（ILL）サービス

＜相互利用サービス＞

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
複写	受付	R4/R3	0.7	0.8	0.0	0.7	0.9	0.7	1.0	0.8	0.8
		R3 年度	275	3,486	317	361	397	192	1,016	369	6,577
		R4 年度	183	2,765	0	249	359	138	986	304	5,112
	依頼	R4/R3	0.5	0.6	1.8	1.0	0.6	0.5	0.8	0.9	0.8
		R3 年度	867	725	422	923	918	101	345	293	4,653
		R4 年度	420	470	773	892	563	51	273	260	3,758
貸借	受付	R4/R3	0.6	0.8	0.0	1.3	0.9	0.7	0.7	1.0	0.8
		R3 年度	644	1,190	54	320	217	30	16	18	2,596
		R4 年度	393	1,008	0	412	203	21	11	18	2,148
	依頼	R4/R3	0.7	0.9	1.1	0.8	0.4	1.3	0.6	2.0	1.1
		R3 年度	211	168	81	556	137	3	16	2	1,202
		R4 年度	153	154	89	418	55	4	10	4	919

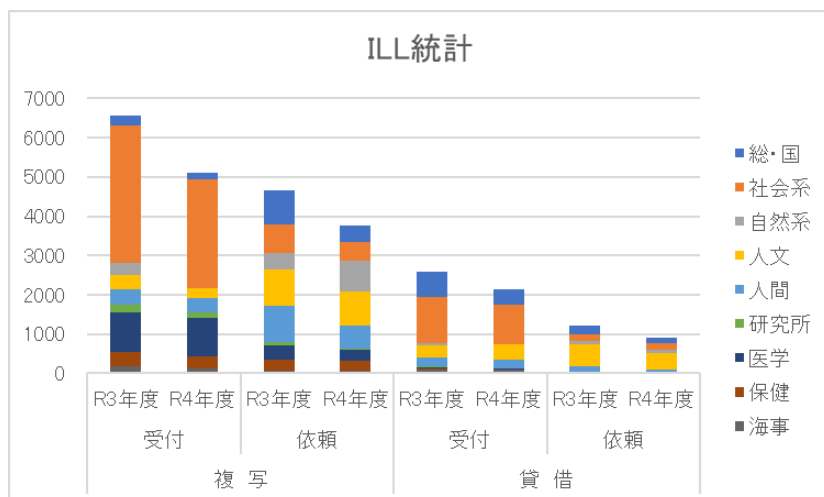
- ・ 館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付・依頼、貸借の受付・依頼が 0.8 倍と軒並み減少であった。なお、自然科学系図書館はリニューアル工事のため、本年度は複写・貸借いずれも受付を行わなかった。

◆評価と課題

本年度は前年度に比べ、国内全体で新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置が緩和され、来館型の資料利用が増えたこともあり、図書館相互利用（ILL）サービスの文献複写の受付・依頼、現物貸借の受付・依頼ともに減少した。

ILL サービスの利用件数の減少傾向は、電子ジャーナルや電子書籍の普及によるもので、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置を行う前から見られる。

社会科学系図書館は、複写は学内全体の約 54%、貸借は約 47%を受け付けており、同館が人文・社会科学系の外国雑誌センター館として、その責務を果たしていることがわかる。



(5) 学生との協働及び学生参加型の取組

<附属図書館学生チーム ULiCS>

学生との協働を目的に平成 27 年 10 月に発足した「附属図書館学生チーム ULiCS (うりくす)」は本年度末時点で 10 名が参加している。定例会として職員とのミーティングをふた月に一度程度開催し、それ以外に学生のみもしくは活動中のグループごとの打合せは随時行っている。本年度の活動状況は、以下のとおりである。

4 月	『The ULiCS Times』第 11 号発行。図書館での掲示・配布と HP での公開
4/3	WEB 新入生歓迎祭にオンラインで参加、団体紹介冊子や新歓 Web サイトに新歓チラシ掲載
4/8	まごまご読書倶楽部(読書会)①テーマ「読む途中で挫折した本」(Zoom にて)
5/27	ULiCS 第 1 回定例会(鶴一キャンパス A 棟4階中会議室)
7/18	まごまご読書倶楽部(読書会)②テーマ「おすすめコンテンツプレゼン会」(Zoom にて)
7/21	ULiCS 第2回定例会 (Zoom にて)
7/27	ULiCS 企画イベント「化石本発掘」(総合・国際文化学図書館)
8 月	ULiCS 文庫①(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
8/22	まごまご読書倶楽部(読書会)③テーマ「夏休みに読みたい本」(Zoom にて)
9/9	第 11 回大学図書館学生協働交流シンポジウム参加 (Zoom にて)
9/23	まごまご読書倶楽部(読書会)④テーマ「お腹がすく本」(Zoom にて)
9/27	ULiCS 第 3 回定例会(鶴一キャンパス A 棟4階中会議室での対面と Zoom にて)
10 月	ULiCS 文庫②(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
10 月	『The ULiCS Times』第 12 号発行。図書館での掲示・配布と HP での公開
10/25	秋新歓にブース出展(鶴一キャンパス食堂横ホール)
10/30	まごまご読書倶楽部(読書会)⑤テーマ「秋のおすすめ新刊」(Zoom にて)
11/9~22	ULiCS 企画イベント「クイズラリー『兵庫の旅』」(図書館共通テーマ展示『神戸/神戸大学ゆかりの図書』とコラボ)(総合・国際文化学図書館)
11/10	ULiCS 第 4 回定例会(社会科学系図書館 6 階会議室)
11/23	まごまご読書倶楽部(読書会)⑥テーマ「果」(Zoom にて)

12 月	ULiCS 文庫③神戸大学出版会とのコラボ展示(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
12/14	ULiCS 第 5 回定例会(鶴一キャンパス A 棟4階中会議室)
12/23	まごまご読書倶楽部(読書会)⑦テーマ「MY BEST BOOK in 2022」(Zoom にて)
1 月	ULiCS 文庫④(総合・国際文化学図書館内 ULiCS 展示スペース)
1/29	まごまご読書倶楽部(読書会)⑧テーマ「USAGI」(Zoom にて)
1/30	神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会 (Zoom にて)
2/22	ULiCS 第 6 回定例会(社会科学系図書館 6 階会議室での対面と Zoom にて)
2/24	まごまご読書倶楽部(読書会)⑨テーマ「タイトルが短い本」(総合・国際文化学図書館 2 階ラーニングコモンズ)
3 月	『The ULiCS Times』第 13 号を校了。4 月初旬から配布・公開予定
3/13	ULiCS 第 7 回定例会(総合・国際文化学図書館グループ学習室 C・D での対面と Zoom にて)
3/28～29	春新歓(総合・国際文化学図書館グループ学習室 E)
3/30	まごまご読書倶楽部(読書会)⑩テーマ「3」(総合・国際文化学図書館グループ学習室 C・D での対面と Zoom にて)

上記以外に、メンバー募集のための新歓ポスターの作成や Twitter による広報を行っている。
(例：定例会の開催報告を発信、質問箱の設置など)

ULiCS の活動に関する職員側の対応は、図書館アウトリーチ WG が担当している。

<学生協働関連イベント等への参加>

引き続きコロナ禍の中、オンラインによるイベント開催を模索。前年度に続き神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターとの交流会を企画、オンラインでの開催を実現した。また、2 年ぶりの開催となった「大学図書館学生協働交流シンポジウム」にオンラインにて参加した。

<その他の企画>

「うりくす文庫」

総合・国際文化学図書館 2 階展示コーナーにて、約 2 か月に 1 度の更新頻度で実施中。

「化石本発掘」

図書館に対し、勉強以外でも気軽に利用できる場という認識を普及させるという目的で企画された「体験型・ゲーム形式」イベント。

「クイズラリー」

図書館共通テーマ展示『神戸/神戸大学ゆかりの図書』とのコラボ企画。

◆評価と課題

ULiCS は、発足 7 年目となった。定例会や読書会の対面とオンライン併用型での開催、また ULiCS 発案イベントの開催も意欲的に行った。定例会をおおよそ 2 か月毎開催、また複数の ULiCS による

企画イベントを実施ができたのは評価できる点である。参加学生数の多寡や個々人の忙しさによって活動メンバーが固定され気味であることは否めないが、企画発案も活発になり、徐々にチームが自発的に活動できるようになってきている。活動が維持できるよう引き続きサポートに努めたい。

（６）情報リテラシー教育の推進支援

＜情報基礎＞

- ・ 全学共通授業科目「情報基礎」は平成 20 年度から 1 コマ全体（90 分）が「情報の活用」にあてられ、情報リテラシー係と各館室のサービス係員を中心に構成される「情報リテラシー教育支援 WG」が担当している。
- ・ 本年度は 5 月を中心に実施し、学部新入生全員に補講受講者を加えた 2,668 人（23 クラス）が受講した。
- ・ 令和 2 年度から、BEEF（神戸大学 LMS）を活用したオンデマンド型遠隔授業として実施している。
- ・ 教材として授業内容をまとめた動画を作成し、附属図書館公式 YouTube チャンネルから公開した。また授業後に提出する課題は非来館型の内容とし、授業の質問は専用のフォームおよびチャットから受け付けた。
- ・ 授業内容は、図書館 Web サイトや各種 Web サービス、データベースの紹介のほか、OPAC と CiNii Books を使った検索実習、資料の引用方法等、初歩的な内容としている。電子ブックの説明等、来館せずに利用できるサービスについても説明した。
- ・ ちからだめし（授業の理解度テスト）の正解率は本年度も高く、全クラスの平均正解率はすべての設問で 8 割以上となった。
- ・ 授業後の受講生アンケートは、すべての項目で肯定的な回答が 9 割を超えた。
- ・ 授業後の受講生アンケートや教員からの意見等を踏まえ、次年度に向けて授業内容やテキスト、課題、ちからだめしの再検討を行った。

＜初年次セミナー＞

- ・ 平成 28 年度から設けられた各学部専門科目「初年次セミナー」では、各館サービス係が中心となり、教員の希望に沿った図書館ツアーや検索ガイダンスを計画、実施している。
- ・ 前年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンデマンドやオンラインで利用案内を行う学部があったが、本年度はすべて対面で実施した。

実施日	内容	回数	人数	場所
4/15, 4/22	[経済学部] 社会科学系図書館の館内ツアー	2	72	社会科学系図書館
4/18	[理学部 化学科] 図書館の利用案内、文献検索の方法	1	32	理学研究科棟
4/22, 5/2, 5/6, 5/13	[国際人間科学部 グローバル文化学科] 総合・国際文化学図書館の館内ツアー、 社会科学系図書館の館内ツアー* *社系ツアーは 1 クラスのみ実施	18	136	総合・国際文化学図書館 社会科学系図書館
4/22	[工学部 応用化学科] 図書館の利用案内、文献検索の方法	1	106	工学研究科棟

4/22	[国際人間科学部 環境共生学科] 人間科学図書館の館内ツアー	1	84	鶴甲第2キャンパス
4/22, 5/2	[海洋政策科学部] 海事科学分館の館内ツアー	5	200	海事科学分館
4/25, 5/9, 5/16, 5/30	[法学部] 社会科学系図書館の館内ツアー、 文献検索の方法* *文献検索の方法は2クラスのみ実施	8	160	社会科学系図書館 六甲台第1キャンパス
5/6	[国際人間科学部 発達コミュニティ学科] 人間科学図書館の館内ツアー、 文献検索の方法	1	22	人間科学図書館
5/13	[国際人間学部 子ども教育学科] 人間科学図書館の館内ツアー、 文献検索の方法	1	50	人間科学図書館 鶴甲第2キャンパス
合計		38	862	

＜ガイダンス等＞

- ・ 情報リテラシー係と情報リテラシー教育支援 WG メンバーが中心となり、以下の表の通り、ガイダンス等を実施した。
- ・ 実施方法は、対面またはリアルタイムでのオンライン実施、オンデマンド型授業のための資料提供がある。
- ・ ベンダーに講師を依頼したデータベース講習会 4 回を除き、講師は職員が務めた。
- ・ 図書館主催ガイダンスのうち職員が講師を担当した 4 回は昼休みの 30 分間を使い、要点をコンパクトにまとめた内容とした。またベンダーに講師を依頼したデータベース講習会は、学内限定で動画を公開している。
- ・ 例年 4 月ごろに各館室が実施する新入生向けの図書館ツアーは、本年度は全て、利用者が各自で館内を見学するセルフツアーとした。

◆オーダーメイドガイダンス、図書館ツアー（職員が講師を担当）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
4 月～	対面	各種データベース（OPAC・論文データベース・文献管理ツール）の使い方、参考文献の書き方等を依頼者の希望に沿って実施	25	345
	オンライン		4	119
	オンデマンド		13*	480*
	対面+オンライン		1	14
合計			43	958

* 回数、参加人数は概数

◆図書館主催ガイダンス （職員が講師を担当）

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
6/28, 6/30, 11/17	オンライン	日本語論文の探し方（CiNii Research）、 論文本文の入手方法	3	25

10/20	オンライン	英語論文の探し方(Web of Science 初級編)、 論文本文の入手方法	1	6
小計(職員担当分)			4	31

(ベンダーに講師を依頼)

実施日	実施方法(会場)	内容	回数	人数
6/21, 6/23	オンライン	SciFinder-n 講習会	2	15
6/29	オンライン	eol 講習会	1	21
10/27	オンライン	Web of Science 講習会	1	15
小計(ベンダー担当分)			4	51
合計			8	82

* 参加人数は申込者数

◆その他(職員派遣)

実施日	実施方法（会場）	内容	回数	人数
4 月	対面	新入生オリエンテーション等	4	433*
	オンライン		1	370*
	オンデマンド		-	58
合計			-	861

* 参加人数は概数

◆新入生向け図書館セルフツアー

実施日	会場	内容	人数
4/1～4/28	総合・国際文化学図書館	館内に設置されたクイズに答えながら施設・所蔵資料・図書館サービス等について知る	45
4/1～5/31	社会科学系図書館		30
4/4～6/10	人文科学図書館		26
4/11～5/31	人間科学図書館		34
4/4～4/28	医学分館		9
4/1～4/28	保健科学図書室		0
4/1～6/10	海事科学分館		8
4/1～6/10	経済経営研究所図書館		6
合計			158

＜ガイダンスに関する全学アンケート＞

- ・ 令和5年1月16日から2月17日にかけて、学生および教職員を対象としたガイダンスに関する全学アンケート(無記名式、Webフォーム使用)を実施し、92名から回答を得た。
- ・ 回答者の内訳は、学部1・2年44名、学部3・4年28名、修士11名、博士4名、教員2名、職員1名、専門職学位課程1名、専門職大学院1名である。所属は、国際人間科学部と文学部で全体の3割ほどを占める。
- ・ 回答者の約半数が、図書館職員によるガイダンス(授業内または図書館主催)に参加したことがなかった。
- ・ ガイダンスに参加したい時間帯を尋ねたところ、参加者が時間を選ぶことができるオンデマンド形式を希望する意見が最多だった。

＜パスファインダーKULiP＞

- ・平成 25 年度から、図書館による学修支援の一環として KULiP（クリップ／Kobe University Library Pathfinder）を運用している。授業シラバスに沿った指定書および授業内容に関連した資料を担当教員のコメント付きで紹介する「授業資料ガイド」に、「資料／情報の探し方ガイド」「セルフラーニング（セミナー、ガイダンス配布資料等）」を加え、総合的パスファインダーとして発展させてきた。本年度は「授業資料ガイド」を 46 件作成（累計 87 件）した。また「セルフラーニング」を 9 件新規作成（累計 41 件）し、17 件更新した。
- ・「授業資料ガイド」の運用方法について、参加授業数が増えた場合にも対応可能なよう、情報リテラシー教育支援 WG で省力化を検討している。
- ・セルフラーニング「レポートの書き方」の作成に際しては、附属図書館研究開発室教育研究支援部会の協力を得た。

＜チャットによるレファレンス＞

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により来館が難しい利用者に対するサービスとして、令和 2 年 5 月に、チャットによるオンラインレファレンス（利用案内／参考調査）の受付を開始した。利用者にとっては来館やメール送信による問い合わせよりも敷居が低いと考えられたため、本年度も継続して行った。
- ・問い合わせの内容は開館時間の確認、アカウントサービス（貸出期間の延長や予約等）に関するもの、データベースの使い方、文献調査等、多岐にわたる。
- ・本年度のチャットによるレファレンス実績は以下の通り。

(件数)			
問い合わせ項目	R 2	R 3	R4
1. 施設案内	2	2	4
2. 学内所在調査	4	8	22
3. 文献調査	11	28	12
4. 端末関係質問	2	2	3
5. 図書館サービス案内	119	153	111
6. その他	8	15	30
合計	146	208	182

＜広報＞

- ・ガイダンスやイベントの情報はポスター、チラシ、図書館および大学 Web サイトのお知らせ欄、ツイッター等、さまざまな媒体を通じて広く発信することを心掛けている。
- ・平成 27 年度から運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視するとともに、各館のユニークな発信を心がけている。とくに災害による臨時閉館やシステム停止等、速報性が求められる告知において重要なツールとなっている。

◆評価と課題

全学 1 年生の必修科目「情報基礎」は、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができる機会であることに加え、図書館利用者の教育という面でも大きな効果がある。令和 2 年度からオンデマンド型遠隔授業として実施するため動画教材を提供しているが、授業内容を問う「ちからだめし」の正解率は対面授業で実施した年度よりも高く、授業後のアンケートでも、分かりやすかったという回答が多数見られ

た。

開講から7年目となる「初年次セミナー」は、授業で図書館を活用できることが教員に認知されつつあるようで、館内ツアーに加えて文献検索ガイダンスを希望されることが増えた。「情報基礎」と共に新入生が図書館利用法を学ぶ貴重な機会であることから、さらに多くの授業へ拡充できるよう教員への広報に努めるとともに、実施体制の整備を行いたい。

図書館主催ガイダンスは合計8回、すべてオンラインで開催した。オンライン形式のガイダンスはどのキャンパスにいても参加できるメリットがあるが、ガイダンスに関する全学アンケートでオンデマンド形式を望む声が多かったことから、次年度はオンデマンドでの実施も検討したい。

オーダーメイドガイダンスは、学科・専修単位で毎年実施している例もあり、専門分野における情報リテラシー教育支援の一例として、今後も継続する意義がある。授業実施形態の変更により教材の提供のみとなったものもあるが、本年度の依頼件数(43件)はコロナ禍前の令和元年度(36件)より多くなった。またオーダーメイドガイダンスでは、依頼者が所属する学部・研究科のサポート館職員が講師を担当することから、職員のレファレンス・ガイダンススキル向上に資する機会ともなっている。

パスファインダーKULiPの「授業資料ガイド」は、前年度と同程度の作成数となった。全授業数に占める割合が極めて限られていることから、教員への効果的な広報を検討する必要がある。

開始から3年となったチャットによるオンラインレファレンスは、回答を受け取るまでの時間が短く、利用者にとって気軽に利用できる有用なサービスのため、今後も継続したい。

3. 学術研究支援

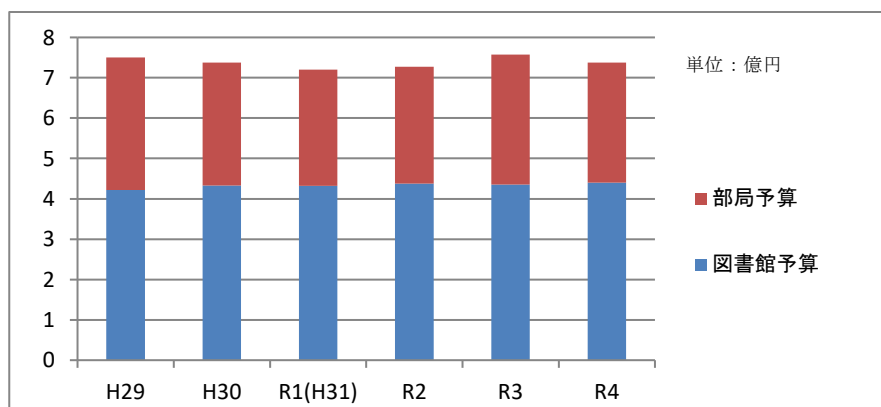
(1) 研究用資料の整備

各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は<付録>基本統計表のとおりである。

<資料受入状況>

- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料費は、約7.37億円で前年度から約0.21億円減となった。
- ・ 図書館予算分（電子ジャーナル・データベース等の提供維持経費「教育研究基盤資料整備費」を含む）は約4.40億円となり、前年度から約0.05億円増となった。これは平成29年度比で約0.19億円増加した。また部局予算分は約2.97億円となり、前年度から約0.26億円減となり、平成29年度比で約0.31億円減少した。

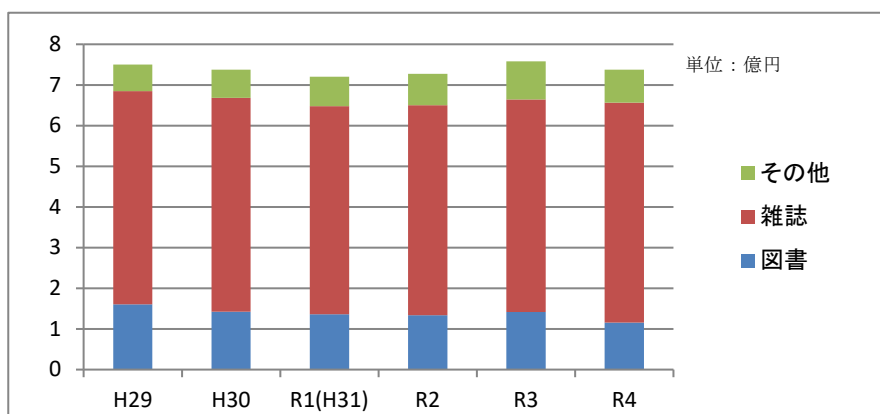
<資料費経年推移>



* 教育研究基盤資料整備費は
図書館予算に含む

- ・ 「教育研究基盤資料整備費(電子ジャーナル・データベース等)」は、約 3.74 億円（決算ベース）が措置され、前年度から約 0.11 億円増となった。これは平成 29 年度比で約 0.28 億円増加した。
- ・ 学生用資料を含む大学全体の資料の用途別では、平成 29 年度比で図書が約 0.45 億円減少し、雑誌（電子ジャーナル等を含む）は約 0.17 億円増加した。

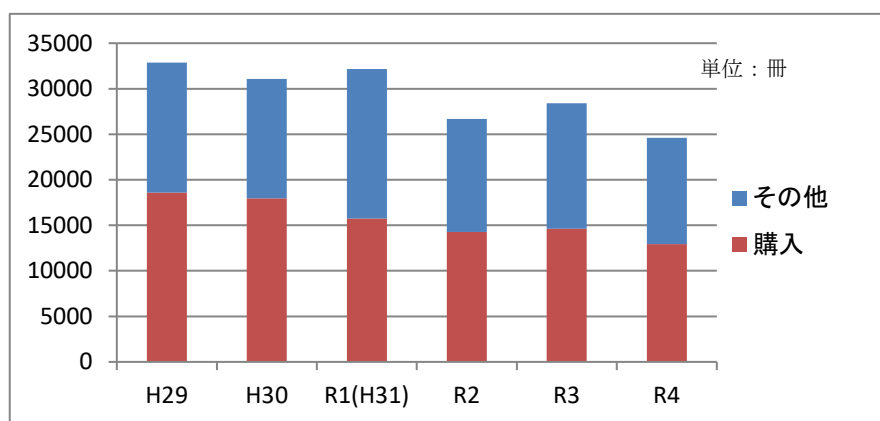
＜資料費の用途別内訳推移＞



* 電子ジャーナル等は雑誌として計上

- ・ 年間の受入図書冊数（購入）は図書購入費の減少に比例し、平成 29 年度比で約 0.6 万冊減少した。また製本予算の縮減も影響して年間約 3 万冊以上あった総受入図書冊数は約 2.5 万冊となった。

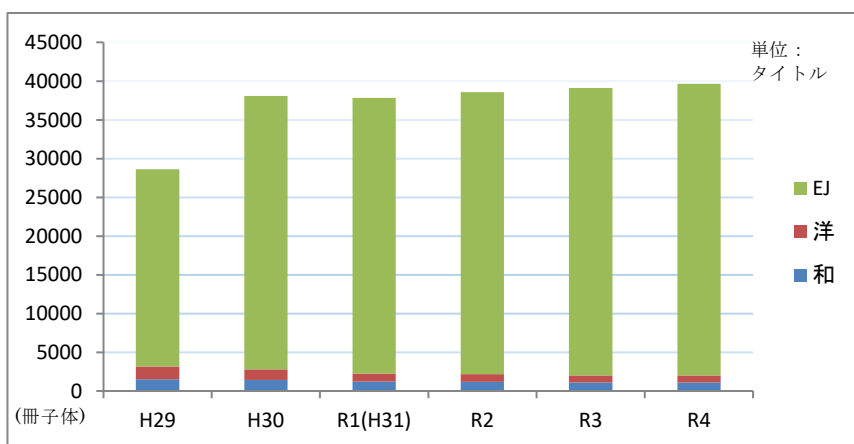
＜受入図書冊数経年推移＞



* 「購入」は一般財源のみ、
科研費等は「その他」とした

- ・ 雑誌（冊子）購入タイトル数は約 2,001 タイトルとなり、前年度から 14 タイトル減となった。平成 29 年度比で和雑誌は約 26%減、洋雑誌は約 47%減と大きく減少した。一方、電子ジャーナルタイトル数は平成 29 年度比で約 48%増の約 3.77 万タイトルである。

<購入雑誌数経年推移>



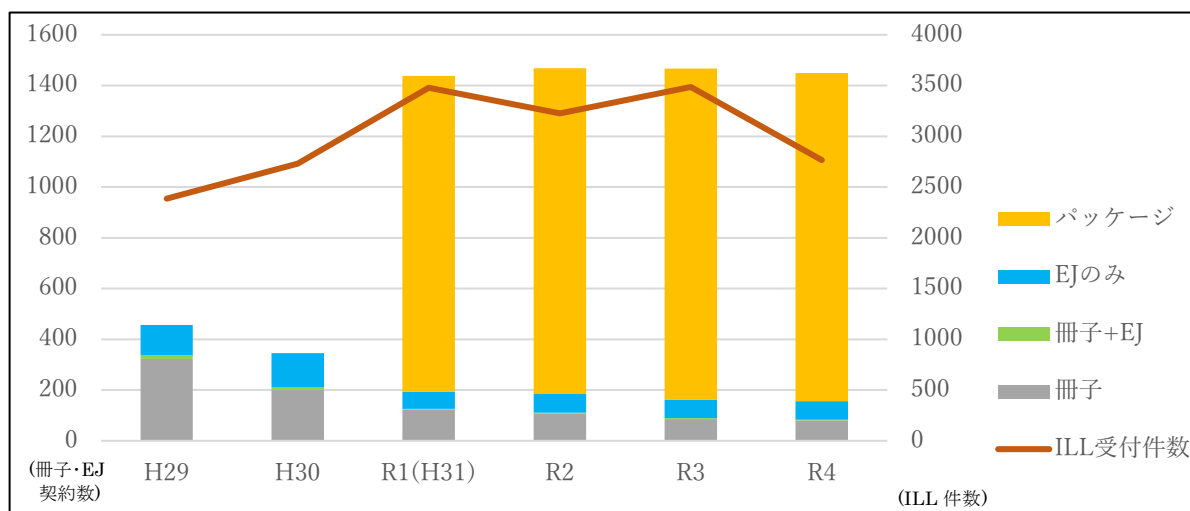
<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和 61 年度に「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学で分担収集を行っている。
- ・ 平成 20 年度の外国雑誌センター館会議で、従来の冊子に加え電子ジャーナルもセンター館誌として収集の対象とすることが確認された。
- ・ 本年度の外国雑誌センター予算は、附属図書館予算の約 1 割を目標とし、前年度と同額の 0.26 億円を確保した。
- ・ 令和元年度からは、国内で導入実績の少ない人文・社会科学系の電子ジャーナルパッケージ (SAGE, EMERALD, CAIRN) について、外国雑誌センター予算からの経費負担を増やしてパッケージ購読を開始し、本年度も継続維持することとした。

		R1(H31)	R2	R3	R4
SAGE	契約誌数	552	569	559	535
	アクセス数	15244	14144	16862	23354
EMERALD	契約誌数	212	213	217	208
	アクセス数	9633	8924	11568	12918
CAIRN	契約誌数	480	499	528	550
	アクセス数	675	529	760	691

- ・ ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

＜冊子体・EJ 契約数（外国雑誌センター）と ILL 受付件数（社会科学系）の推移＞



◆評価と課題

第4期中期計画期間前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費について、令和2年度に部局長会議（10月8日）において、4.1億円を上限とすることが承認された。その承認に基づき本年度は、「教育研究基盤資料整備費」約3.74億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成29年度の契約規模を維持することができた。本年度は、円安の影響もあり前年度から約0.11億円増となった。また次年度の所要額（見込）は、約0.29億円増の約4.02億円を予定している。

今後、価格の高騰や為替の影響により第4期中期計画期間後半（令和7～9年度）の整備方針について検討をおこなう必要がある。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.55億円で前年度から約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費の確保が困難となっているが、本年度は前年度から約0.02億円減の約0.71億円の予算を確保した。しかし、資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少を続けている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、前年度と同額の0.26億円を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、電子ジャーナル利用数やILL受付件数が増えている。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。外国雑誌センター館の責務として国立情報学研究所目録所在情報サービス（NACSIS-CAT）に所蔵情報を提供し、全国からの利用に対応する体制をとっている。

今後、光熱費の高騰や雇用単価の値上げ等のより経費負担が増える見込みのため、学生用資料費や外国雑誌センター予算を見直し検討をおこなう必要がある。

（2）電子的情報基盤の整備

＜外国雑誌と電子ジャーナル＞

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
ScienceDirect (Elsevier)	全分野	H14	2,260	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダム コレクション(うち約 2,000 誌は創刊号 から)
SpringerLINK (Springer Nature)	多分野	H14	2,260	2000～	R5.1 から転換契約へ移行 主要部分は創刊号から
Wiley Online Library (Wiley)	多分野	H14	1,350	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊 号から)
JSTOR	自然科学 及び社会 科学	H14	1,570	創刊号～ (最近 3～5 年は対象 外)	Arts & Sciences I (H14～) Arts & Sciences II (H17～) Arts & Sciences III (H19.3～) Arts & Sciences IV (H18.3～) Arts & Sciences V (H23.1～) Arts & Sciences VI (H23.1～) Arts & Sciences VII (H21.4～) Arts & Sciences VIII (H23.1～) Arts & Sciences IX (H23.1～) Life Sciences (H15～) Business III (H23.1～)
Nature および関連誌	自然科学	H15	27	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	1997～	
APS	物理系	H16	10	創刊号～	米国物理学会
Cell Press	生命科学	H16	9	1995～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	13	1996～	パッケージ購読は 2015 年度まで
ACS	化学系	H16	64	創刊号～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	260	1996～	2014 年時点のほぼ全タイトル(一部 は創刊号から)
Cambridge University Press	多分野	H18	410	1997～	発行のほぼ全タイトル(一部は創刊 号から)
AAS Historical Periodicals Collection	多分野	H29	4,000	1684～1912	アメリカ古書協会
Academic OneFile	多分野	H30	9,900		
General OneFile	多分野	H30	9,900		
Cairn.info	社会科学 人文科学	H30	550	2001～	フランス語の学術雑誌
Emerald	社会科学	R01	210		Management eJournal Portfolio
SAGE	社会科学 人文科学	R01	580	1999～	PHSS2014

大手 5 社(Elsevier、Wiley、Springer Nature(Springer Link)、Oxford University Press、Cambridge University Press) 発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナルの多くのタイトルが利用できる電子オンリーの包括利用契約を行っている。

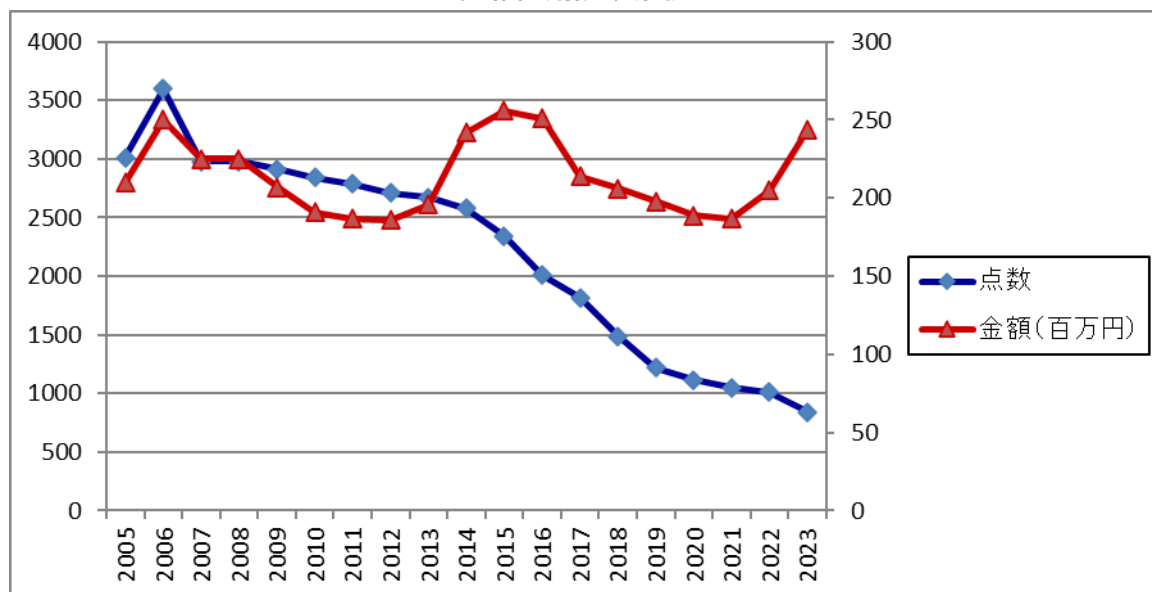
その他、単体で購読しているもの等も加えて、本年度末における電子ジャーナル購読数は 37,668 タイトルとなっており、前年度の規模を維持している。

各電子ジャーナルの利用状況は「電子的情報サービスの現況 (R4・2022 年度)」のとおりである。

2023 年外国雑誌の契約は、前年と比較して点数は減少しているが、円安の影響により契約金額は増加している。

契約点数 2022 年 1,013 点 → 2023 年 840 点 (17.1%減)
 契約金額 2022 年 約 205 百万円 → 2023 年 約 244 百万円 (19.1%増)

＜外国雑誌購読数推移＞



＜データベースの整備＞

導入している主なデータベースは次のとおりである。(全て Web アクセス)

	分野	導入年	範囲	備考
Web of Science Core Collection	全分野	H15	1900～	H15 SCIE 導入 H21 SSCI, AHCI 追加 H22 バックファイル追加 H29 Citation Connection 追加
Journal Citation Reports	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
SciFinder [®]	化学	H16	1840～	R2 SciFinder から移行 利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 から Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
Business Source Premier	経営学	H22		
PsycINFO	心理学	H22		
PsycARTICLES	心理学	H22		

CINAHL	看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis	法学	H22		R2「Lexis Advance」から名称変更 利用申請が必要
Westlaw Next	法学	H22		「Westlaw International」から H28 に名称変更
OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」から名称変更
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 1
日経テレコン 21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7 から全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 5 H28 からアクセス数 1 追加
*ざっさくプラス	国内雑誌記事	H26	1867～	同時アクセス 1 H28 MAGAZINEPLUS から切替
*JDreamIII	科学技術・ 医学・薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*朝日新聞クロスサーチ	新聞記事	H12	1879～	R4 年 3 月「聞蔵Ⅱ ビジュアル」 から名称変更 同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」から名称変更 同時アクセス 2
*ナクソス・ミュージックライブラリー	音楽	H26		同時アクセス 5

※タイトル先頭に*を付したものは「e-study 資料費」により契約している。

※各データベースの利用状況は「電子的情報サービスの現況(R4・2022 年度)」のとおりである。

＜電子ブックの整備＞

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである（全て Web アクセス）。利用可能な総冊数は本年度末時点で約 4 万 5 千冊である。

	分野	購入年度	タイトル数
**EBSCO eBooks	多種	H22-(随時)	750
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**Maruzen eBook Library	多種	H26-(随時)	2,400
**Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、宗教学、言語学	H22 ,H27	146
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21

*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	9,000
*群書類従(正・続・続々)	国文学、国史	H27	
*鎌倉遺文	国史	R01-R02	
*新訂増補 国史大系	国史	R03	
*史料纂集	国史	R04	

注)*部局予算による購入

**部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者（大学院生を含む）にとって必要不可欠な学術情報基盤であり、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 140 万件と、総体として非常によく利用されている。神戸大学では平成 17 年度および平成 20 年度に出された 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子リソースに関わる基盤整備を行っている。また、基盤整備に充当する教育研究基盤資料整備費のあり方について、第 4 期中期計画期間の前半・後半各 3 年間で単位として検討の上、整備にあたっているところである。

今第 4 期中期計画期間の前半（令和 4～6 年度）においては、令和 3 年度までの購読内容を維持し、経費節減の効果が見込めるものについては複数年契約を行うこととして、部局長会議（令和 2 年 10 月）にて承認を得たところである。

しかし、円安の進行によって令和 5 年度の所要見込が大幅に増加しており、今後の購読内容の検討は喫緊の課題である。

一方で、一部の出版社から転換契約*1 の提案があり、本学では各出版社の提案を精査し、従来の購読契約との比較検討を行っている。そのうち Springer Nature 社については、本学を含む国内 10 大学によるパイロットプロジェクトに参加し、令和 5 年 1 月から転換契約を開始したところである。

電子ブックについては、本学においては図書館予算より部局予算による購入が中心であるが、その中でも EBA モデル*2 のような利用者の要求を反映した購入を進めているところである。また、国内出版物の電子版の提供も増加しており、このような状況の変化への対応が必要となっている。

*1 転換契約

購読料を負担するモデルから、論文をオープンアクセス（OA）とする出版費用を拠出するモデルへ転換することを目指した契約。Read&Publish 契約とも言い、購読料と OA 出版料の一括契約のこと。

*2 EBA(Evidence Based Acquisition)モデル

出版社の全タイトルもしくは特定のコレクションを対象として有料トライアルを実施し、トライアルの終了後に、利用実績を参考にしてトライアルの金額の範囲内で実際に購入する（恒久アクセス権を取得する）タイトルを選択する契約モデル。

（３）蔵書目録データベースの整備

＜目録遡及入力事業＞

- 目録遡及入力は平成 4 年度から事業を開始、学内予算措置や外部資金を得て、第 2 期中期計画最終年度の平成 27 年度に全蔵書のうち館室配置図書の入力を完了した。その後も第 2 期中期計画の遡及入力事業対象外であった資料群の所蔵データ入力に努めている。

特に和古書は、拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築にあたり目録データ作成が不可欠なため、電子化対象資料を中心に入力を行っている。

- ・ 本年度計画

本年度は、継続して登録作業を行っている社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫（和古書）のほか、遡及入力計画対象外であった資料のうちマイクロフィルム、製本雑誌について入力を計画した。

- ・ 本年度実績 62,572 冊

研究室戻り等		各館室	4,837 冊
製本雑誌		各館室	50,844 冊
特殊資料	和古書(住田文庫)	社会科学系図書館 人文科学図書館	516 冊
	マイクロフィルム	社会科学系図書館	6,375 冊

◆評価と課題

本年度は計画通り、社会科学系図書館貴重書室所蔵の住田文庫（和古書）、人文科学図書館和古書、マイクロフィルム、製本雑誌を中心に遡及入力を行った。

現在、蔵書数約 378 万冊のうち約 335 万冊の所蔵データが入力済みで、全蔵書の約 89%が OPAC で検索できるようになっている。残る未入力冊数は約 43 万冊である。

今後は専門的知識が必要な和・洋古書、漢籍などの特殊資料は知識の習得、継承を図りつつ入力をすすめる、一方比較的数量の多い製本雑誌は効率的に入力を行う必要がある。

未登録データの入力により資料の利用促進、利用者へのサービス向上、図書管理業務の効率化が期待される。

（４）資料の保存

＜資料保存における問題と対策＞

- ・ 各館室の状況に即して整理作業が進められるよう「資料収容力確保策に関する実務指針」の改訂を行い、書架狭隘化に対する資料整理・廃棄を行った。
- ・ 自然科学系図書館の改修・増築により共同利用書庫のスペースが確保でき、活用方針を策定した。海事科学分館の改修が実現される場合は資料の仮置き場として使用し、改修がない場合または改修完了後は附属図書館全体の共同利用書庫として主に雑誌を保存する。
- ・ 海事科学分館の改修に備え、資料の除籍計画を策定した。
- ・ 社会科学系図書館貴重書室の環境整備に努め、出納資料の冷凍処理、定期的な清掃、害虫モニタリング調査を実施した。
- ・ 資料保存のための環境整備に努めた。主なものは以下の通り。
社会科学系図書館：書庫 A 棟、B 棟の窓に暗幕、感知式照明の設置、マイクロ室エアコンの修理、貴重書室内に自然系図書館にて不要となった書架 5 台を移設、開架室壁面書架増設
自然科学系図書館：除湿器 13 台の増設及び再設置

人文科学図書館：LC 書架 2 台新設、書庫複柱スチール書架 2 連自然系図書館より移設

人間科学図書館：修士論文用キャビネット 2 台増設、貴重書保管庫の移設

海事科学分館：書庫 2-3（1 号館 2 階）除湿器設置

経済経営研究所図書館：南米文庫クリーニング、書庫 2 層除湿器修理

- ・ 海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」の電子化については「4. 社会連携・情報発信」の「(3) 電子図書館システムによる情報発信」に記載。
- ・ 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築準備関連の修復については「4. 社会連携・情報発信」の「(3) 電子図書館システムによる情報発信」に記載。
- ・ 震災文庫資料保存のための媒体変換については「4. 社会連携・情報発信」の「(2) 震災文庫」に記載。

◆評価と課題

本年度は更に整理作業を進めるべく「資料収容力確保に関する実務指針」の改訂を行い、資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。さらに、自然科学系図書館に共同利用書庫を新設し、活用方針を策定した。今後、方針に基づき附属図書館全体および各館室における体系的な資料整備を進めていく必要がある。

また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなど想定外の事態に備えて、なお一層の書庫環境の保全維持、資料保存の適切な環境整備に努めていく必要がある。

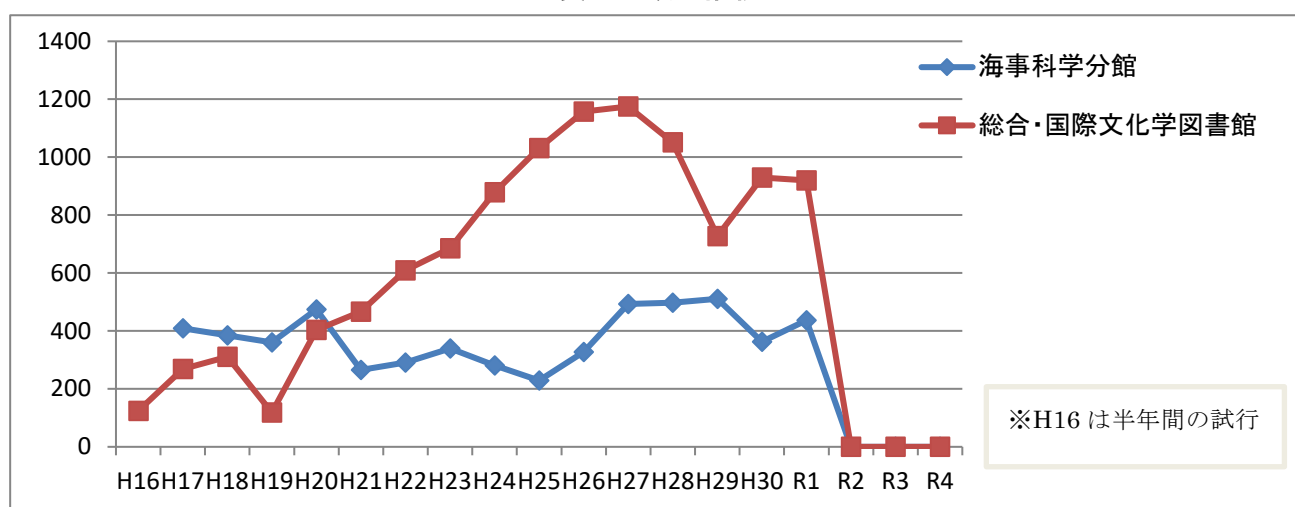
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス・展示会の開催

＜一般市民の図書館利用＞

- ・ 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応措置として学外者の入館は令和 2 年 3 月以降、原則不可となり、本年度は前年度に続き利用登録者数は 0 名、貸出冊数は 0 冊になった。

＜貸出冊数の推移＞



＜展示会の開催＞

・令和4年度資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」

会期 前期 令和4年10月14日（金）～11月10日（木）

後期 令和4年11月16日（水）～12月20日（火）

会場 社会科学系図書館 2階 展示ホール

時間 月～金 8:45～20:00（ただし祝日は休館）

土・日 10:00～18:00

内容 社会科学系図書館所蔵の海運海事史関係資料コレクション「住田文庫」の資料を中心に、鎖国体制下の江戸時代に多発した海難事故を乗り越え、外国や離島から帰国した漂流者の事例と記録を、以下の4つのサブテーマに分けて紹介した。

- 1) 漂流の背景
- 2) アジア地域への漂流
- 3) ロシアを見てきた漂流民
- 4) 太平洋を渡った漂流民



- ・ 令和2年度～前年度はコロナ禍によりデジタル資料展を開催したが、本年度は感染症対策に留意しつつ会場での資料展を再開した。なお11月12日（土）・13日（日）開催の大学祭「六甲祭」の期間は、観覧者急増を避けるため休止とし、会期を前後期に分割した。
- ・ 学外者は入館が原則不可という状況であったが、「資料展観覧目的に限り学外者も入館可」として広報に明示し、入館の際に記帳や名札着用を求めるなどした。
- ・ 広報の学外送付は、神戸市灘区・東灘区・中央区の中学・高校に限定したため、結果として学外者の来館は50名（下記ホームカミングデイを除く）と少なかった。
- ・ 会期中の10月29日（土）に開催の「神戸大学ホームカミングデイ」では学外者28名の来館があり、職員による館内案内と展示案内を実施した。
- ・ 人文学研究科の授業（2科目）での見学を受け入れ、職員が展示内容を説明した。
- ・ 会場は通路部分であるため、正確な来場者数をカウントすることはできないが、開催期間中に社会科学系図書館に来館した利用者の多くが資料展を観覧したものである。
- ・ アンケート回収数は58件（会場で回収は21件、上記授業の見学学生から37件）で、約86%が内容を良かったと評価しており、自由記述の内容も概ね好意的であった。
- ・ 図書館ホームページで展示品目録や紹介した記事のリストを公開している。

＜学内巡回展、その他の展示、他組織主催の展示の受入等＞

- ・ 阪神・淡路大震災の発生した1月17日にあわせて、令和元年度資料展「阪神・淡路大震災25年あのとことこれから」のリバイバル展示を開催した。（会期：令和5年1月12日～31日）。
- ・ 海事博物館や大学文書史料室と連携した展示企画「神戸大学サテライト巡回展」の一環として、以下のパネル展示を社会科学系図書館展示ホールに掲示した。

海事博物館巡回パネル展「ふね遺産 進徳丸」（主催：海事博物館、会期：令和3年11月22日～令和4年5月16日）

神戸大学史巡回展「神戸大学120年一創立120周年記念一」（主催：大学文書史料室、会期：令和5年2月18日～3月27日）

- ・ 令和4年度国大図協近畿地区協会助成事業として、京都大学、大阪大学と共に内容を制作した「100人の大学図書館員展」のパネル展示を社会科学系図書館展示ホールに掲示した（会期：令和5年2

月 1 日～14 日)。

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービス開始以来、総合・国際文化学図書館では平成 19 年度に改修工事の影響で一時的に貸出冊数は落ち込んだものの、その後は増加を続け平成 28 年度からの減少傾向も平成 30 年度から回復の兆しがあり、海事科学分館では平成 21 年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態が続いたが、平成 27 年度から増加傾向にあり平成 29 年度は過去最高の貸出冊数となるなど、館室・年度によって増減はあるものの全体として地域社会への貢献活動のひとつとして定着していた。

令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い学外者の入館は原則不可となり社会に開かれた図書館としての役割を十分に果たすことが難しくなった。

資料展については、令和元年度以来、3 年ぶりに会場での開催となった。学外に対する広報は残念ながら積極的にできなかったが、テーマの意外さを含めて好評を得ることができ、所蔵資料・古文書の紹介、それも一般にはあまり知られていない事柄の紹介としても有意義であったと評価できる。また、他組織主催の展示も受入れを再開し、展示ホールの稼働率を高めると共に、展示を通じた地域・社会貢献を推進することができた。

(2) 震災文庫

＜資料収集と一般公開＞

- 引き続き、様々なチャンネルからの情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動に努めた。資料所蔵総数は約 5 万 7 千件となった。

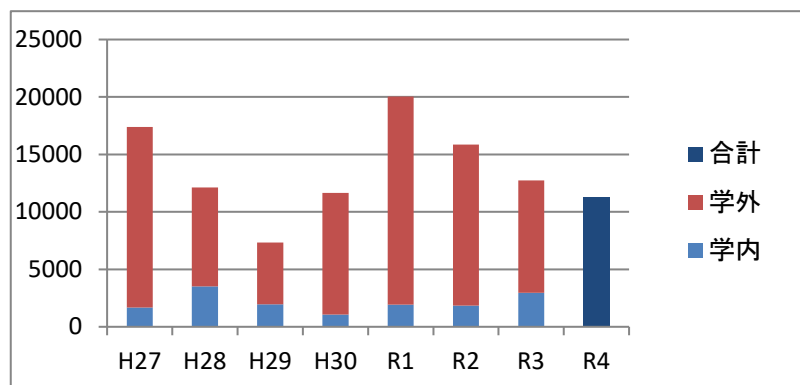
資料形態	R4 全件数	資料形態	R4 全件数
図書資料	9,196	地図資料	162
雑誌資料	16,818	動画資料	713
新聞・広報誌資料	8,060	音声資料	266
パンフレット資料	4,095	その他	6,147
一枚もの資料	3,432		
写真資料	7,969	総合計	56,858

注1) 令和 4 年 9 月に実施された図書館システム改修に伴い、取得可能なデータ件数のみ記載している。前年度までの統計にあった「タイトル数」の数値が取得できず、資料形態の分類にも変更がある。また、データ取得方法の変更により数値がマイナスとなる箇所が出て来るため、新着数と前年度の全件数は記載しなかった。

注2) 資料形態の「その他」には、シンポジウムの配布資料、論文要旨などが含まれる。

- 震災文庫トップページアクセス数は、本年度は約 1 万 1 千件だった。

＜震災文庫トップページアクセス数経年推移＞



注) R4 年度は、図書館システム改修に伴い、学内・学外の区別が不可能になった。

- ・ 社会科学系図書館にある震災文庫の利用者数は 510 名と少なかった。前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約制（基本的に学内者のみ、本学のみ所蔵の資料利用は学外者も受付）での利用に制限したことが影響している。

＜震災デジタルアーカイブ＞

- ・ 株式会社サンテレビジョンから寄贈を受けた阪神・淡路大震災直後の取材映像 81 件を新たに公開した。あわせて、インターネットでの公開が適切ではないと判断された映像 11 件についても、震災文庫の室内設置端末限定で公開した。これにより、平成 7 年 1 月 17 日（震災当日）に撮影したサンテレビジョン提供の全映像の処理が完了した。
- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータを継続的に作成している。本年度は、著作権の許諾が得られた 111 件をデジタル化公開した。その結果、データベースのレコード総数は*約 1 万 3 千件となった。

*前年度は約 30 万 4 千件だったが、令和 4 年 9 月の図書館システムリプレースにより集計方法が変更され、総数が減少した。

- ・ 防災に関する教材作成や、阪神・淡路大震災関連のテレビ放映等のため、各機関から写真を中心に 12 件（前年度 10 件）の転載許可願が申請され、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携を一時休止していたが、令和 4 年 9 月の附属図書館システム改修を機に、再連携を行った。震災文庫からは「ひなぎく」の検索結果へのリンクを追加し、旧システム「震災資料横断検索」の代替機能の実現をはかった。

＜震災文庫の活動＞

- ・ サンテレビジョン提供の震災映像の保存と電子化公開に係る取組が評価され、助力を得た研究開発室電子化部会震災関係資料小委員会の委員 2 名と携わった職員で「サンテレビジョン震災映像公開検討チーム」として学長表彰の被表彰者に選出された。
- ・ 総合教養科目「阪神・淡路大震災 B」にて対面授業（受講者 28 名）、「阪神・淡路大震災 A」でオンライン遠隔授業（受講者 100 名）を行い、震災文庫の利用方法等を説明した。
- ・ 附属図書館公式 YouTube チャンネルで公開していた震災文庫利用案内動画を改訂した。

◆評価と課題

サンテレビジョン寄贈の取材映像については、震災当日に撮影した全映像の処理が完了した。また、助力を得た教員 2 名と携わった職員のチームが学長表彰を受けるなど、その活動が内外で高い評価を得た。今後も引き続きサンテレビジョンおよび本学人文学研究科地域連携センターと協力しつつ、映像の

閲覧提供およびデジタルアーカイブでの公開を進めていく。

また、来館利用については、本年度も感染症対策の影響により少なかったが、次年度からは平常利用に戻るため、今後の利用増加が期待される。

課題としては、さらなる活用促進のための活動実施のほか、個人情報保護等の観点から一般公開が難しい資料の受入・運用についての検討が必要である。例えば、インターネットでの公開が適切ではないと判断された映像は、室内設置端末限定で公開するなどしているが、今後も検討を更に積み重ねていく。

なお、平成 30 年度覚書を締結したハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所「日本災害 DIGITAL アーカイブ」とのシステム連携については、引き続き調整を進めていく。

（３）電子図書館システムによる情報発信

＜「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築・運用＞

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25,27,28,30 年度、令和 4 年度 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。
- ・ 令和 4 年 9 月には電子図書館システムのリプレースを実施した。利用および外部データベースとの連携、維持管理の行いやすいシステムの構築を目的とし、IIIF や JPCOAR スキーマといった共通規格への対応、コレクションごとの公開方式の統一を行った。同時に、電子化画像の保存用環境も整備した。
- ・ コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。
- ・ 平成 31 年 1 月から、一部のコレクションの画像については、従来必要だった申請手を廃して、自由に二次利用可能とした。これらについては利用時の報告を任意で依頼しており、本年度 3 件の報告があった。それ以外にも、各機関から転載申請が 19 件あり、許諾回答した。
- ・ 平成 24 年 5 月から新聞記事文庫データベースの「活用事例集」として公開してきた Web ページをリニューアルし、新聞記事文庫以外も含めたデジタルアーカイブの活用事例を紹介した。

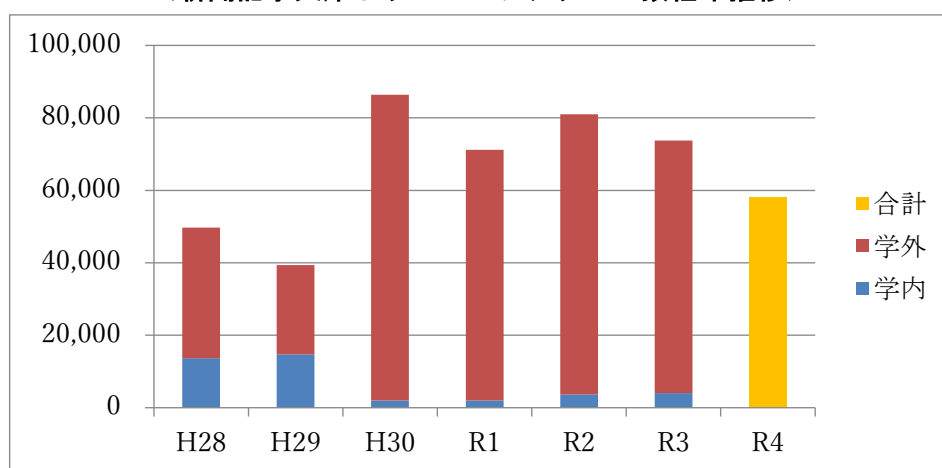
＜経済関係資料および貴重書・稀観書のデジタル化＞

- ・ 科学研究費補助金研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」配分額 920 万円）および学内要求予算（経済経営研究所 配分額 398 万 1 千円）を獲得した。これらの予算で画像データ 2,523 枚およびテキストデータ 8,733 記事分を作成し、登録準備を進めた。
- ・ 準備の完了したテキストデータ 3,547 件を追加登録した。
- ・ 令和 4 年 9 月のシステム改修を機に、国立国会図書館サーチとの連携方法をこれまでの SRU/SRW から OAI-PMH へ変更し、さらにジャパンサーチとの連携も実現した。
- ・ 拠点大学として参加している国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業のデータベース構築のため、住田文庫資料を含む各館古典籍 135 点(19,119 コマ)の電子化を行った。電子化した画像は国文学研究資料館が提供する「国書データベース」から順次公開される予定である。また、前述の 135 点および前年度に電子化した 472 点の古典籍の画像を附属図書館デジタルアーカイブで公開した。本事業で電子化し、附属図書館デジタルアーカイブで画像公開を行った資料点数は累計 2,350 点となり、本年度はこれらの画像公開画面に計 5,124 件のアク

セスがあった。

- ・ 本年度および次年度の電子化に先立ち、計 15 冊の住田文庫資料の修復を実施した（修復費用の一部は国文学研究資料館から補助を受けた）。
- ・ 神戸大学海事科学振興財団から助成を受け、海事科学分館所蔵の「渋谷文庫」のうち計 64 点を、資料保存の目的で電子化した（画像 1,147 枚）。
- ・ 地域連携センターとの連携事業にて大学院生アルバイトを雇用し、令和 3 年 6 月に遺族から寄贈された若林泰氏収集資料（若林家文書）の電子化公開に向けた確認作業を前年度に引き続き実施した。

＜新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移＞



※今年度から、図書館システム改修に伴い、学内・学外の区別が不可能になった

◆評価と課題

本年度は科学研究費補助金および学内要求予算により、新聞記事文庫の画像データおよびテキストデータの作成を大きく進めることができた。そのほか、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業での住田文庫を含む古典籍の電子化・画像公開や、地域連携センターとの連携による「若林家文書」の電子化公開準備を実施した。今後も学内外との協力によりコンテンツを拡充していきたい。

また、令和 4 年 9 月にはシステム改修を実施し、IIIF 等の共通規格への対応や各コレクションの公開形式の統一を実施することで、外部データベースとの連携や長期的な維持管理が行いやすくなった。本年度、新聞記事文庫のジャパンサーチとの連携が実現したことに続き、今後もさらに外部データベースとの連携の拡大に努める。また、システム改修とあわせて電子化画像の保存管理環境を整備したため、運用の検討を引き続き進めていく。

（４）機関リポジトリによる情報発信

＜コンテンツ収集活動＞

- ・ 平成 18 年度に稼働を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続けている。令和 5 年 3 月末現在のコンテンツ数は 36,487 件となり、1 年間で 2,021 件増加した。

＜機関リポジトリコンテンツ種別件数＞

一般雑誌記事	170 (170)	図書	216 (216)
会議発表論文	133 (135)	データセット	2 (3)
紀要論文	21,612 (47,900)	学術雑誌論文	8,530 (9,234)
教材	23 (23)	会議発表用資料	401 (401)
研究報告書	530 (2,682)	テクニカルレポート	829 (1,252)
学位論文	3,234 (12,027)	その他	807 (812)
プレプリント	0 (0)	合計	36,487 (74,855)

注)括弧内は書誌情報のみ(本文ファイルなし)も含んだデータ数

- ・ 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く論文を公開した。前年度以前の授与分を対象に、本年度は合計 169 件の本文を公開した。
- ・ 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- ・ 「オープンアクセス推進 WG」では、今年度も重点的な取組として、神戸大学研究者紹介システム「KUID」に登録された論文情報 2,217 件の各ジャーナルの著作権調査を手分けして実施し、公開可能なもののうち 499 件について著者へ登録依頼し、131 件を登録した。

＜広報・啓発活動＞

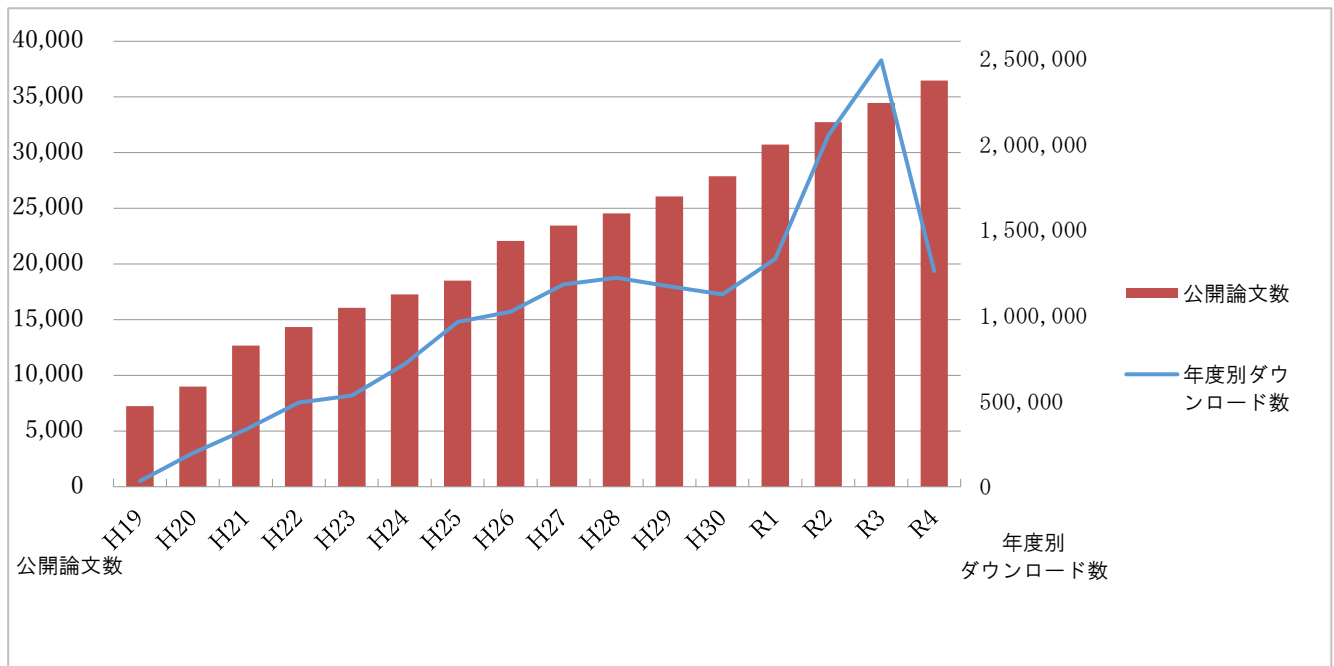
- ・ 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 27 号、第 28 号を発行し、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報等を掲載してその周知につとめた。
- ・ 10 月のオープンアクセスウィークには、リポジトリの周知および論文登録促進のため、論文抜き刷り送付用学内便封筒を教員ポストに配布した。
- ・ 登録者へのサービスとして、毎月 1 回ダウンロード数お知らせメールの配信を継続して実施している。
- ・ 博士論文インターネット公表に関する博士課程後期学生向け配布資料（日本語・英語）を、本学の大学院新入生向け Web サイトへ掲載した。
- ・ 令和 4 年 7 月、教育研究評議会の承認により「神戸大学研究データ管理・公開ポリシー」が策定され、「神戸大学 研究データ管理・公開ポリシー解説（暫定版）」とあわせて公開された。館内では「研究データ管理検討 WG」を設置し、研究データ管理・公開支援に関する情報収集を進めた。

◆評価と課題

リポジトリ開設から公開論文数は着実に数を伸ばしている。平成 30 年度以降に図書館内に設置した「オープンアクセス推進 WG」で論文の公開ポリシー調査を行うことで、リポジトリでの学術論文の公開を着実に進めることができているため、今後もこの取り組みを継続していきたい。また、本年度は「研究データ管理検討 WG」を設置し、研究データ管理・公開支援に関する情報収集を進めた。

引き続き、平成 29 年 1 月に学長裁定となった「神戸大学オープンアクセス方針」のさらなる周知とオープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報発信および、「神戸大学研究データ管理・公開ポリシー」に基づく研究データ公開支援の実践に向けた情報収集・検討を行い、全学 WG の検討にも寄与していく。

＜Kernel 公開論文数及びダウンロード数推移＞



※R4.9 図書館システム改修により集計方法変更

（５）国際連携

＜海外派遣＞

・国立大学図書館協会海外派遣事業

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外渡航および海外からの来日が困難な状況だった。国立大学図書館協会海外派遣事業では、前年度は特別措置であったオンラインでの国際会議の発表・出席が、実施要項の改正により正式に可能となったが、応募は見送ることとなった。

＜その他＞

・日本古典籍研究国際コンソーシアムへの参加

神戸大学附属図書館として令和3年3月から登録参加している。日本国内に限らず世界の機関・大学・図書館の参加も多く、時間と場所を選ばないWeb形式での活動が中心であり、連絡窓口として職員1名が担当している。

◆評価と課題

本年度も海外へ職員を派遣することは叶わなかった。しかし、Web という時間と場所を選ばない方法により、国内外の機関と連携し活動する場はますます広がってきている。

国立大学図書館協会海外派遣事業への応募・採択は令和元年度まで5年連続であった。毎年の調査テーマも多岐にわたっており、それらの成果は職員研修会や海外派遣事前勉強会により館内で共有されている。派遣者個人の資質の向上とともに、館内に海外での調査研究・発表の経験やノウハウが蓄積され、次の海外派遣へとつながっていることから、海外の動勢を把握し、次の派遣に備えることが重要である。

海外派遣事業をはじめとする国際連携は、グローバルな視点を持って大学図書館を担っていく職員の

育成のために非常に重要である。しかしその実現には予算の確保が不可欠であり、今後も外部資金の獲得などを積極的に行っていく必要がある。

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

<管理運営全般>

令和3年4月から櫻井徹教授（国際文化学研究科）が附属図書館長の任に当たっている。3名の副館長の役割分担も前年度から継続しており、副館長及び役割分担は以下のとおりである。

- ・ 井上 典之 副館長（法学研究科教授）：社会科学系図書館、広報担当
- ・ 藤嶽 暢英 副館長（農学研究科教授）：自然科学系図書館、情報基盤センター運営委員
- ・ 長 志珠絵 副館長（国際文化学研究科教授）：評価担当、国際交流担当

また、医学分館長、海事科学分館長も前年度から継続している。

<館内諸会議>

＊開催日時、議事内容等は、＜付録＞附属図書館諸会議 に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 本年度は5回開催した。第2回のみメール回議となり、他はすべてWeb会議にて開催した。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 本年度は4回開催した。4回すべてWeb会議にて開催した。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 本年度はメール回議にて1回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 本年度は電子化部会をメール回議にて1回開催し、令和4年度電子図書館事業計画（案）について協議した。また新聞記事文庫の科研費申請に係る書類作成において、室員の教員から意見・助言を得た。
- ・ 電子化部会の震災関係資料小委員会については、サンテレビジョン提供の映像公開における検討において、委員の教員2名に助力を得た。また震災文庫での資料の整理について助言・協力を得た。
- ・ 教育研究支援部会の懇談会をWeb会議にて3月30日に開催し、本年度と次年度の情報リテラシー教育事業について、室員の教員と意見交換を行い、助言を得た。

⑤ 附属図書館係長会議

- ・ 本年度の開催はなかった。

⑥ 附属図書館情報サービス課連絡会議

- ・ 令和2年度からWeb会議にて定例開催となり、本年度中は基本月1回計12回開催した。

<教育研究基盤資料の充実>

第4期中期計画期間前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針については、

令和 2 年 10 月 8 日の部局長会議において、令和 2 年に購読している「全学利用」及び「特定主題」資料を維持するため、上限 4.1 億円の承認を得ている。その承認に基づき、本年度は 3.74 億円（決算ベース）が措置され、中心となる電子ジャーナル及びデータベースについては前年度の予算規模を維持することができた。しかし、急速な円安等に伴い上限 4.1 億円で現在の資料を維持できるかは不透明で、今後見直しについて検討していく必要がある。

＜大学文書史料室＞

平成 30 年度から学長直下の室として独立したが、事務は引き続き附属図書館が担当している。

＜神戸大学出版会＞

事務担当部局として出版会運営委員会をメール回議で 1 回、出版会出版委員会を対面と Web のハイブリッド形式にて 3 回開催した。本年度は新刊書を 8 冊刊行した。

- ・米田恵子著『山口誓子を知る ―その生涯と俳句―』2022 年 4 月
- ・金子由芳編『コロナ禍の中小企業と法変化 揺れ動く日本・アジアの公助と契約文化』2022 年 8 月
- ・増田好純著 大津留厚、石田勇治編『ナチ・ドイツにおける労働動員 ―ドイツ人、外国人、強制収容所囚人：ユンカー航空機・発動機製作所を事例に―』2022 年 11 月
- ・神戸大学人文科学研究科編『人文学を解き放つ』2023 年 3 月
- ・ジョンコイ・ガーボル著 奥村 弘、根本峻瑠、市原晋平、加藤明恵訳『ヨーロッパ文化遺産研究の最前線』2023 年 3 月
- ・神戸大学 V. School 編『価値の創造を考える 2021 年度神戸大学 V. School の取り組みの軌跡』2023 年 3 月
- ・内田浩史、堂目卓生著『SDGs の時代における価値と経済的価値 (VS Booklet 1)』2023 年 3 月
- ・フランク・K・アップム著 金子由芳、入江克典訳『財産権の大いなる誤解 開発における理論、現実、展開』2023 年 3 月

◆評価と課題

附属図書館運営委員会においては、例年教育研究基盤資料（電子ジャーナル・データベース等）の整備が懸案事項となっている。第 4 期中期計画期間前半（令和 4～6 年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和 2 年 10 月 8 日の部局長会議において、上限 4.1 億円として承認を得た。しかしながら、所要額の上昇、大学予算の削減等により依然として非常に厳しい状況が続いており、今後の整備方針の検討が課題である。

研究開発室については、電子化部会と教育研究支援部会がそれぞれ、室員の教員から意見・助言を得ることができ、設置目的のとおり高度な図書館サービスの実現に寄与している。

情報サービス課連絡会議は、新型コロナウイルス感染症への対応だけではなく、各館室の問題や状況を共有することにより、均一のサービス提供や問題点の解決につながっている。

大学文書史料室は平成 30 年度から、学長直下の室として独立したが事務は引き続き附属図書館が担当している。また、神戸大学出版会についても事務を担当し、本年度は新刊書を 8 冊刊行した。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- ・ 人事異動は主に4月1日付、7月1日付、10月1日付の3回であったが、その他に期限満了、退職に伴う異動があった。本年度末時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員44名、非常勤職員35名の79名であった。また経済経営研究所図書係は、定員3名を配置している。
- ・ 平成22年4月に設置した大学文書史料室は、令和4年10月から定員1名を採用し、本年度末時点で定員3名（特命助教1名、政策研究職員1名・再雇用職員1名）、非常勤職員2名を配置している。
- ・ 6月30日付で定員職員1名（係長）、9月30日付で定員職員1名が退職した。
- ・ 10月から課長補佐の体制を、情報管理課1名・情報サービス課3名から、情報管理課2名・情報サービス課2名の体制に変更した。また、情報管理課課長補佐1名を電子情報担当とすることで電子図書館事業を強化した。
- ・ 10月から欠員の電子情報グループ震災文庫担当専門職員、前年度から欠員の資料整備グループ整備担当専門職員は、情報管理課課長補佐2名が兼任している。
- ・ 令和5年3月時点の職員の配置状況は、以下のとおりであった。なお、巻末付録には令和5年7月現在の組織図を掲載している。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	1係	2	5	7
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 2グループ 3係	22	17	39
	自然科学系図書館	サービス課長 サービス課課長補佐 2係	7	2	9
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
楠地区	医学分館	サービス課課長補佐 1係	3	4	7
名谷地区	保健科学図書室	1係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	1係	2	2	4
		計	44	35	79

六甲地区	経済経営研究所図書館	1係	3	0	3
	大学文書史料室		3	2	5

- ・ 社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、資料整備グループ受入担当・雑誌担当・目録担当・整備担当は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 電子情報グループ電子図書館担当、同情報システム担当（社会科学系図書館配置）及び情報サービス課の情報リテラシー係（自然科学系図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当し、社会科学系図書館及び

総合・国際文化学図書館以外は、各館室の整理部門も担当している

- ・ 自然科学系図書館改修工事に伴い、令和 3 年 12 月から人文科学図書館及び社会科学系図書館に分散し設置していた臨時事務室は、改修工事の終了に伴い令和 5 年 2 月末に閉室した。

＜在宅勤務・自宅待機＞

- ・ 本年度中の神戸大学の活動制限指針において、事務体制はレベル 1 であったことから、職員の在宅勤務は実施せず、時差出退勤のみの対応とした。
- ・ 自宅待機については、神戸大学の職員が新型コロナウイルス感染症陽性者と接触があった場合の自宅待機等期間の基準に則って対応した。

＜職員の採用と育成＞

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験合格者の中から、4 月に 1 名を採用した。
- ・ 上記 1 名が「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修」を受講した。「神戸大学新任職員研修」はオンデマンドでの開催となった。
- ・ 大阪大学附属図書館と人事交流を実施した（係員 1 名、令和 4～5 年度の 2 年間）。
- ・ 令和 2 年度から、国立情報学研究所に定員 1 名を出向（3 年間）させていて、令和 5 年 4 月に転籍の予定である。
- ・ 退職者、転籍者の補充として、令和 5 年 4 月に定員 3 名を採用予定である。
- ・ 附属図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。本年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果を研修計画等に反映した。
- ・ 放送大学を利用した新任係長相当職研修を 1 名、自己啓発研修に 1 名が受講した。
- ・ 例年開催される研修の多くは Web での開催となり、大学図書館職員長期研修も 1 名が Web にて受講した。他機関・他団体等の主催する各種研修、主題専門知識の研修等も Web にて多数開催され、職員が参加し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

※参加者：「専門職員」→「係長」、「事務員」→「係員」に統一表記

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会 (オンデマンド配信)	文化庁	9/28-29	係員 1
	大学図書館職員短期研修(Web 開催)	東京大学 京都大学	10/18-21	係員 1
	大学図書館近畿イニシアティブ初級研修 (Web 開催)	近畿イニシア	8/29-30	係員 2
	若手職員研修	神戸大学	9/8-9	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館職員長期研修 (Web 開催)	筑波大学	7/4-15	係長 1
	神戸大学係長相当職研修	神戸大学	7/13-14	係長 3 係員 1
	大学図書館近畿イニシアティブ中級研修 (Web 開催)	近畿イニシア	2/2,2/9	係員 3
管理職向けの研修	大学経営人材育成セミナー	神戸大学	10/12,24,11/9, 28	係長 1

	精神・発達障害者しごとサポーター養成講座(Web 開催)	神戸大学	10/27	部長 1 課長 1
	幹部職員セミナー 「大学広報:組織と戦略」	神戸大学	12/15	部長 1 課長 1
	人事評価に係る研修会	神戸大学	2/22	部長 1 課長 1 課長補佐 1
個別業務の 専門的知識 のための研修	漢籍整理長期研修	東京大学	6/6-10, 9/5-9	係員 1
	日本古典籍講習会(Web 開催)	国文学研究資料館	7/12-15	補佐員 1
	目録システム書誌作成研修(Web 開催)	国立情報学研究所	9/6,9/13,11/18	係員 1
	漢籍担当職員講習会	京都大学	10/3-7(初級) 11/7-11(中級)	係員 1
	近畿地区国立大学法人等会計事務研修 (Web 開催)	大阪大学	11/29-30	係員 1
	西洋社会科学古典資料セミナー (Web 開催)	一橋大学	10/26	係員 2
	NDL レファレンスサービス研修 経済社会情報の調べ方 (Web 開催)	国立国会図書館	11/10	係長 1 係員 1
	オープンアクセス新任担当者研修 (Web 開催)	JPCOAR	12/20	係員 1
その他の講演 会・研修会等	・第 93 回日本医学図書館協会総会分科会 ・ Japan Open Science Summit (JOSS2022) ・(NII)学術情報基盤オープンフォーラム 2022 ・第 123 回日本医学図書館協会近畿地区例会 ・第 6 回 JMLA コア研修 ・JUSTICE 電子資料契約実務研修会 ・第 11 回学術コミュニケーションセミナー (月刊 JPCOAR) ・国立大学図書館協会シンポジウム「大学図書館はどこへ向かう? 変えるべきこと、継承していくこと」 ・国立大学図書館協会セミナー「災害と図書館」 ・(神戸大)アプリケーションソフトウェア研修「Excel 応用」「Access 基礎」 ・国立大学図書館協会東海北陸協会地	国立情報学研究所、日本医学図書館協会、JUSTICE、SPARCJapan、JPCOAR 国立大学図書館協会、文部科学省、国公立大学図書館協力委員会、図書館総合展運営委員会、神戸大学、大阪大学、千葉大学		管理職を含め のべ 67

	区事業研修会「知ろう学ぼう考えよう～大学図書館の研究データ管理・公開支援～」 ・(NII) CAT/ILL リプレイス & 電子リソースデータ共有サービス説明会 ・第 24 回図書館総合展 ・(文部科学省) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会 ・(神戸大) ダイバーシティフォーラム「ジェンダー・性・セクシュアリティが尊重される社会をえがくー私たちの課題と展望ー」 ・(神戸大) 救急講習会 ・(JANUL OS 小委員会) 研究データポリシー策定のためのワークショップ ・(神戸大) 広報業務研修会 ・国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会「地区協会助成事業のこれまでとこれから」 ・(国公立大学図書館協力委員会) 図書館等公衆送信サービス関係者協議会における協議状況報告 ・(NII) 研究データ管理(RDM)説明会 2022 in 大阪～ ・第 6 回 JMLA 学術集会 ・(JMLA) 診療ガイドライン文献検索ワークショップ ・(JANUL OS 小委員会) GakuNin RDM に触れてみる会 ・国立大学図書館協会東北地区協会職員研修「ストレスマネジメント」 ・(JANUL OS 小委員会) 「研究データ管理支援の実践に向けた事例共有・意見交換会」 ・(大阪大) オープンサイエンス時代の研究データ管理支援と求められる人材の育成 ・SPARC Japan セミナー2022 ・国立大学図書館協会関東甲信越地区助成事業「研究データ管理(RDM)と大学図書館業務」 ・(千葉大) 第 5 回アカデミック・リンク/ALPS セミナー ・第 12 回被災地図書館情報交換会			
--	---	--	--	--

＜業務の改善と効率化・合理化＞

① 業務の標準化・合理化

- ・ 係横断的なワーキンググループ（以下 WG）を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。本年度は、総合図書館資料選定委員会（選書 WG）・情報リテラシー教育支援 WG・アウトリーチ WG・業務改善 WG・展示 WG・次期図書館システム検討 WG・オープンアクセス推進 WG・電子データ整備 WG・図書館リニューアル WG（自然科学系図書館・海事科学分館）が活動した。また、研究データ管理に関する事項を検討するために、研究データ管理検討 WG を新たに設置した。

② アウトソーシング

図書装備付納品、電子化コンテンツの作成業務、資産点検業務のアウトソーシングを実施した。

③ 業務改善の検討

- ・ 前年度に続き附属図書館内での事業として、WG を中心に図書館事務部全体で業務改善に取り組んだ。前年度からの継続事項 12 件は 5 件完了で 7 件継続、本年度の提案事項 20 件は 16 件完了で 4 件継続となった。DX による業務の効率化に関わるものとして、リポジトリ登録時のメタデータの整形を自動化するプログラムの作成及びリポジトリでの公開時にメタデータを自動取得しツイート用の文言を自動出力できる仕組みを整えたことが特筆される。そのほか、利用者アンケートに Web フォームを利用することで集計作業が省力化できた。また前年度に引き続き、押印を要する手続きに対応し、廃止可能な手続きはすべて書類の様式の変更を実施し押印を廃止した。

◆評価と課題

前年度から欠員となっていた課長補佐 2 名は、10 月から情報管理課 2 名・情報サービス課 2 名の体制に変更の上、配置した。また、情報管理課課長補佐 1 名は電子情報担当とし、電子図書館事業を強化した。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で Web での研修が中心となかったが、場所・時間の制約なく参加できるという利点から、職員は積極的に学内外の研修を受講し、個々のスキルアップに努めることができた。また、対面での研修も徐々に再開されたため、対面での参加が必要な専門主題に関わる研修への職員派遣を行った。今後も厳しい予算状況ではあるが、対面とオンラインの研修をうまく使い分け、職員のスキルアップを行っていききたい。なお、研修の報告は全職員にメール送付することで成果を共有し、他の職員の能力開発にも役立てている。

ワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。特に次期図書館システム検討 WG については、8 月末にシステムリプレイスが完了し、その後も問題なく稼働できている。図書館リニューアル WG（自然科学系図書館・海事科学分館）については、自然科学系図書館の改修工事と、各スペースのレイアウト、機器・什器の選定を本年度に行い、令和 5 年 4 月 3 日にリニューアルオープンする。

アウトソーシングによる効率化については、時間外開館及び土・日開館業務の外部委託は、予算の縮減と委託経費の上昇により維持困難と判断し、開館時間・開館日を見直したうえで、学生アルバイトと非常勤職員（パート）の雇用により実施した。業務改善については、継続検討となった課題に新規事項も加え、DX による業務の効率化も視野に入れながら、引き続き取り組んでいく。

（３）予算及び財務会計業務

＜本年度附属図書館予算・決算＞

① 既定経費（経常運営費・経常事業費）等

- ・経常運営費は当初予算配分 140,318 千円、途中追加配分により 209 千円を加えた結果、最終配分総額 140,527 千円、決算額 147,683 千円であった。前年度の当初予算配分 141,310 千円からは減額となったが、追加配分が多くあったことから前年度決算額 137,782 千円からは増額となった（当初予算額 R3 予算比 992 千円 0.7%減、決算額 R3 決算比 9,901 千円 7.1%増）。
- ・経常事業費は当初予算配分 108,518 千円、学内預り金制度から 20,000 千円を配分した結果、最終配分総額 129,062 千円、決算額 121,140 千円であった。前年度の当初予算配分 111,573 千円からは減額となったが、前年度決算額 101,329 千円からは増額となった（当初予算額 R3 予算比 3,055 千円 2.7%減、決算額 R3 決算比 19,811 千円 19.5%増）。
- ・本年度の学生用資料費は、前年度に続き、運営費交付金の機能強化促進係数（1.6%）の減額を適用せず、当初配分は前年度と同額の 40,000 千円を維持した。電気料金等光熱費の価格上昇に対応するため、年度当初は各館室への配分額の 50%を保留とし、予算の状況をみて保留の解除及び執行を行った。結果、1 割強が光熱費に充当されたため決算額 35,276 千円となった。大学文書史料室管理運営経費は前年度から 1.6%減の 6,117 千円とした。
- ・附属図書館長裁量経費から、自然科学系図書館改修工事完成後の集密書架や什器、書架等の移転移設等として 38,804 千円を、社会科学系図書館書籍移動作業として 1,540 千円を執行した。
- ・各部局が施設面積に応じて負担している建物老朽化対策経費 4,462 千円が差引かれているが、収入確保インセンティブ経費より繰入れ充当している。
- ・以上の既定経費（経常運営費と経常事業費、大学文書史料室運営経費、神戸大学出版会既定経費合計）の当初予算配分は 254,953 千円で、前年度の当初予算配分 259,099 千円から 4,146 千円 1.6%の減であった。年度中の複写料収入を含む収入確保インセンティブ経費等からの繰入を加えた既定経費の予算総額は 282,060 千円、決算総額は 280,918 千円となり、予算残額は 1,141 千円となった。

② 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費として確保した 383,110 千円により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。
- ・図書館時間外開館経費として確保した 6,533 千円により、全館室（休館中の自然科学系図書館、及び経済経営研究所図書館を除く）の時間外開館を実施した。
- ・自然科学系図書館の改修を、前年度と本年度の 2 年で実施した（移転費 8,382 千円、建物新営設備費 20,843 千円、設備整備事業経費 20,269 千円、施設整備費補助金 447,030 千円、施設整備費補助金（附帯設備）6,743 千円）。
- ・前年度に続き、社会科学系図書館管理棟の外壁工事を実施した（学内営繕・環境対策経費 18,660 千円、施設営繕事業 42,307 千円）。さらに施設営繕事業費にて書庫 A 棟照明設備改修工事 42,307 千円を実施した。

③ その他の経費

- 日本無線株式会社との間でネーミングライツ・パートナーの協定が締結され、海事科学分館 1 階 学生自習室を令和 5 年 1 月から 1 年 6 ヶ月の期間「JRC Biblio」と呼称することとなった。ネーミングライツ料として年間 60 万円（税抜）の収入があり、50%が大学本部へ 50%が図書館への配分となる。



(JRC Biblio ネーミングライツ施設開設記念式典 令和 5 年 2 月 7 日開催)

- 電子ジャーナルの契約では、転換契約を 1 社と締結し、各年 79 本まで学術論文の OA 出版が可能となった（対象期間：2023 年 1 月～2025 年 12 月の 3 年間）。OA 出版を希望する場合は、著者から図書館に一定額を負担してもらうことで、著者が高額な APC を支払うことなく OA 出版することが可能となり、図書館の収入確保と大学の経費節減が期待できる。本年度は著者負担額として 80 万円の振替があった。
- 国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」構築のための経費（94 千円）により、古典籍修復を実施した。画像作成（撮影）については、国文学研究資料館が直接外注業者と契約（2,401 千円）したため経費に含めていない。
- 電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金（研究成果公開促進費）」が採択され、9,175 千円を獲得し、学内予算とあわせて画像データ 2,523 枚、及びテキストデータ 8,733 記事分を作成した。

④ 特記事項

- 光熱水料の高騰に備え、当初配分 26,058 千円、追加配分 27 千円、さらに臨時的経費 1,940 千円の追加配分等により、26,750 千円での執行となった。
- 学生用資料費（約 4,723 千円）の執行残については、光熱費高騰に備え当初配分額の半分を保留としていたことから執行時期に遅れが生じたこと、また年度末の調整として扱われたことによる。
- 収入確保インセンティブ経費に計上している ILL 等収入については、コロナ禍前の令和元年度と比較して令和 2 年度は約 1,700 千円（約 34%）も減少したが、前年度は約 350 千円（約 7%）の減少、本年度は 331 千円（約 6.5%）の減少と前年度とほぼ同程度となった。僅かながらの回復にとどまりコロナ禍前の水準には至っていない。
- 図書館システムの更新を行い、情報化推進経費及び次期図書館システムネットワーク整備で 50,285 千円の配分があり、49,357 千円での執行となった。
- 自然科学系図書館リニューアルにあたり、伊藤喜商事株式会社から、テーブル 4 台椅子 16 脚の寄付があり、4 階ホワイエに設置した。

⑤ 学内貸付・預り制度の利用

- ・図書館内設置の目録検索用端末を更新する目的で、平成 30 年度に研究科長等運用経費として借入れた 2,000 千円の返済のため、400 千円を充てた（5 年返済の 4 年目）。

（単位：千円）

		H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
目録検索用端末 更新経費	貸付制度	2,000						2,000
	返還		400	400	400	400	400	2,000

- ・自然科学系図書館改修のため、学内預り金制度を利用した。前年度は、18,000 千円を預り金とし、本年度は、20,000 千円を配分とした。

（単位：千円）

		H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	合計
自然科学系図書館 改修関連経費	預り制度			7,000	18,000			25,000
	配分				5,000	20,000		25,000

※令和 4 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

- ・本年度の資産点検は、社会科学系図書館、人間科学図書館及び経済経営研究所図書館で実施し、点検総冊数は 255,048 冊であり、アウトソーシングの契約により実施した。

② 不明資料の追跡調査

- ・令和元～前年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
（資産点検時不明資料 3,556 点、追跡調査による発見資料 2,853 点、追跡調査後不明資料 703 点）

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料（平成 30 年度資産点検時からの不明資料）を不用決定した。
（101 点、資産価格 402,445 円）
- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。（23,953 点、資産価格 94,042,966 円）

◆評価と課題

本年度の当初予算配分額は、前年度から 4,146 千円減額の 254,953 千円となり、光熱水料の高騰に対応するため、資料購入費の執行を保留するなど苦慮することとなった。

自然科学系図書館の改修については、前年度から引き続き実施しており、令和 5 年 3 月に竣工した。移転費や建物新営設備費、設備整備事業経費、施設整備費等の経費が予算措置され、学内預り金制度の活用で確保した 20,000 千円等とあわせ、什器・設備類の設置や移転作業を実施できた。

時間外開館の実施においては、既定経費の減少により、本年度は令和元年度以前の実施規模の維持が困難であったことから、学内予算要求を行い、6,533 千円の予算措置を受けた。図書館配分の 10,000 千円とあわせて、経済経営研究所図書館及び改修工事のため休館中の自然科学系図書館を除く全館室にて、時間外開館を実施した。時間単価の高い業務委託から学生アルバイト及び非常勤職員への変更を行うな

どの経費節減を図ったが、令和元年度以前の実施規模には至らず、開館時間を1時間から1時間30分短縮することとなった。図書館の既定経費で時間外開館を維持することは難しく、今後も予算確保が課題である。

また、学生用資料費についても、いままでは維持に努めていたが、これ以上の経費節減が難しくなっていることから、見直しが必要となってきた。ネーミングライツをはじめ外部資金の獲得にも注力しつつ、限られた規模の予算を適切に執行していく必要がある。

（４）施設整備・システム整備

＜各館室の施設整備・設備更新＞

- ・ 本年度における主な事項は、以下のとおりである。

社会科学系図書館	管理棟外壁改修工事实施（前年度から継続）、書庫暗幕設置（A棟、B棟3-4階の前年度残り）、書庫A棟B棟の感知式照明設置、教育用端末撤去後閲覧席転用のためのパーテーション設置、開架室壁面書架増設
自然科学系図書館	書架・集密書架新設、机・椅子等什器類購入、カーテン・ロールスクリーン設置、サイン類更新、防犯カメラ更新、無線アクセスポイント増設、除湿機6台増設、冷蔵庫2台増設
人文科学図書館	自動貸出返却装置更新、LC書架増設、書庫書架増設
人間科学図書館	修士論文保管用キャビネット増設
医学分館	エレベータ更新、空調・換気設備更新、地階非常口電気錠交換
海事科学分館	書庫除湿機設置

＜安全点検＞

- ・ 附属図書館安全衛生会議を、構成単位である社会科学系図書館と大学文書史料室の2館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用しており、本年度はメール回議にて4回開催した。自然科学系図書館については、改修工事中であることから衛生管理者を置かないこととした。次年度は自然科学系図書館での巡視を再開することから衛生管理者を復活させる。
- ・ 安全衛生活動計画を策定し、週1回の衛生管理者による巡視を実施した。また、年1回図書館独自の自衛消防・防災訓練の実施を計画し、全館室で実施した。
- ・ 火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

＜情報機器の更新＞

- ・ 利用者用 PC 等の設置台数は次のとおりである。

	総・国	社会	自然 (*1)	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合 計
PC 台数	8	17	4	10	7	0	5	3	3	57
蔵書検索用端末等(*2)	(8)	(14)	(4)	(5)	(6)	(0)	(5)	(3)	(2)	(47)
スタンドアロン	(0)	(3)	(0)	(5)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(10)
貸出用PC	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ノート	(10)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(10)
無線LANAP(*3)	6	8	11	3	2	0	4	5	3	42

注) (*1) 本年度中は改修工事・開館準備中、開館は令和 5 年 4 月

(*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源(れきおん)配信サービス」に対応する端末を含む

(*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

＜システム整備＞

- ・ 令和 4 年 9 月に予定通りシステムリプレースを完了した。
- ・ リプレース完了後は、機能改善や問題点の解消を随時行った。
- ・ 業務用 PC について、Windows8 のサポート期限到来に伴って該当端末については Windows10 への更新を行った。

＜自動貸出装置等＞

- ・ 自動貸出装置等の設置場所は次のとおりである。

自動貸出装置	全館室(研究所を除く)
入退館管理システム	全館室(研究所を除く)
BDS(無断持出防止装置)	全館室(研究所を除く)
24 時間入退館管理システム	医学分館
セルフ式コピー機(コイン式等)	全館室

◆評価と課題

社会科学系図書館管理棟の外壁について、タイルが剥落する危険性があるため、建物老朽化対策経費等により改修工事を前年度から実施し、令和 5 年 3 月に完成した。

空調機については、夏季の高温多湿に機器の老朽化も相まって、常に故障の懸念があり、更新の必要性は高い。厳しい予算状況が続く中、限られた範囲で適切に対応するとともに、施設部や大学執行部等に予算措置の必要性を引き続きアピールしていく必要がある。特に医学分館の空調については学内営繕費の予算要求をしている。

前年度に引き続き本年度も、学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を実施し、令和 5 年 3 月に竣工した。4 階にコラボレーションルーム 3 室、イノベーションスタジオ 1 室を設け、3 階は一部サイレントスペースを除き LC となり、グループ学修に適した什器や設備を備えたことにより、学修環境が大きく向上した。

海事科学分館建物の改修については、施設部、海事科学研究科や関係機関との意見交換を行っており、イノベーションコモンズとして教育研究支援の機能強化を図るために改修を行う方向で検討を進めている。

る。一部図書館の書架が配置されている 1 号館など、深江キャンパスマスタープランに関わる点もあることから、引き続き、施設部、海事科学研究科と意見交換を行い、対応していく。また、改修により書庫面積が減少することも想定し、除籍等で不用な図書の整理を進めていく必要がある。

医学分館においては、過去に医学科教務学生委員会から自習場所の増設について要望があったが、楠地区では福利厚生施設が次年度はじめに竣工し、それに伴う既存の福利課外施設の再整備の一環で医学研究科による LC 設置が検討されており、図書館としては引き続きその動向を考慮して対応する必要がある。

なお、各館室改修等の進め方については、『神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について』において、その指針を示している。

図書館システムについては、令和 4 年 9 月のリプレースを大きなトラブルもなく予定通り完了させることができた。サーバのクラウド化（情報基盤センターのサービスを利用）、デジタルアーカイブシステムの図書館システムとの統合、施設予約等の新機能の追加が主な変更点である。また、システム更新に合わせてネットワークの構成についても見直しを行った。具体的には、事務系機器は事務系ネットワークに移行するとともに、自動貸出機及び利用者用の端末等については、それぞれのプライベートネットワークに移行した。今後はシステムの安定した運用の維持と、改善を要する点への対応が課題である。

（５）図書館界での諸活動

＜国立大学図書館協会＞

- ・ 西ブロックの監事館を務めた。
- ・ オープンサイエンス小委員会、システム委員会の委員を務めた（事務部長）。
- ・ オープンサイエンス小委員会タスクフォースに、係長 2 名、係員 1 名が参加した。
- ・ 令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業の実施担当となり、フォーラム「ILL/DD サービス 2.0 へ向けて」を開催した（1 月 27 日、実施形式：Zoom によるオンライン形式）。全国の国公私立大学図書館から 98 機関 235 名の参加申込みがあり、当日の最大接続数は 205 であった。
- ・ 京都大学・大阪大学・神戸大学が主担当で実施する国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業「きみも大学図書館で働いてみないか」（通称：キダハミ）に課長 1 名、係員 3 名がワーキングメンバーとして参加した。

＜オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）＞

- ・ 係員 1 名がコンテンツ流通促進作業部会会員を務めた。

＜国立情報学研究所、JUSTICE＞

- ・ 係長 1 名が学術認証運営委員会 図書館系サービス作業部会委員を務めた（平成 27 年度から継続）。

＜これからの学術情報システム構築検討委員会＞

- ・ 係員 1 名がシステムワークフロー検討作業部会会員を務めた。

＜国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター拠点連携委員会＞

- ・ 係長 1 名が拠点連携委員会委員を務めた。（令和元年度から継続）

＜兵庫県大学図書館協議会＞

- ・ 引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。

- ・ 7月29日に第121回総会をZoomによるオンライン形式にて開催し、28機関43名が参加した。規約の一部改正を行い、毎年の総会にて次年度の会費の徴収及び金額を確認することとし、令和5年度は徴収しないことが承認された。
- ・ 今後の事業について、2月1～24日の期間で加盟館にアンケート調査を行った。
- ・ 研修事業においては、新型コロナウイルス感染症により実施しないこととなった。

＜研修等への講師・発表者の派遣＞

- ・ 他機関、団体が開催する研修や講習会には、本年度は次の通り職員を講師・担当者等として派遣した。

研修名	主催	会場	日時	講師等
国立大学図書館協会シンポジウム	国立大学図書館協会	オンライン	9/28	事務部長（パネリスト）
国立大学図書館協会地区協会助成事業成果共有会	東北大学	オンライン	12/2	自然科学系情報サービス係員
国立大学図書館協会東海北陸地区協会 研修会	金沢大学	オンライン	2/8	情報サービス課課長補佐
第17回 月刊JPCOAR	JPCOAR	オンライン	2/15	事務部長 電子図書館担当専門職員

＜その他＞

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 大学図書館近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 社会科学系図書館が所蔵する、大正9年の川崎造船所での労働争議における松方幸次郎社長と労働者側との会見録である『怠業中松方社長對職工側委員會見録並営業時間及賃銀改正ニ關スル顛末』が、日本労働ペンクラブが認定する「労働遺産」の2022年度第2回認定において、「わが国における8時間労働制の実施発祥の地」に係る遺産として選定された。2月18日に開催された認定書交付式に館長が出席した。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、本年度もWeb等での活動をとおりて会員間の連携と協力を図ることに努め、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

他機関が開催する研修事業に講師や担当者等を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

令和４年度 神戸大学附属図書館年次報告

<付録>

神戸大学附属図書館今後１０年の運営方針について	付録 １
KU VISION 2030	付録 ２
達成度評価	
令和４年度事業年度に係る業務の実績（第４期中期目標）	付録 ３
数値結果実績（第３期～第４期）	付録 ４
達成度評価の根拠資料	付録 ５
附属図書館開催イベント・セミナー等のアンケート結果	
附属図書館に関する自己点検・評価結果、 及びそれを踏まえた対応措置	付録 ６
自然科学系図書館の改修とその結果	付録 ７
基本統計表	
蔵書・受入等の現況（各館室別）	付録 ８
サービス業務の現況（各館室別）	付録 ９
電子的情報サービスの現況	付録 １０
図書館組織図・事務組織図	付録 １１
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	付録 １２
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	付録 １３
附属図書館活動日誌	付録 １４

神戸大学附属図書館今後 10 年の運営方針について
(平成 29 年 11 月 8 日～令和 9 年 3 月 31 日)

趣旨

神戸大学附属図書館は、神戸大学の使命に基づき、世界トップクラスの教育・研究活動を将来にわたって支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、人類の知の発展を導く卓越した研究成果を世界に発信する拠点となることを理念として掲げ、学内外にサービスを提供してきた。しかし、法人化後 3 度目の中期目標期間を迎えて、大学をとりまく環境は大きく変容し、大学図書館の果たすべき役割も、大学の基本機能としての従来の在り方に加えて、教育・研究支援組織としての新たな方向性が求められている。本方針は、今後 10 年を視野に置き、図書館機能の強化と革新のために用いるものとして定める。

1. 知を創出する「場」の提供

(1-1) アクティブラーニング等新しい学習スタイルに対応した環境の整備

神戸大学ラーニングコモンズ (LC) 検討ワーキンググループ報告書の構想に基づき、附属図書館のうち 4 館に基幹となる LC が整備された。LC 未設置の館室においても、改修に合わせて LC のスペースを確保し、双方向型授業やアクティブラーニングなどの課題解決型の能動的学習の推進を支援する。また、PC 必携化等の学生の ICT 環境の変化に対しても多様な利用形態に対応した学習空間を整備する。

(1-2) 分野を超えた研究をつなぐ場としての環境整備

本学が掲げる文理融合の研究を強力に推進するため、自然科学系図書館に大学院生レベルの研究ディスカッション、プレゼンテーションの練習、サイエンスカフェ等が行えるスペースを確保し、部局を越えた融合研究を醸成する場として展開する。

(1-3) 各館室の改修

前 2 項を達成することを主眼とし、(2-4) に掲げる蔵書の分担収蔵も考慮しながら、未改修の医学分館、海事科学分館の改修計画を各キャンパス関係部局及び財務部・施設部等と調整・立案し、実現に向けた予算要求を実施する。

2. 蔵書ならびに知識や情報の共有

(2-1) 電子ジャーナルをはじめとする研究基盤としての資料整備

先端研究と文理融合を掲げる本学にとって研究基盤の充実是不可欠である。大手出版社の電子ジャーナルパッケージやデータベースは、価格の上昇や為替変動、消費税の影響を受けながら契約規模を維持してきた。現在は教育研究基盤資料整備費として全学予算の中に

組み入れられており、多くの利用実績がある。今後、限られた予算の中で最大限の研究基盤を、全学的な合意を得ながら整備していく。

（２－２）学習の基礎となる学生用図書の整備

附属図書館は法人化以降、学生用図書費の確保を最重点事項として、資料整備に努めてきた。平成 25 年度からは、教員と連携してシラバス型パスファインダー（授業に関連する参考文献リスト）「KULiP」を作成し、掲載図書を複数冊備えたコーナー設置を開始した。今後も協力教員を拡大し、授業で指定される参考文献・必読図書を網羅的に収集し、利用に供するとともに、多数の同時アクセスが可能で学外からも利用でき、大規模授業への教材提供に適した電子書籍を積極的に導入し、自学自習に必要な学生用図書の整備をさらに進める。

（２－３）国際化に対応した資料整備、サービスの提供

グローバル人材育成事業から配分を受けて整備した英語多読テキスト、各言語の検定試験問題集等の語学資料や留学関係資料を引き続き充実させ、本学の学生の国際性を一層涵養する。また世界から参集した優秀な留学生・研究者に対して、資料整備に加えて外国語によるレファレンス等の多文化・多言語サービスを提供し、学習・研究活動をサポートする。

（２－４）全館室の効率的な資料収集と、蔵書の分担収蔵

9 館室で構成される附属図書館は、従来より総合・国際文化学図書館を学部 1・2 回生向け、及び複合分野・基礎的資料の重点館とし、他の館室はそれぞれ学部 3 回生以上を対象に専門的な資料を収集する方針としている。各館室間で資料を流通させる図書館デリバリーサービスを利用することにより、館室間での資料重複購入を最小限とする。また、すでに所蔵している重複資料については可能な限り処分するとともに、利用頻度の低い資料や製本雑誌の管理については、共同利用書庫としての手動式集密書架を要求し、スペースの有効活用を図る。

（２－５）大学固有の学術情報資源、教育研究成果のオープン化の推進

社会への説明責任及び大学のブランディングの観点から、神戸大学の所有する学術情報資源や教育研究成果のオープン化を推進し、長期的な保存をはかる。「神戸大学オープンアクセス方針」（平成 29 年 1 月学長裁定）に基づき、本学教員著作の学術論文をリポジトリに登録する業務を図書館が積極的に担い、さらにエビデンスとしての研究データの登録が可能なように、一部の部局や情報基盤センターと連携してシステム・サーバ構築の最適化を図る。

3. 人材の育成と参画

（３－１） 教員・学生・一般利用者など多様な人材の参画

図書館の活動は多様化しており、これまでも教員の協力を得て展示会やライティングセミナーなどを開催したり、学生の提案を広報活動に生かしたりしてきた。今後は図書館に関わる様々なステークホルダーに積極的に働きかけ、教員、職員、学生、一般利用者等と緊密に連携しながら、それぞれのスキルや知識を活かしつつ、新たな知の共有と創出を促す。

（３－２） 新たな人材の確保と職員の資質向上

各館室のサービスと蔵書構築に必要な専門的知識の習得など、職員の資質向上のための研修を行う一方、オープンデータの推進に関わるなど新たな人材の確保や育成を目指す。また、学術情報流通の変化に伴い、海外の動向を踏まえた新たな知識やスキルの習得が求められているため、職員を国際会議に参加させたり海外事例の調査研究に継続して派遣したりするなど、組織として育成の環境を整える。

4. 財政的な課題ほか

（４－１） 各館室維持費の確保

全館室総計で2万㎡を超える面積を保有・運用している。利用対象者は学生・教職員合わせて2万人を超え、年間300日以上開館するための光熱水費、備品・設備・建物の維持・更新には一定の金額が必要である。附属図書館は外部資金等による補填が期待できないため、維持経費を安定的に確保することが重要である。

（４－２） 外国雑誌センター・電子図書館事業について

外国雑誌センターは一橋大学とともに人文・社会科学分野における外国雑誌の収集拠点として設置されている。また、電子図書館事業も全国15大学に配分され、本学の電子図書館は震災文庫・新聞記事文庫をはじめとしたコンテンツが外部から高い評価を受けている。もともと法人化前に措置されていた予算が運営費交付金に組み入れられており、これらの事業は今後とも堅実に運用していく責任がある。

（４－３） 大学文書史料室及び大学出版会について（附属図書館が事務を担当する部署）

附属図書館は従来からの図書館業務以外に、大学文書史料室（平成22年度）、大学出版会（平成29年度）の事務を担当している。それぞれに予算や人員、設備等の課題があるが、関連する部局等と連携しながら安定的な運用と発展をめざす。

（平成29年11月8日 附属図書館運営委員会承認）

（令和2年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

（令和3年7月6日 附属図書館運営委員会改訂）

たゆまざる情報の収集・発信と利活用促進 附属図書館情報戦略

教育支援

教養・専門教育を支え新たな価値創造環境を強化する

■学修資料の整備

- ・教科書・シラバス掲載資料など、教養教育・専門教育を支える基本的な資料を整備する
- ・百科辞書・専門分野の事典などを整備する
- ・電子ブック・新聞データベース・電子教材などを整備する

■情報の活用支援

- ・「情報」の探し方等に関する基本的な情報リテラシーの習得を支援する
- ・文献管理ソフトウェアなど情報活用ツールの利用を支援する
- ・学生の能動的学修を誘発する広範な支援を行う

社会貢献

大学や地域の記録を保存するとともに電子化・公開を進める

■デジタル・アーカイブの構築を通してデジタル・ヒューマンティーズの基盤を形成

- ・図書館が所蔵する貴重書など様々な資料の電子化・公開を進める（震災文庫、新聞記事文庫、神戸開港関係資料ほか）
- ・関係部局等と連携して大学や地域の記録を収集・保存し、電子化・公開を進める

■神戸大学の歴史を伝える

- ・大学文書史料室を中心に神戸大学の歴史資料（特定歴史公文書）・法人文書等を収集・保存するとともに一般の利用のための調査業務や展示・公開をおこなう

■研究資料の整備

- ・研究に不可欠な電子ジャーナルやデータベースなどの購読を維持する
- ・費用対効果に留意し、大学が必要とする資料を戦略的に整備する

■学術成果リポジトリの整備

- ・神戸大学の教育研究成果（学術論文・博士学位論文・紀要論文・教材・研究データなど）を集中的に整備し、DOIを付与して公開することで他機関等からの可視性、利便性を向上させる

■学修環境の整備

- ・多様なアイデアを引き出し主体的な学修活動を促進するため「ラーニング・グロモンズ」を整備する
- ・個人学習のための「自習室」を整備する
- ・資料を用いて学習・調査するための「閲覧室」を整備する

■資料を活用した知の交流

- ・独自性のある資料や教科書にてくるような著名な図書を活用した展示・解説をおこなうなど知の交流事業を実施する

研究支援

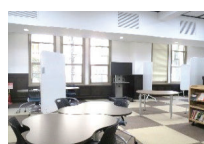
研究のインフラを維持するとともに神戸大学の教育研究成果を公開することで可視性を向上させる

知の広場

神戸大学全構成員の情報インフラとして現実空間・仮想空間双方に知の交流のための広場を展開する

119

知的刺激と交流をひろげる 附属図書館



課題と現状

DX進展への対応

■デジタルアーカイブ・学術成果リポジトリの構築

■情報リテラシー教育の推進

- ・図書の探し方、情報の探し方、データベースの検索方法などの講習会を実施

■ラーニング・グロモンズの整備

- ・人文科学図書館(2013)、社会科学系図書館(2014)、総合・国際文化学図書館(2015)、保健科学図書室(2021)、自然科学系図書館(2023)

■図書館室の協同によるスペースの有効活用

展望

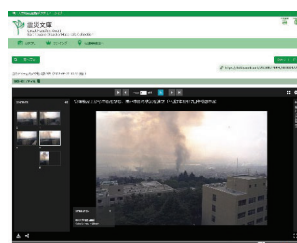
2022 から 2030 へ

- ・資料電子化に要する経費の確保をはかるとともに大学・地域の記録・記憶である資料や貴重資料等の電子化・公開を進める

- ・YouTubeやZoom等を活用し、情報の取扱いに関するセミナー等の内容を充実させる

- ・多様な人との交流・議論・協同・創造的学習のための空間であるラーニング・グロモンズを海事科学分館・医学分館にも設置し、イノベーションをうみだす価値創造空間としての活用を促進する

- ・全学の図書館室が協力し、各館の特色を活かしつつ、全学的観点からスペースの有効活用を図る

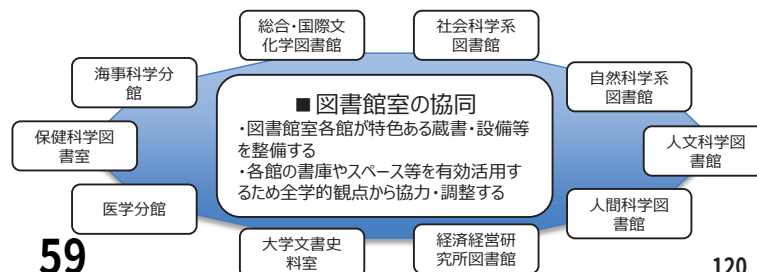


新聞記事文庫
Newspaper Clippings Collection

震災文庫
Great Hanshin-Awaji
Earthquake Disaster Materials Collection

貴重書・特殊コレクション
Special Collections

神戸大学学術成果リポジトリ
KERNEL - Kobe University Repository



2030年までのロードマップ



中期計画期間		第4期						第5期
		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028～2030年度
教育支援	知の広場	学修資料の整備 （学生用資料・電子ブック・新聞データベース・電子教材など） 学生用資料の充実、電子ブック拡充、学習用データベース・電子教材等の提供による教育支援						学生用資料費確保による 学習資料の整備
		情報リテラシー教育・利用者支援の推進 （ガイダンス・セミナー等の充実） 図書館DXによる利用者支援の検討・推進						図書館DX推進 による利用者支援
社会貢献	研究支援	ラーニングコモンズの整備 （自然科学系図書館・海事科学分館に設置） 自然科学系図書館 ラーニングコモンズ完成 楠地区 ラーニングコモンズ予定 海事科学分館 深江キャンパス再開発による改修						ラーニングコモンズ活用 による学習支援
		図書館室の協同によるスペースの有効活用 （ラーニングコモンズ・書庫等の共同利用） 資料を活用した知の交流事業 （資料展） 2022年度資料展 古典籍でみる鎖国下の漂流 2023年度以降 震災資料・古典籍等を利用した資料展						社会貢献となる 資料展の継続開催
		デジタルアーカイブ・学術成果リポジトリの構築 新聞記事文庫（科研費獲得による公開促進）（市民参加型翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」利用） 貴重資料などの電子化・公開、歴史的典籍ネットワーク事業による古典籍の電子化・公開 神戸大学の教育研究成果（学術論文・博士学位論文・紀要論文・教材・研究データなど）の公開						新聞記事文庫 戦前期 公開完成 資料電子化・公開推進
		教育研究基盤資料の整備 （電子ジャーナル・データベース） 第4期中期計画期間前半(2022-2024) 上限4.1億円 第4期中期計画期間後半(2025-2027) 未定						電子ジャーナル・データ ベースの維持提供による 教育研究支援

令和4年度事業年度に係る業務の実績(第4期中期目標)

国立大学法人神戸大学 第4期中期目標

I 教育研究の質の向上に関する事項

1社会との共創

2教育

3研究

4その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

III 財務内容の改善に関する事項

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

V その他業務運営に関する重要事項

KU VISION 2030

たゆまざる情報の収集・発信と利活用促進(附属図書館情報戦略)

KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
教育支援	教養・専門教育を支え新たな価値創造環境を強化する	■学修資料の整備 ■情報の活用支援	【アウトプット】 ・学生用資料費として当初配分で40,000千円を確保し、各館室の学生用資料やシラバス掲載資料等の整備を実施。E-Study事業費は別枠として4,664千円確保。ジャパンナレッジは、対面授業に戻ってきたことから同時アクセス無制限からコロナ禍以前と同様のアクセス数5に戻した。 ・郵送による資料貸出を通常サービスとして実施。(R4年度3月末時点で延べ17件、71冊) ・チャットによる利用者相談受付を通常サービスとして実施。(R4年度3月末時点で延べ182件) ・全学共通科目「情報基礎」(1年次必修)の1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー12名が担当、昨年度同様オンデマンド型遠隔授業で実施。(前期後期計23回、2668名受講)。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンスを、6学部に対しすべて対面で計38回実施、862名受講。 ・教養教育院の授業(総合教養科目)「阪神・淡路大震災B」の1回目の中で、震災文庫の紹介を対面(受講者28名)にて実施、「阪神・淡路大震災A」でオンライン遠隔授業(受講者100名)を行った。 ・学生の多様なニーズを直接選書に反映させる学生選書ツアーは、3年ぶりに店頭選書での開催ができた。11/4午前と午後の2回実施し、17名参加、172冊(333,299円分)購入。 ・2020年度措置した大学機能強化支援資料費を中心に購入したSDGs推進室とV.Schoolの推薦図書(それぞれ10冊と20冊の合計30冊、通常は総合・国際文化学図書館に所蔵)の巡回展示について、前年度に続きR4年4月に人文科学図書館、5月に保健科学図書室にて実施し、自然科学系図書館(改修中のため閉館)と経済経営研究所図書館を除く全ての館室での展示が終了した。 ・R4年度末時点でのシラバス型パスファインダー「KULiP」は公開数46件、資料/情報の探し方ガイドは公開数22件、セルフラーニング資料は新規作成9件、更新17件の計26件登録。YouTubeチャンネルは公開数18件、更新6件であった。YouTubeのチャンネル視聴回数は10,040件と前年度9,604件から若干ではあるが増加している。 ・学生と職員の協働の取組として、学生サポートチームULiCSが読書会、おすすめ本の展示、イベント、他大学との交流などを行い、活発に活動した。また、神戸大学出版会ともコラボした展示も行い、出版会の本のアピールにも貢献した。広報誌は年2回(4月,10月)に発行・Webにて公開している。
			【アウトカム】 ・学部生及び大学院生の図書貸出冊数は、217,652冊(R4年度末)となり、前年度より1割以上増加。学生への貸出冊数は、コロナ禍以前の貸出冊数(H30_208,442冊 R1_209,180冊)を超えた。 ・電子ブックコレクションMaruzen eBook Libraryのアクセス回数は31,763回(R4年度末)となり、前年度(33,133)より若干減少したが、ほぼ同程度利用されている。 ・全学共通科目「情報基礎」、学生アンケートでは、昨年度と同様に肯定的な評価を得ている。 ・初年次セミナーにおける図書館ツアー・ガイダンス、実施担当教員へのアンケート(回答29)にて全員から肯定的評価を得た。 ・学生選書ツアー、アンケート回答者15名のうち9割14名が満足と回答。
KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
知の広場	神戸大学全構成員の情報インフラとして現実空間・仮想空間双方に知の交流のための広場を展開する	■学修環境の整備 ■資料を活用した知の交流	【アウトプット】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止措置に伴い、また大学の活動制限指針の変化に応じて、閲覧席数を制限しての開館を行った。時間外開館については、時間外開館経費10,000千円、事業経費6,533千円の予算配分があり、コロナ禍以前よりは少ない時間数ではあるが、全館室にて時間外開館を実施した(経済経営研究所図書館及び改修工事のため閉館している自然科学系図書館を除く)。 ・自然科学系図書館改修工事により、1階・2階・3階(一部)に共同利用書庫が増築、2階閲覧室が改修、3階・4階ラーニングコモンズ、共創スペースが改修及び増築された。(改修3,272㎡、増築900㎡) ・日本無線株式会社とのネーミングライツが締結され、海事科学分館1階学生自習室が1月から「JRC Biblio」と呼称することとなった。 ・教員と連携して、国際文化学研究推進インスティテュート主催地域連携センター発足記念セミナー「観光とまちづくり:京都・美山」を総合・国際文化学図書館にて12/22に開催。参加者11名。 ・学生の読書推進及び図書館利用・貸出促進のため、「読書マラソン」を開催(11/1～1/16、延べ43名参加)。2019年度まで毎年開催していたがコロナ禍により実施できていなかったイベントであり、3年ぶりの開催であった。LINEを使用して読書した冊数によりポイントが貯まり、ポイントに応じて景品を受け取ることができることから参加者が増えた。
			【アウトカム】 ・R4年度の年間入館者総数は370,273となり、前年度より5割近く入館者数が増加したが、コロナ禍以前の入館者数の半数程度に留まっている。 ・読書マラソン、アンケート(回答10名)全員から肯定的評価を得た。

KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
研究支援	研究のインフラを維持するとともに神戸大学の教育研究成果を公開することで可視性を向上させる	■研究資料の整備 ■学術成果リポジトリの整備	【アウトプット】 ・電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料を計画的・安定的に提供するため、R5年度整備費の確保を実施。 ・電子ジャーナル購読料とOA出版料(APC)の包括契約を1社と締結し、各年79本までOA出版が可能。2022年1月～3月まで18論文がOA出版となった(対象期間:2023年1月～2025年12月の3年間)。 ・「学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集に努め、その公開を推進した。(登録総数:36,487件(R4年度末))。 ・オープンアクセス推進WGの成果として、KUID 登録論文2,217件の著作権調査を実施し、公開可能なもののうち前年度以前の調査分も含め499件について登録依頼した結果、131件を登録できた。また、オープンアクセス・オープンサイエンスに関する情報収集を行い、その内容を記事として掲載の上、ニュースレター『Kernel通信』を9月と1月の2回発行した。 ・博士論文ウェブ公表に関する説明資料を、博士課程入学時ガイダンス・オリエンテーション(4月と10月)での配布・周知用に、各研究科へ送付。10月用には英語版も作成して送付。 ・「戦前期新聞経済記事文庫データベース」として申請していた科学研究費補助金研究成果公開促進費920万円を獲得した。学内予算とあわせ、画像データ2,523枚およびテキストデータ8,733記事分を作成し、登録準備をすすめている。 ・収蔵スペースの有効活用を図るため、重複図書・雑誌等の廃棄を実施。(9館で計23,953冊廃棄) ・資産点検における不明図書について毎年追跡調査を行い、不明期間が3年以上経過した資料の不用決定を実施(総合国際、人文、人間、保健)。 ・自然科学系図書館の増床を含む改修が予算採択され、また収蔵能力拡大のための集密書架の設置費用も予算措置され、3月に改修完成。集密書架の新設で収容可能冊数約15万7千冊増加し、約35万冊が収容可能となった。さらに、共同利用書庫約8万6千冊を確保できた。
			【アウトカム】 ・電子ジャーナルのアクセス数は、1,419,910件であった。 ・学術成果リポジトリの年間ダウンロード数は1,258,543、新聞記事文庫トップページアクセス数は、58,193件となった。システムリプレイスによる集計方法が変更になったことから、以前からの数値との比較はできない。 ・KUID 登録論文の著作権調査を実施し、登録依頼した131件を登録できた。
KU VISION 2030			実績(アウトプット/アウトカム)
社会貢献	大学や地域の記録を保存するとともに電子化・公開化を進める	■デジタル・アーカイブの構築を通してデジタル・ヒューマンティーズの基盤を形成 ■神戸大学の歴史を伝える	【アウトプット】 ・震災文庫における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開を継続して実施。震災デジタルアーカイブ、メタデータレコード、総数:56,858件、入力件数:111件、新規受入資料数:403件(R4年度末) ・サンテレビジョンと本学が締結した包括連携協定における主要な取組として、サンテレビジョンより提供された阪神・淡路大震災の取材映像(81件)を、人文学研究科地域連携センターの協力を得て、震災デジタルアーカイブで公開開始(6/3,1/12)。 ・デジタルアーカイブ事業において、システムリプレイスにより国際規格に対応する改良を行い、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」、NDLサーチ及びジャパンサーチとの外部連携を行った。なお、「人と防災未来センター」「兵庫県立図書館」との横断検索システムは、システム改修のためR4年3月をもって終了した。 ・電子図書館事業により、「新聞記事文庫」などの経済関係資料及び学内研究成果等のデジタル化を推進し図書館HPで公開。 ・国文学研究資料館の構築する古典籍データベースに収録公開のための古典籍電子化として、昨年度電子化分546点をR4年10月に、今年度電子化分135点をR5年2月に、本学デジタルアーカイブにて画像公開、所蔵資料の電子化公開を推進した。「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の拠点大学として、歴史的典籍NW事業で撮影・電子化映像公開を行った資料点数は累計2,350点となり、令和4年度中に5,124件のアクセスがあった。 ・人文学研究科により昨年度電子化された人文科学図書館小林文庫の古典籍4点をデジタルアーカイブ「貴重書・特殊コレクション」にて公開した。 ・資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」を3年ぶり会場にて開催し、22点の貴重書現物を館員が作成した説明を付与して学生や広く一般にも公開した。(会期:R4,10/14～11/10,11/16～12/20)。 ・阪神・淡路大震災発生日にあわせ、震災文庫のリバイバル展示を開催。(会期:R5,1/12～31) ・国大図協近畿地区助成事業「きみも大学図書館で働いてみないか」実行委員会(京大・阪大・神大共催)による「100人の大学図書館員展」のパネル展示を開催。(会期:R5,2/1～14) ・神戸大学史・巡回展(神戸Ⅱ)「神戸大学120年・創立120周年記念-」を社会科学系図書館展示ホールにて開催。(会期:R5,2/18～3/27) ・著作権法改正による「図書館等公衆送信サービス」への対応として研修会「ILL/DDサービス2.0へ向けて」を国大図協近畿地区協会助成事業として、1/27にオンライン形式により開催した(最大接続人数205名)。 ・卒業生・放送大学生・EU研究修了証プログラム登録者の入館・貸出をR5年2月13日より再開した。一般市民への図書館開放や資料の館外貸出サービスは、昨年度に続きサービス停止中。
			【アウトカム】 ・デジタルライブラリーの震災文庫トップページアクセス数は、11,279件であった。システムリプレイスによる集計方法が変更になったことから、昨年度の数値との比較はできない。 ・デジタルアーカイブ全体の利用数は、124,301件であった。 ・資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」アンケート回答者58名のうち8割の51名がよかったと回答。 ・著作権法改正による「図書館等公衆送信サービス」への対応として研修会「ILL/DDサービス2.0へ向けて」、アンケート回答者122名の9割が「参考になる」との評価があり、参加者より好評を得た。

H28～R4（2016～2022）年度 数値結果実績（第3期～第4期）

項番	区分	指標	第3期					第4期	備考（根拠など）	
			2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31/R1	2020 R2	2021 R3		2022 R4
1	教育体制	図書館入館者数	933,960	887,079	823,380	812,400	76,659	193,979	370,273	サービス業務現況表
2		総開館日数（9館の合計）	2,580	2,540	2,524	2,528	1,759	2,088	2,219	
3		時間外開館時間数	9,929	9,787	9,746	9,966	568	1,246	6,497	
4		貸出冊数	278,857	261,665	250,767	252,937	115,731	224,989	254,356	
5		学生一人当貸出冊数	13.9	13.2	12.4	12.5	5.6	11.7	13.3	
6		学内デリバリー貸出冊数	32,336	32,131	33,324	34,700	14,298	21,534	25,095	サービス業務現況表
7		電子書籍アクセス数（丸善eBooks）	366	921	1,765	3,005	15,171	33,133	31,763	年次報告
8		ガイダンス等の実施件数	234	241	180	171	54	92	117	情報基礎,初年次セミナー,ガイダンス等（オーダーメイドガイダンス,新入生向け図書館ツアー,図書館主催ガイダンス,オリエンテーション）,英語セミナー,ライティングセミナー
9		ガイダンス等の参加人数	6,302	7,254	6,603	6,829	2,935	5,451	5,589	
10		パスファインダー等作成・更新件数（R2までパスファインダー作成件数）	53	34	46	33	33	73	84 (180)	KULiP（公開件数＝作成・更新） 授業資料ガイド及び（作成・更新件数）資料/情報の探し方ガイド,セルフラーニング(PDF・動画)の合計 （）年度末時点での公開件数
11		YouTube利用件数	1,371	1,621	1,174	1,473	8,967	9,604	10,040	YouTubeチャンネル視聴回数（2022.4.1～2023.3.31）
12	教育体制	イベント回数（資料展示・巡回展示・各館テーマ展示・トークイベントほか）	52	60	60	60	15	41	43	資料展示(デジタル資料展含む),各館テーマ展示（テーマ展示/仮想展示/巡回展示(のべ)）,トークイベント,読書マラソン/オンライン読書室,選書ツアー,書評・キャッチコピーテスト,その他 年次報告記載より
13		OPAC検索回数	2,304,661	3,030,333	2,642,383	1,954,918	1,500,063	1,716,776	1,981,405	電子的情報サービス現況表
14		アカウントサービス提供回数	108,584	98,659	100,430	104,063	84,214	186,478	208,187	
15		（内訳）申込件数・文献複写	8,105	7,838	6,933	6,353	5,270	6,082	5,367	
16		（内訳）申込件数・現物貸借	2,007	1,654	1,504	1,326	1,079	1,381	1,128	
17		（内訳）申込件数・学生希望	2,148	1,774	1,849	1,866	877	1,486	1,327	
18		（内訳）申込件数・貸出期間延長	33,120	31,076	32,050	34,598	41,154	113,442	130,837	
19		（内訳）利用状況確認件数・貸出・デリバリー・予約	52,782	46,966	49,484	51,656	29,927	56,814	65,573	
20		（内訳）利用状況確認件数・文献複写・貸借	9,733	8,675	8,004	7,838	5,580	6,845	3,402	
21		（内訳）その他・メールアドレス登録・変更・削除	605	456	382	367	182	201	229	
22		（内訳）その他・タグ（新規登録件数）	70	202	203	44	128	205	273	（OPAC）タグ：各自で目
23	（内訳）その他・タグ（人数）	14	18	21	15	17	22	51	印がつけられる機能	

項 番	区 分	指標	第3期						第4期	備考（根拠など）
			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
			H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	
24	研究 体制	EJタイトル数	26,061	25,424	35,287	35,579	36,418	37,077	37,668	蔵書・受入等現況表
25		EJアクセス数	1,091,082	1,255,471	1,201,452	1,265,457	1,334,576	1,420,345	1,419,910	電子の情報サービス現況表
26		主要データベース	26	25	27	26	26	26	26	年次報告
27		リポジトリ登録数（年間増加数）	1,106	1,525	1,796	2,851	2,015	1,728	2,021	年次報告
28		リポジトリ登録数（累計数）	24,551	26,076	27,872	30,723	32,738	34,466	36,487	
29		リポジトリ利用数	1,220,534	1,168,672	1,123,313	1,445,459	2,050,717	2,488,851	1,258,543	論文等ダウンロード回数
30		リポジトリ博士学位論文登録総数	2,161	2,346	2,539	2,720	2,887	3,065	3,234	本文まで公開件数 修士論文も含む
31	社会 貢 献	震災文庫トップページアクセス数	12,127	7,344	11,661	20,037	15,849	12,734	11,279	電子の情報サービス現況表
32		震災文庫資料総数	56,197	58,061	59,291	60,595	61,516	62,392	56,858	年次報告 R4年度のシステムリプレイスにより、件数の算出方法が変更
33		震災文庫新規受入資料数	2,036	1,864	1,230	1,304	921	876	403	電子の情報サービス現況表
35		震災デジタルアーカイブ・入力件数	4,883	3,649	4,930	3,088	3,190	2,427	111	
36		新聞記事文庫トップページアクセス数	49,736	39,372	86,405	71,190	81,011	73,734	58,193	年次報告
37		新聞記事文庫デジタル化記事件数	294,581	299,306	303,986	311,113	326,956	356,325	327,636	
38		新聞記事文庫作成件数	4,600	1,900	15,880	10,383	2,087	11,988	0	
39		デジタル・アーカイブ利用数	-	-	-	-	-	-	124,301	R4年度のシステムリプレイスにより、デジタルアーカイブ全体の、メタデータ画面へのアクセス数が算出可となった。R4年度はR4年9月～R5年3月までの値。
40		展示会年間開催回数	5	7	10	7	1	1	5	全体

全学共通教育必修科目「情報基礎」
図書館担当コマ「第5回 情報の活用」
学生アンケート集計結果

集計: 選択項目 回答数: 2085名

(1) 図書館ホームページの利用方法について理解できましたか.	回答数	割合
1. 理解できた	1537	73.7%
2. 少し理解できた	459	22.0%
3. 少し難しかった	61	2.9%
4. 難しかった	12	0.6%
無回答	16	0.8%
(2) 図書館での情報検索の方法について理解できましたか.	回答数	割合
1. 理解できた	1565	75.1%
2. 少し理解できた	425	20.4%
3. 少し難しかった	66	3.2%
4. 難しかった	12	0.6%
無回答	17	0.8%
(3) 引用ルールなどアカデミックマナーについて理解できましたか.	回答数	割合
1. 理解できた	1358	65.1%
2. 少し理解できた	611	29.3%
3. 少し難しかった	84	4.0%
4. 難しかった	16	0.8%
無回答	14	0.7%
(4) 動画・PDF資料は、授業を理解する上で役に立ちましたか.	回答数	割合
1. 大変役に立った	1407	67.5%
2. 少し役に立った	599	28.7%
3. あまり役に立たない	45	2.2%
4. 全く役に立たない	14	0.7%
無回答	20	1.0%
(5) 今後、学修・研究のために図書館を利用したいと思いますか.	回答数	割合
1. ぜひ利用したい	1539	73.8%
2. 少し利用したい	487	23.4%
3. あまり利用するつもりはない	34	1.6%
4. 全く利用したくない	7	0.3%
無回答	18	0.9%

集計: 自由記述 回答人数(延べ数): 428

分類の内容	回答数	割合*
1. 図書館の使い方やアカデミックマナーなど、役に立った	78	18%
2. 説明や内容がわかりやすかった	30	7%
3. これからも図書館を使いたい	144	34%
4. 難しい、分からない	3	1%
5. 簡単すぎる	0	0%
6. 疲れる、長すぎる、無駄だ	1	0%
7. 教材(動画・PDFの表示方法等について)、課題、授業について	53	12%
8. 図書館への要望	27	6%
9. 図書館ホームページ、検索について	16	4%
10. その他	6	1%
未分類 単なる謝礼や感想、もしくは無意味な内容	70	16%
計	428	100%

*回答数に占める割合

2022年度 初年次セミナー
(令和4年4月15日-令和4年5月30日)
担当教員アンケート集計結果
回答総数:29

Q0_部局	全回答数	割合
文学部	0	0%
国際人間科学部	13	44.83%
法学部	7	24.14%
経済学部	2	6.9%
経営学部	0	0%
理学部	1	3.45%
医学部	0	0%
保健学科	0	0%
工学部	1	3.45%
農学部	0	0%
海洋政策科学部	5	17.24%

【選択式回答】		
Q1_初年次セミナーで、図書館に授業を依頼するのは今回何回目ですか？	全回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 はじめて	4	13.79%
2 2年目	4	13.79%
3 それ以上	8	27.59%
4 学部で依頼している	13	44.83%
Q1-2_どのような形態の実施を依頼しましたか？		
0 無回答	0	0%
1 対面	28	96.55%
2 オンライン	0	0%
3 オンデマンド教材	0	0%
4 その他	1	3.45%
Q2_初年次セミナーの中で、図書館担当授業は役立っていますか？		
0 無回答	0	0%
1 役に立っている	26	89.66%
2 どちらかというと役に立っている	3	10.34%
3 どちらでもない	0	0%
4 あまり役立たない	0	0%
5 役に立っていない	0	0%
Q3_今回の図書館担当授業は、受講した学生にとって有意義だと思いますか？		
0 無回答	0	0%
1 大いに思う	24	82.76%
2 どちらかと思う	5	17.24%
3 どちらともいえない	0	0%
4 あまり思わない	0	0%
5 全く思わない	0	0%

【自由記述】

Q4_今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見感想ご要望等、ありましたらご自由に記載をお願いします。

⇒別紙参照

【自由記述】

Q4_今回の図書館担当回について、その他日頃のサービス等、神戸大学附属図書館についてご意見ご感想ご要望等、ありましたらご自由に記載をお願いします。

学部	コメント
経済	感想ですが、図書館資料の所在を一通り確認できる貴重な機会だと思いました。丁寧にご案内頂き、ありがとうございました。
経済	図書館の中に入って雰囲気を知るだけでも十分意味はあると思います。どうもありがとうございました。
法	ガイダンス参加者が法学部に入学して間もない学生であることを踏まえたかたちで、図書館のサービスの利用方法や文献・論文の探し方のご案内、さらには図書館内部のツアーガイドをしていただいたおかげで、学生が今後の法学部における学習を円滑に進めていくことができるようになったものと思います。附属図書館のみなさまに貴重なご助力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。
法	(ガイダンス部分について)私の初年次セミナーではあまり調べ物をさせない構成になっているので、この授業で直接に活かせる内容はひょっとすると少ないかもしれませんが、初年次セミナーは一年生が必修として履修しますのでその他の授業も含めて今後活用できる基本情報やスキルを提供していただけたように思います。 雑誌についてご案内いただいた際に、「ジュリストなどはみなさんよく読まれると思いますが……」といった表現がツアーでもガイダンスでもあったのですが、学部一年生はまだ触れることがないように思いますので、今後は高校生に向けて案内するような気持ちでお話ししていただくもっと学生にピタリと当てはまるかもしれません。 また、私は法学を専攻しておりますが、法学部には政治学専攻の教員もおり政治学系の授業も行われておりますので、政治学系の文献案内や検索方法も例の中に入れていただけると、法学部の初年次セミナーとしてはより良かったかもしれません。私のほうで事前に要望としてお伝えすればよかったのですが、最中に気づきましたので、今更ですがフィードバックとしてお伝えいたします。
法	図書館ツアーを開催していただけるおかげで、新入生が図書館にアクセスしやすくなっていると思います。これからも可能な限り続けていただければ幸いです。また、図書館のウェブサイトに掲載されている「在宅学修・研究に利用できるコンテンツ」も、大変ありがたく使わせていただいております。これからもよろしくお願い申し上げます。
法	ありがとうございました。別の授業もお願いできるのを先ほど初めて伺いました。素晴らしい取り組みですので、教員サイドに周知していただければありがたく存じます。
法	本日の図書館ツアーで、ラーニングコモンズのグループ利用を再開(試行)したと伺いました。初年次セミナーでは、グループ報告を課しているので、グループで課題に取り組むスペースが学生さんには必要だと思うので、大変良い取り組みだと思います。試行から常設の取り組みとなると良いと思います。
法	個人的にはProject Museの雑誌へのアクセスが得られるといいと思います。⇒リテラシー係対応済
法	学生・院生にとって貸出可能な電子書籍(日本語)、ダウンロード可能な書籍(英語)にどのようなものがあるのかについて情報を増やしてほしいと思います。特に洋書では、OxfordのHandbookシリーズとか入っているのに気づいていない人が少なくないと思いますので。
理	改装工事中的なことなど、図書館の方ならではの情報もあり、大変有意義でした。学生も今年是不自由ではありますが、オンラインを中心に積極的に利用するモチベーションになったと思います。
工	授業の後に何名からの学生から質問が来ましたが:自然科学系図書館の蔵書は、今どこの図書館で閲覧や貸し出しが可能なのでしょうか?⇒自然系サービスから回答済
国際人間	今回は、学部一年生でしたが、WoSなどの学術論文を必要とする大学院生には、データベース説明会は有益だと思います。大学院の新入生にガイドがあるといいかもしれません。
国際人間	土曜日でも利用できるようになったことは初耳でした。職員の方々にはご負担ですが、教員・学生にはとてもありがたいです。
国際人間	時間的制約もありますが、書庫の中もう少し紹介していただけたら、と思います。また、情報基礎演習での図書館担当の回とツアーの間が時間的にあまり離れていないほうがありがたいです。
国際人間	日頃から大変使いやすい図書館だと思っています。学生がツアーで書庫や雑誌等の利用について知ることができるのは重要だと思いますので、今後も続けて機会を設けていただけたらと希望します。

国際人間	本日参加できずに申し訳ないのですが、今回のツアーでもデータベース利用について説明されていなければ、データベース説明会を別途クラスで申し込むことを考えてみたいと思います。それについて必要時間や実施可能時期などを教えていただけないでしょうか？どうぞよろしく願いいたします。⇒リテラシー係回答済
国際人間	図書館もそうですが、まずは大学の諸設備やシステムを実際にその場に行ったり目にしたりしてみることから、自分でも自主的に使うようになると思います。その意味で、ツアーはとても有意義です。コロナで2年間できなかっただけに、それをより強く感じています。
国際人間	検索サーチは、理系中心のものが多く、また、ヒット数が多すぎる。社会科学系では使いにくい。論文や本を検索したいとしても、新聞記事などが多数ヒットしてしまうものが多い。
国際人間	コロナ禍あけにおいて、本領が発揮されることになるとと思います。学生たちが以前のように図書館に戻ることを期待しています。
国際人間	(説明に追加すると良い事柄) 学生にはもっと図書館を有効に活用し、本をもっとたくさん読んでほしいと思っています。図書館は本を借りる、本を読むだけの場ではありませんが、そうした多様な活用の仕方を「学生の言葉」で紹介していただけると、新入生にはより身近に感じられるかもしれないと思いました。実際の学生がどう活用し、どのようにその利便さを感じているか等々です。 可能であれば来年度も初年次セミナーでの説明をお願いしたいと思っています。「情報処理」の授業でも図書館の説明があるそうですが、その内容とのすり合わせをしておく必要があるかと感じました。もしかして二重手間になる事を学科としてお願いしているのかと思ったからです。それはまた今後相談させていただきます。 (感想) いつもお世話になり、またご迷惑をおかけしています。特に文科系(社会科学系)の人間にとっては図書館およびそのサービスは不可欠のものです。今後もお世話になります。 卒論を書かせる際に、海外雑誌論文を読ませようと思っているのですがなかなか日常的にそれを利用するまでになれていません。工夫をしようと思っています。よろしくお願いします。
国際人間	(説明に追加すると良い事柄) 情報処理の授業で説明するとのことで、本学にはない論文の文献複写の話がございましたが、お話しいただければ幸いに存じます。というのも、二年前に、卒業論文を執筆している学部四年生が、文献複写依頼の仕方を知らず、他大学にあるが、他大学に依頼しなくてはいけないのかと質問されたことがあります。うちの共同研究室には補佐員がいますが、補佐員も知らなかったそうです。それで、うちの図書館に依頼すれば、取り寄せてくれると説明しました。学部四年生になっても知らなかったのが、驚きました。 このように、意外に図書館活用の仕方がわかっていなかったりするので、より一層、図書館活用の仕方を、学生にお教えいただければ幸いに存じます。 (感想) 今回、あらためて、蔵書を確認いたしました。書庫の一番下に古い論文などがあり、そこに数冊、過去の心理学の文献も置いてありましたが、10年以上前のものとは存じますが、重要な文献がありました。 人間科学図書館は、蔵書が充実しており、私などは、重要な古典的文献を読んで、確認するために、利用することが多いです。今の学生は、古典的文献をきちんと読んでいないことが多いので、古典的文献を読むことの重要性を、学生に伝えていただければ、より良くなるのではないかと思います。
国際人間	(説明に追加すると良い事柄) 情報基礎の内容と重ならないようにご配慮いただき、ありがとうございました。初年次として十分な内容をお話いただいたと思います。一緒に聞いていた私自身にも新しい発見がありました。 (感想) 早くパンデミックがおさまって、以前のように学生の図書館利用(資料活用やレポート作成、印刷)が活発になるとよいと思います。
海洋政策	一般的な図書館情報や館内の自由閲覧でも良いが、より実務的な「使い方」について説明をして頂きたかった。たとえば、冒頭に軽く説明をしていたが、ILLのやり方や、蔵書検索の方法、インターネットでの予約、蔵書依頼などについて(図書の依頼方法はゼミ生になれば教員を通じてすれば入れてもらえる可能性が高い、とは伝えていました。)
海洋政策	フリーでの見学ではなく、図書館職員さんの説明があったので、有意義に感じました。講義の一環とするなら、フリーでない方が良いように思いました。

ガイダンス実施に関する全学アンケート
(令和5年1月16日～2月17日)
集計結果
回答者数: 92

1 ご所属の学部・研究科を教えてください	回答数	割合
文学部/人文学研究科	15	16%
国際人間科学部/国際文化学部/発達科学部/国際文化学研究科/人間発達環境学研究科	18	20%
法学部/法学研究科	7	8%
経済学部/経済学研究科	11	12%
経営学部/経営学研究科	5	5%
理学部/理学研究科	8	9%
医学部医学科/医学研究科	2	2%
医学部保健学科/保健学研究科	3	3%
工学部/工学研究科	6	7%
システム情報学研究科	0	0%
農学部/農学研究科	8	9%
海洋政策科学部/海事科学部/海事科学研究科	9	10%
国際協力研究科	0	0%
科学技術イノベーション研究科	0	0%
(計)	92	
2 学年等を教えてください		
学部1年・2年	44	48%
学部3年・4年	28	30%
修士	11	12%
博士	4	4%
研究生・履修生・聴講生	0	0%
教員	2	2%
職員	1	1%
専門職学位課程	1	1%
専門職大学院生	1	1%
(計)	92	
3 他大学に在籍していたことがありますか？（他大学から神大の大学院に進学、編入等）		
はい	15	16%
いいえ	77	84%
(計)	92	
4 神戸大学で図書館職員によるガイダンス等を受けたことがありますか？（図書館主催ガイダンス・授業内での図書館職員によるガイダンスを含む）		
図書館主催ガイダンスを受けたことがある	9	10%
授業内で図書館員によるガイダンスを受けたことがある	28	30%
両方ある	3	3%
両方ない	52	57%
(計)	92	
5 どのくらいの頻度で図書館を利用していますか？		
ほぼ毎日	10	11%
週に2, 3回程度	34	37%
週に1回程度	16	17%
月に数回程度	17	18%
ほとんど使わない	15	16%
(計)	92	
6 レポートを書くときにWebを使った検索を行っていましたか？（複数回答可）		
OPACを使って神戸大学の資料を検索していた	52	28%
論文データベースを使った検索をしていた（CiNii Research, Web of Science等）	58	31%
検索エンジンを使った検索をしていた（Google, Yahoo!等）	69	37%
使っていなかった	6	3%
(計)	185	

7 レポートに必要な資料をどのように入手していましたか？（複数回答可）		
Web上で入手	90	51%
図書館へ行く	72	40%
書店へ行く	13	7%
その他	3	2%
(計)	178	
8 知っている、使ったことがある図書館サービスをすべて選んでください。（複数回答可）		
取寄せ：学内他キャンパスの図書館にある本や雑誌を、最寄りの図書館へ取り寄せる	65	24%
予約：貸出中の図書に予約をかける	66	24%
延長：web上で貸出期間を延長する	73	27%
どこでも返却：神大の図書館であれば、借りた場所と違う図書館でも返却できる	67	25%
(計)	271	
9 神大が所蔵する電子ブック・電子ジャーナルを使ったことがありますか？		
電子ブックを使ったことがある	92	67%
電子ジャーナルを使ったことがある	3	2%
両方使ったことがある	18	13%
使ったことがない	24	18%
(計)	137	
10 利用している検索システム・データベース・文献管理ツール等はどれですか（複数回答可）		
OPAC	65	26%
Find it! Kobe Univ.	36	14%
CiNii Research	53	21%
医中誌web	5	2%
JDreamIII	2	1%
Google Scholar	53	21%
Web of Science	6	2%
PubMed	7	3%
PsycINFO/ARTICLES	2	1%
ERIC	0	0%
Academic/General OneFile	2	1%
EndNote	5	2%
Mendeley	1	0%
Zotero	5	2%
その他	7	3%
(計)	249	
11 次のうち、知っているものを選んでください（複数回答可）		
図書館ホームページ	85	48%
図書館公式Twitter (@KobeU Lib)	69	39%
図書館の公式YouTubeチャンネル (kobeu lib (神戸大学 附属図書館))	24	13%
(計)	178	
12 大学のイベント情報は、どのように知ることが多いですか？※イベントへの参加・不参加は問いません※（複数回答可）		
学内掲示のポスター、チラシを見て	63	27%
大学のHP、うりぼーネットで	51	22%
大学広報課等のtwitterで	33	14%
図書館HPで	19	8%
図書館公式Twitter (@KobeU Lib) で	26	11%
先生や友人から聞いて	34	15%
イベント情報には興味がない、知らない	5	2%
(計)	231	
13 サークル等で広報をする時、どのような手段で広報をしていますか？		
SNS	6	11%
twitter	22	39%
instagram	17	30%
チラシ・ビラ	4	7%
ポスター	2	4%
ホームページ	1	2%
メール	1	2%
口頭	1	2%
新歓イベント	1	2%
KooBee	1	2%
(計)	56	

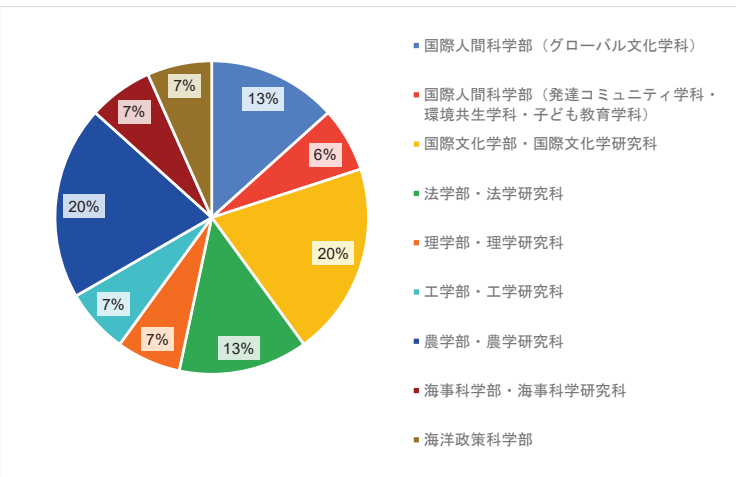
14 ガイダンスで取り上げてほしいサービス・データベース等を選んでください		
OPAC	51	19%
Find it! Kobe Univ.	46	17%
CiNii Research	43	16%
医中誌web	7	3%
JDreamIII	5	2%
Google Scholar	27	10%
Web of Science	17	6%
PubMed	7	3%
PsycINFO/ARTICLES	6	2%
ERIC	6	2%
Academic/General OneFile	10	4%
EndNote	18	7%
Mendeley	13	5%
Zotero	10	4%
その他	1	0%
(計)	267	
15 日本語論文の探し方を知りたいと思う（思った）のはいつですか？		
高校生	2	3%
学部1年	36	55%
学部2年	11	17%
学部3年	2	3%
学部4年	5	8%
修士1年	3	5%
その他	7	11%
(計)	66	
16 英語論文の探し方を知りたいと思う（思った）のはいつですか？		
高校生	0	0%
学部1年	19	31%
学部2年	12	20%
学部3年	4	7%
学部4年	6	10%
修士1年	8	13%
その他	12	20%
(計)	61	
17 参考文献リストの書き方を知りたいと思う（思った）のはいつですか？		
高校生	2	3%
学部1年	44	63%
学部2年	9	13%
学部3年	2	3%
学部4年	4	6%
修士1年	3	4%
修士2年	1	1%
その他	5	7%
(計)	70	
18 オンラインガイダンスと対面でのガイダンスとでは、どちらが参加したいと思いますか？		
オンライン	56	64%
対面	32	36%
(計)	88	
19 参加したいガイダンスはどちらのタイプですか？		
30分程度で、データベースの基本的な使い方がわかるガイダンス	58	67%
90分程度で、データベースの操作実習もあるガイダンス	27	31%
その他	1	1%
(計)	86	
20 図書館主催のガイダンス（授業外）で、どの時間帯なら参加したいと思いますか？		
平日1限よりも前	3	2%
平日1限よりも前	2	1%
平日2限	18	10%
平日昼休み	35	20%
平日3限	21	12%
平日4限	19	11%
平日5限	16	9%
平日5限よりも後	9	5%
公開期間3日間のオンデマンド	50	29%
その他	1	1%
(計)	174	

21	他大学図書館の取り組みで良かったこと、神大図書館にも真似してほしいことはありますか？
	・ 他大生及び地域住民が利用できること
	・ 机の上にコンセントを設置。同一書籍の同一分館・複数冊所蔵。
	・ 24時間開館
	・ 景品の充実
	・ 京都大学の深夜開館
	・ テスト期間の長時間開館(自習場所としての利用のみ)
	・ 昨年の雑誌の譲渡
	・ ヘビメタのライブ
	・ リフレッシュルームが使えるようになると嬉しいです。
	・ 飲食スペースの導入
	・ 休日の飲食スペースの確保（休日に図書館に来て自習すると、昼食をとれる場所がない）
	・ 申請をすれば学生が図書館の展示コーナーを利用できる仕組みがあり、ユニークな学生団体の取り組みや研究を知ることができた（東京大学駒場図書館）
	・ 貴重書の展示
22	ガイダンスについて、また図書館へのご意見・ご感想を自由にご記入ください
	・ 何度も繰り返しアナウンスしてくださると、どこか暇なタイミングで行ってみようかと思えます。
	・ 読書マラソンや様々なフェアなど、開催していただきありがとうございます。毎度のように楽しませてもらっています。図書館は面白い取り組みが多いので、もっと多くの学生に知ってもらえるような機会があればなと思いました。選書ツアー、前回は日程が合わず参加できなかったのも、次回の実施を心待ちにしております。
	・ うりこのイラストがたくさんあってかわいい。
	・ 入学時にガイダンスを受けましたが、そこで教わった内容を利用するようになったのは2-3年時だったので、毎年春頃にもっとガイダンスを大々的に宣伝していただければ良かったなと思います。
	・ 来年度も国文図書館の土日開館をぜひおねがいします！今年度は土日に空いていたので休日にも資料を探しやすくて研究や課題がやりやすかったです！文系学生は図書館が命なので、土日開館の継続を本当にお願いしたいです。
	・ 自然科学系もリニューアルオープン後、土日どちらかのみでもいいので休日開館してほしいです。
	・ 開館時間を短くしないでほしいです！！
	・ 多くの人に届けたいと思うなら、入学時に合わせるべき。法学部では初年次セミナーで図書館見学会がある訳だから、その時にガイダンスを併せるとほぼ全員に届く。
	・ 受け付けの人の愛想は良いが、人生をもっと達観して欲しい。
	・ 恥ずかしながらガイダンスの内容もほぼ忘れていたため、自力でデータベースの使い方等を調べた。図書館は本を借りる以外の利用方法があることを周知するポスターでもあれば良いかもしれません。
	・ 春に開催されていた図書館ツアーが非常にありがたかったです。友達を作るきっかけにもなりました。
	・ 延滞したときでも、もしまだ予約がなければ、短期間内（例えば三日以内）はネットで貸出延長ができると便利だと思いました。
	・ 早く座席の隔離を解除して欲しいです。特に3,4Fの個別ブースはそろそろ全席開放を検討してもいいのではないのでしょうか。
	・ 書庫の開館時間を、平日だけでなく休日まで延長するか、平日の開館時間を図書館の開館時間と同じほど長くしてほしい。図書館内にも、現金支払い可能でUSB対応のマルチコピー機を導入してほしい。
	・ 英語論文の探し方はとても勉強になりました
	・ 参加したのは3年以上前ですが、丁寧に教えていただいた記憶があります。今も心理的な障壁なく図書館を利用できているのは、あの時のガイダンスで良い印象があったからかもしれません。図書館の雰囲気が好きなので、ちょくちょく利用させてもらっています。ありがとうございます。
	・ 医学系のガイダンスに参加したいです
	・ 図書館員の態度が悪い館がある
	・ いつも利用しています。ありがとうございます。うりこ、かわいいです。

学生選書ツアー2022 アンケート集計結果(回答数：15)

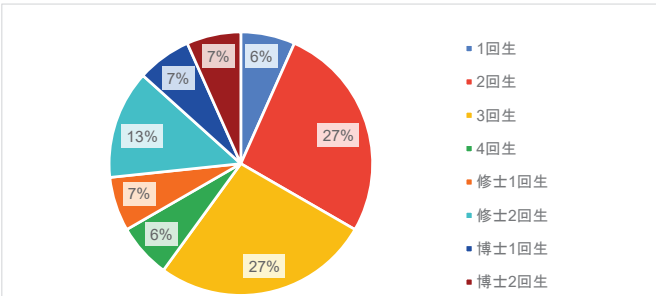
1. 所属学部・研究科を選択してください。

文学部・人文学研究科	0
国際人間科学部（グローバル文化学科）	2
国際人間科学部（発達コミュニティ学科・環境共生学科・子ども教育学科）	1
国際文化学部・国際文化学研究科	3
発達科学部・人間発達環境学研究科	0
法学部・法学研究科	2
経済学部・経済学研究科	0
経営学部・経営学研究科	0
理学部・理学研究科	1
医学部（医学科）・医学研究科	0
医学部（保健学科）・保健学研究科	0
工学部・工学研究科	1
農学部・農学研究科	3
海事科学部・海事科学研究科	1
海洋政策科学部	1
システム情報学研究科	0
国際協力研究科	0
科学技術イノベーション研究科	0
その他	0



2. 学年を選択してください。

1年生	1
2年生	4
3年生	4
4年生	1
5年生	0
6年生	0
修士1年生	1
修士2年生	2
博士1年生	1
博士2年生	1
博士3年生	0
その他	0

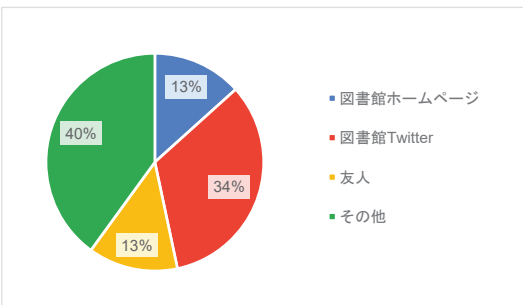


3. 参加された回を選択してください。

10：00～	5
14：00～	10

4. このイベントを知ったきっかけを教えてください。

図書館ホームページ	2
図書館Twitter	5
ポスター	0
友人	2
その他	6

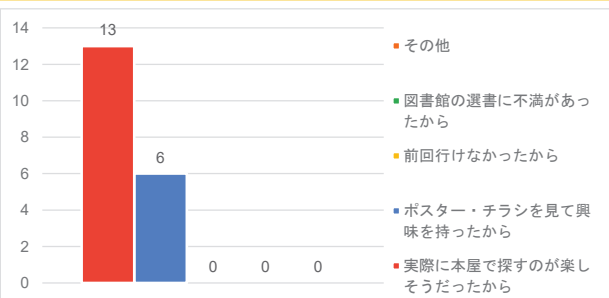


▼「その他」を選んだ方のコメント

うりぼーポータル	1
UIiCS担当の職員さんからのご案内	1
図書館からのメール※	3
※2022年4月～9月に、総合・国際文化学図書館へ学生図書購入リクエストをした学生宛に送ったもの	

5. 学生選書ツアーに参加した理由をお教えてください。【複数回答可】

ポスター・チラシを見て興味を持ったから	6
実際に本屋で探るのが楽しそうだったから	13
前回行けなかったから	0
図書館の選書に不満があったから	0
その他	0



▼「その他」を選んだ方のコメント

高校生の時にも同じような選書ツアーに参加して楽しかったから。
図書館の選書に関わりたかったから

6. 【4で「図書館の選書に不満があったから」を選んだ方】 不満の内容を教えてください。

(回答なし)

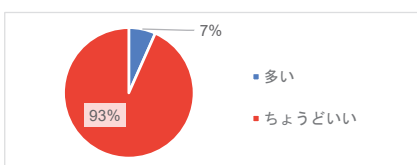
7. 今回の学生選書ツアーはいかがでしたか。

満足	14
どちらともいえない	1
満足ではない	0



8. 一人あたりの選書金額は適当でしょうか？

多い	1
ちょうどいい	14
少ない	0

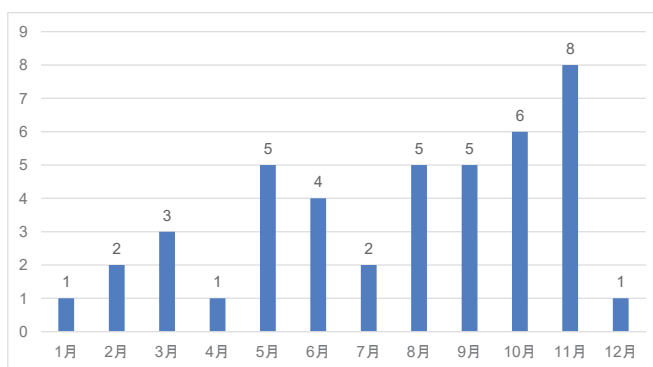


9. 今回の選書ツアーについて、感想・気づいた点・要望がございましたら、ご記入ください。

- ・金曜日に授業がある方や先着順に間に合わなかった方など、今回は参加できなかったが興味のある学生がいたので、ぜひ次回以降も開催していただきたいです。
- ・とても楽しかったです。自分が2万5千円与えられて選ぶ本を見ることで、自分の興味も再確認できました。
- ・選書後に参加者で話し合う機会があればよい
- ・学部一回生の頃はとても頻繁に国人の図書館を利用して頂いていた。学生さんの選書のコーナーも楽しく拝見していて、いいなあ！どうやってら参加できるのかなあ！と思っていました。図書館のTwitterがとても詳しく、情報を教えてくださいようになり、自分もよくチェックするようになったので、このツアーを知れました！いつもありがとうございます！参加できて楽しかったです！他の学生さんも興味を持ってくれるもの、役に立つものと思うと、新しいものだと思いたことがないものが多く、中身を詳しく見られないのもあってなかなか迷いましたが、色々選書ができてすごく楽しかったです！本屋さんワクワクして大好きです。まだ新しく面白そうな本を本屋さんから、学校の所蔵へ入れてもらえるために選ぶのがとても嬉しく思いました。ずっと続いて欲しいなと思います！
- ・じっくり探すとすると二時間では意外と少ない
- ・ツアーに参加した人同士で本を共有する等の機会があってもいいかなと感じた。

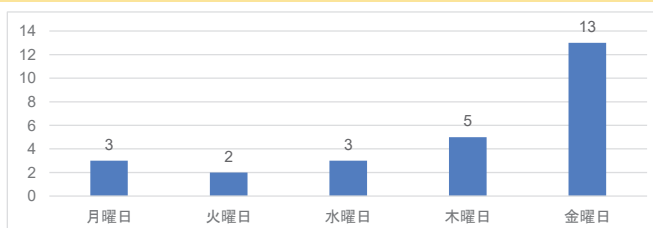
10. 学生選書ツアー実施時期は何月ごろがよいですか？【複数回答可】

1月	1
2月	2
3月	3
4月	1
5月	5
6月	4
7月	2
8月	5
9月	5
10月	6
11月	8
12月	1



11. 選書ツアーやガイダンスのようなイベントに参加しやすい曜日をお教えてください。【複数回答可】

月曜日	3
火曜日	2
水曜日	3
木曜日	5
金曜日	13



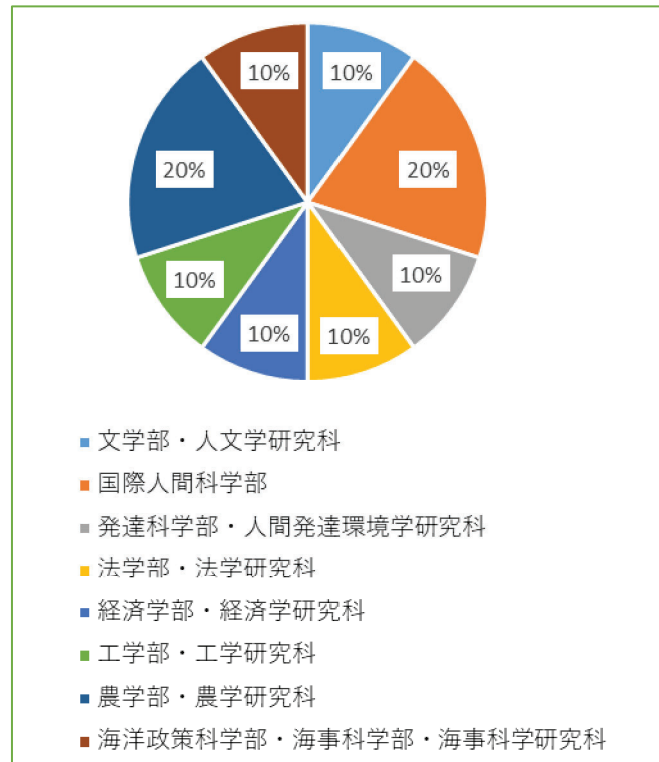
12. 今後図書館で開催希望のイベント等がございましたら、ご記入ください。

- ・ZINE（自主制作の冊子）を作るワークショップやZINEの交換会。
- ・ビブリオバトル
- ・読書が好きな人と本の話ができるイベント

読書マラソン 2022 アンケート（回答数 10）

Q1. ご所属等を選択してください。

所属	人数
文学部・人文学研究科	1
国際人間科学部	2
発達科学部・人間発達環境学研究科	1
法学部・法学研究科	1
経済学部・経済学研究科	1
工学部・工学研究科	1
農学部・農学研究科	2
海洋政策科学部・海事科学部・海事科学研究科	1

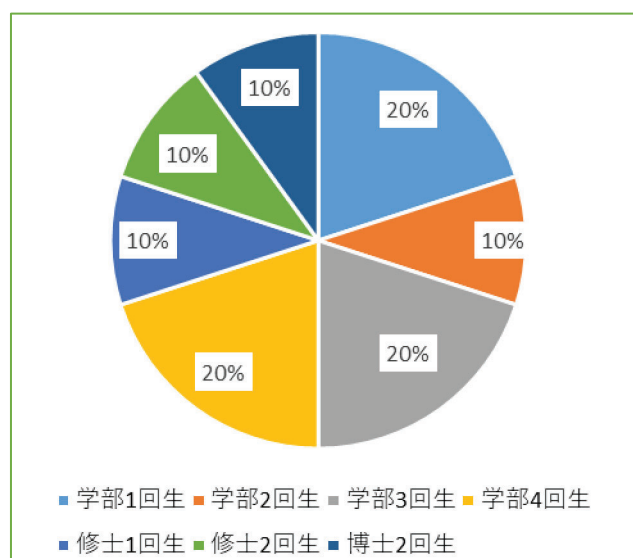


Q2. 〔Q1. で「その他」を選択された場合〕 ご所属を教えてください。

回答なし

Q3. 学年等を選択してください。

学年等	人数
学部1回生	2
学部2回生	1
学部3回生	2
学部4回生	2
修士1回生	1
修士2回生	1
博士2回生	1

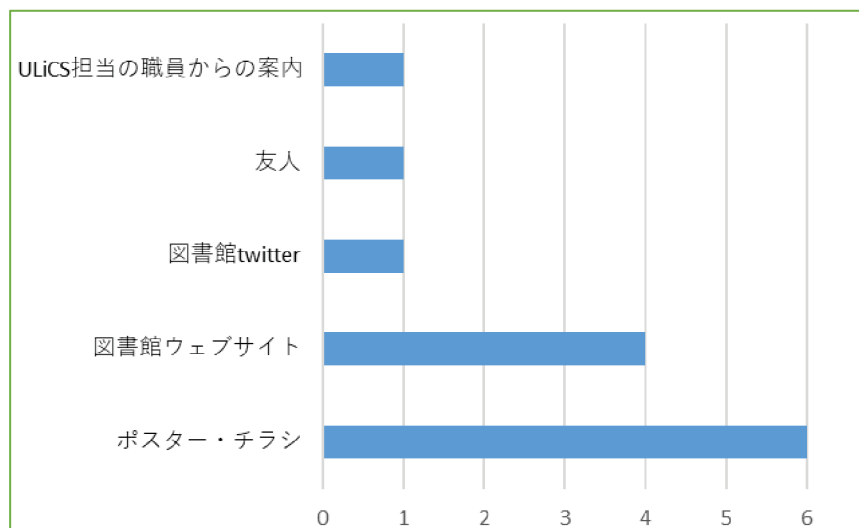


Q4. 「Q3. で「その他」を選択された場合」学年等を教えてください。

回答なし

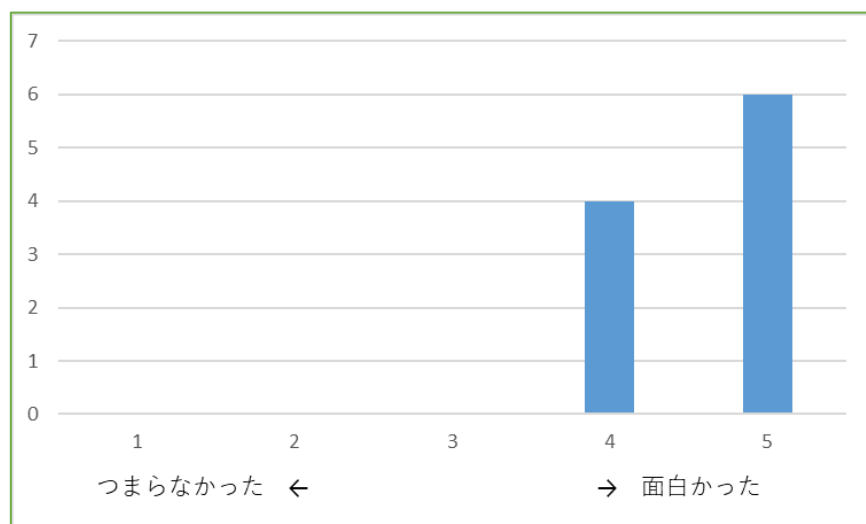
Q5. 「読書マラソン 2022」を知ったきっかけを教えてください。（複数回答可）

きっかけ	回答数
ULiCS担当の職員からの案内	1
友人	1
図書館twitter	1
図書館ウェブサイト	4
ポスター・チラシ	6



Q6. 「読書マラソン 2022」はいかがでしたか？

満足度	人数
1	0
2	0
3	0
4	4
5	6



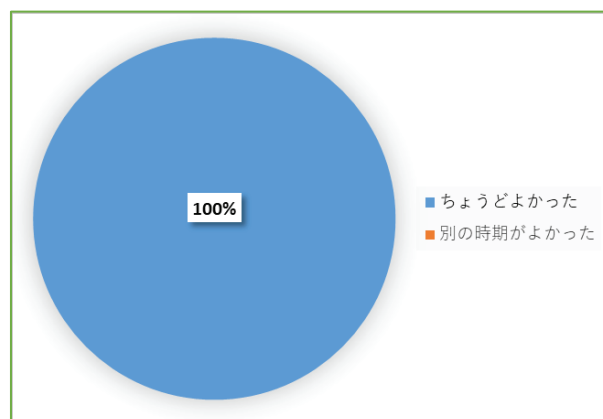
Q7. その理由を教えてください。

- ・大学図書館の利用促進になったし、なにより面白い本に出会えた。
- ・本の感想を言語化する機会を与えて貰えたから。
- ・うりこグッズが貰えるから
- ・読んだ本の感想を書くことで、その本を振り返ることができて楽しめるから。

- ・読書のやり甲斐があった
- ・ずっと読みたいと思っていたのに読めていなかった本を、まとめて読むことができたので。読む本を探すために、総合国際図書館の書架のあいだをフラフラするのも楽しかったです。今回は、後半は友人・知人からすすめられた本しぼりで読んでいました。そんな遊びができるのも、「10冊読もう！」という目標があるからかもしれません。
- ・ポイントとアイテムが引き換えで、かつ達成しやすい目標なのがやりがいがある。
- ・オリジナルバッグが欲しいなあと思って参加しましたが、読んだ本の記録メモを書く際、自分なりのまとめ感想にもなりますので、面白いでした。また、そのうちハマっていて、その本も読んでみたいなあという気持ちにも湧いてきます。
- ・グッズがあることで本を読むきっかけになったから。

Q8. 実施時期（11月上旬～1月上旬）はいかがでしたか？

ちょうどよかった	10
別の時期がよかった	0

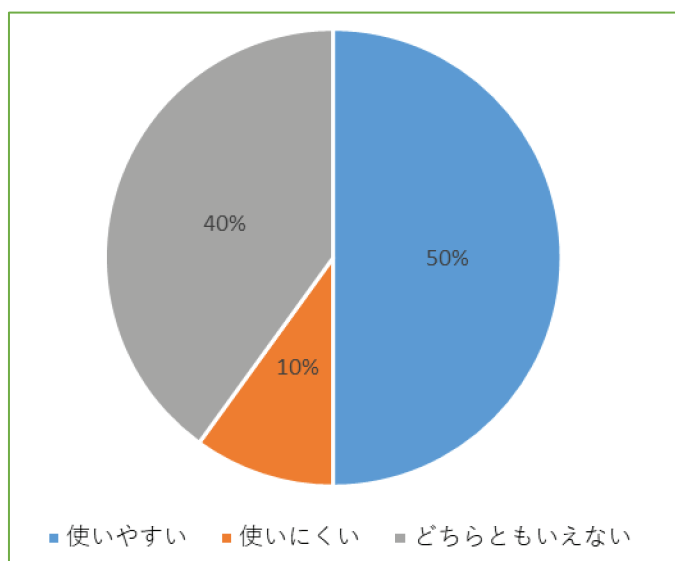


Q9. 〔Q8.で「別の時期がよかった」を選択された場合〕参加しやすい時期を教えてください。

回答なし

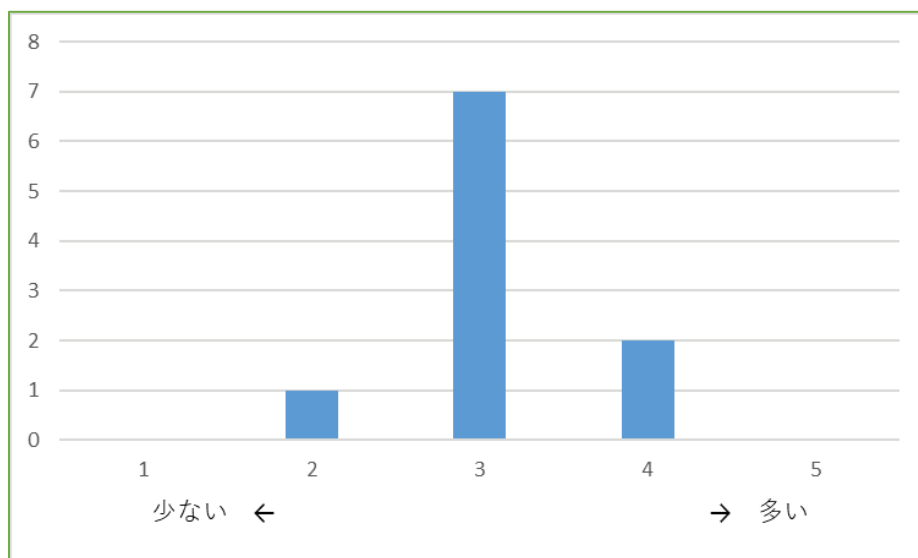
Q10. 紙のポイントカードと比べてLINEのポイントカードはいかがでしたか？

使いやすい	5
使いにくい	1
どちらともいえない	4



Q11. 給水ポイント・完走（3冊・6冊・10冊）到達に必要な読書冊数はいかがでしたか？

満足度	人数
1	0
2	1
3	7
4	2
5	0



Q12. 今後図書館で参加してみたいイベントがございましたら教えてください。

- ・うりこグッズが貰えるならなんでも
- ・学生選書ツアー！

Q13. その他ご要望、ご感想等ご自由にお聞かせください。

- ・メールを職員さんに見せる→ポイント送付がやや面倒。自動送信メールに QR を添付するとより手軽かも。
- ・うりこの LINE スタンプやぬいぐるみの販売をしてほしい
- ・読書マラソン、面白いです。後半ものんびり参加しようと思います。
- ・図書館の検索システムが使いやすくなっていて感動しました。自分で本にタグ付けできるのと、よく読まれている本を探せるのが良かったです。私が本屋さんに行くのって本との偶発的な出会いを求めているからなんですが、図書館でも同じような出会いがあれば良いなと日頃から思っています。今回の検索システムの更新は、それに一步近付いた気がして嬉しいです。
- ・最近全く本を読んでなかったので、読む機会ができて嬉しいです、ありがとうございます。

令和4年度 資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」
 (会期: 令和4年10月14日～11月10日、11月16日～12月20日)
 アンケート結果(回答数:58 うち、会場で回収:21 菊地先生の授業で提出:37)

0 来場者について

1 ご所属

	回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 神戸大学(無回答)	0	0%
2 神戸大学(学生)	41	70.69%
3 神戸大学(院生)	1	1.72%
4 神戸大学(教員)	0	0%
5 神戸大学(職員)	2	3.45%
6 神戸大学(その他)	2	3.45%
7 学外(無回答)	0	0%
8 学外(卒業生)	0	0%
9 学外(一般)	7	12.07%
10 学外(大学生)	0	0%
11 学外(院生)	0	0%
12 学外(高校生)	0	0%
13 学外(その他)	5	8.62%

学外(一般・その他)
 ・専業主夫
 ・講師
 ・トライやるウィーク中学生4名

2 お住まい

	回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 神戸市内	38	65.52%
2 兵庫県内	12	20.69%
3 その他	8	13.79%

大阪府、大阪府内...3
 大阪府高槻市
 滋賀県大津市

3 この展示会があることを何でお知りになりましたか？(複数回答可)

	回答数	割合
1 ポスター	6	10.34%
2 チラシ	4	6.9%
3 図書館ホームページ	3	5.17%
4 神戸大学ホームページ	1	1.72%
5 ツイッター	0	0%
6 ホームカミングデイ	0	0%
7 授業	37	63.79%
8 その他	8	13.79%

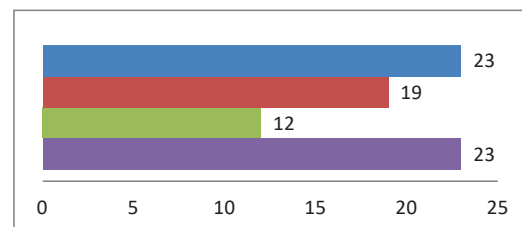
ポスター掲示場所
 当図書館
 人文科学図書館...2
 阪急六甲駅
 チラシ配布場所
 人文科学図書館
 その他
 当地にて、見かけた
 職員さんからのご案内(恐らくULICS学生)
 業務の中で知りました。

※授業の37名は全て菊地先生授業出席者

4 興味をひいたコーナーあるいは展示物(複数回答可)

4-1 コーナー

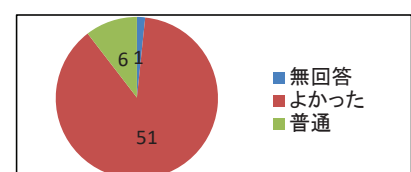
	回答数	割合
1 漂流の背景	23	39.66%
2 アジア地域への漂流	19	32.76%
3 ロシアを見てきた漂流民	12	20.69%
4 太平洋を渡った漂流民	23	39.66%



4-2 展示物(別掲)

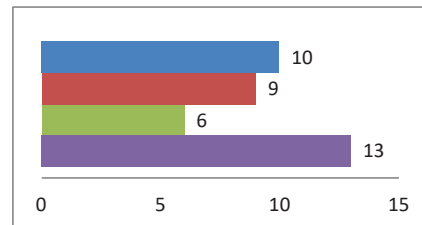
5 感想

	回答数	割合
0 無回答	1	1.72%
1 よかった	51	87.93%
2 普通	6	10.34%
3 よくなかった	0	0%



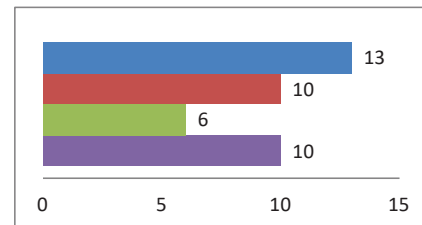
4-1 コーナー(会場で回収分)

	割合
1 漂流の背景	10 47.62%
2 アジア地域への漂流	9 42.86%
3 ロシアを見てきた漂流民	6 28.57%
4 太平洋を渡った漂流民	13 61.9%



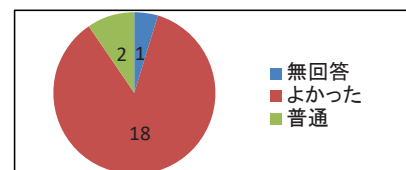
4-1 コーナー(菊地先生の授業で回収分)

	割合
1 漂流の背景	13 35.14%
2 アジア地域への漂流	10 27.03%
3 ロシアを見てきた漂流民	6 16.22%
4 太平洋を渡った漂流民	10 27.03%



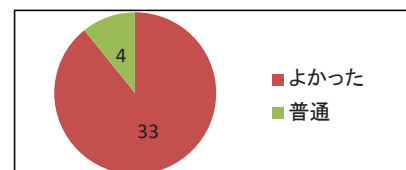
5 感想(会場で回収分)

	回答数	割合
0 無回答	1	4.76%
1 よかった	18	85.71%
2 普通	2	9.52%
3 よくなかった	0	0%



5 感想(菊地先生の授業で回収分)

	回答数	割合
0 無回答	0	0%
1 よかった	33	89.19%
2 普通	4	10.81%
3 よくなかった	0	0%



■実施結果の集計数値

※以下[]内はH30年度の数値、()内は1日あたりの平均値

・会期中の開館日:61日 [67日]

・アンケート回収総計:58(0.95) [132(2.0)],うち会場で回収:21(0.34) [74(1.1)],授業での見学で回収:37[58]

・アンケート、会場で回収分の学内・学外比:9:12(43%:57%) [28:46(37%:63%)]

・目録配布数総計:144(2.4) [456(6.8)],うち会場で:75(1.2) [294(4.4)],ホームカミングデイで:27[90]、授業で:42[72]

・学外観覧者:50(0.8) [609(9.1)]※ホームカミングデイ28名を除く、H30は六甲祭時の入館者を除けば204(3.0)

オンラインフォーラム『ILL/DDサービス2.0にむけて』事後アンケート結果

回答数	122
-----	-----

【問1】ご所属の区分について教えてください。	
国立大学図書館	76
公立大学図書館	17
私立大学図書館	23
大学以外の研究機関図書館	3
その他:	3
▼その他の回答	
公共図書館	1
病院図書室	1
ユサコ株式会社	1

【問2】今回のフォーラムをどのようにして知りましたか。	
メール	66
職場内の回覧文書	27
職場の上司・同僚から	24
ウェブサイト	3
その他:	2
▼その他の回答	
選択肢全部該当	1
本学と関わりのある業者（ユサコ株式会社）の方から	1

【問3-1】開催時期（1月）はいかがでしたか。	
よい	92
どちらとも言えない	25
他の時期がよい	5

【問3-2】問3-1で【他の時期がよい】を選択した方はご希望の時期をお知らせください。	
8月	2
1-3月は研修が立て込むので10-12月がよいかもしれません	1
夏休み期間中などの閑散期	1
9月ごろ	1

【問4-1】開催形式（Zoomウェビナーによるオンライン開催）はいかがでしたか。	
よかった	115
対面がよかった	3
ミーティング形式（オンライン）の方がよかった	2
ハイブリット（対面&オンライン）がよかった	2
他の形式がよかった	0

【問4-2】問4-1で【他の形式がよかった】を選択した方はご希望の形式をお知らせください。	
回答なし	

【問5-1】第1部：講演会について	
参考になった	65
とても参考になった	47
普通	10
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

【問5-2】第1部：特に参考になった話題があればお知らせください。（複数回答可）	
趣旨説明	68
「Rapid ILL」について	64
「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」	44
「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	64

内訳

趣旨説明、「Rapid ILL」について、「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	24
趣旨説明、「Rapid ILL」について、「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」	2
趣旨説明、「Rapid ILL」について、Article Galaxy Scholarについて、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	3
「Rapid ILL」について、「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	13
趣旨説明、「Rapid ILL」について	7
趣旨説明、「Reprints Desk（＋Article Galaxy）」	1
趣旨説明、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	9
「Rapid ILL」について、「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」	1
「Rapid ILL」について、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	3
「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」、「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	2
趣旨説明	22
「Rapid ILL」について	11
「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」	1
「ARROWを使ったフルサービスドキュメントデリバリー」	10
無回答	13

【問5-3】第1部：講演会について、ご感想ご意見がありましたらお知らせください。	
無回答	97
回答（以下の通り）	25

趣旨説明がコンパクトに今回の開催に至った問題意識や背景を説明されていて、よくわかりました。ありがとうございます。いくつかの商品説明がありましたが、RapidILLは知らなかったのが興味深いです。一方で、相互利用がベースのようで、では著作権的に日本の大学からアウトプットができるのか？そこが良くわからなかったもので、著作権的なところをもう少し聞きたいと思いました。Galaxyは、どういう商品なのか正直良くわからなかったです（既存のものとのコンテンツの取り扱いの違いや価格の差異など）。	
実は業務の都合で「Reprints Desk（＋Article Galaxy）、Article Galaxy Scholarについて」の途中からしか参加することができなかったため、一番聞きたかった話が聞けていません。期間限定、もしくは当日限りで構わないので、申し込み制での再視聴を可能にして頂けないかご一考をお願いしたい。	
「Reprints Desk」「ARROW」についてはすでに利用していますが、サービス内容についての理解が不十分だった点を知ることができ、大変参考になりました。サンメディアさんが「Reprints Desk」とも提携されているとのことでしたが、依頼側からはどのような違いがあるのか双方からお聞きしたかったです。	
海外ILLを担当しているのですが、すべてメールでやり取りをしており、自分自身英語が得意というわけではないので少し負担を感じています。ですが、第1部で紹介して下さったシステムを使えば省力化できるのではないかと感じました。特に、ARROWは登録費が無料ということで、課内で共有して検討したいと思いました。	
各社のDDSサービスをまとめて聞くことができるタイミングはそうそうないので、それだけでもかなり価値のある内容でした。できれば、発表スライドや商品概要等をまとめて提供していただけると、今後の参考になるかと思いました。	
趣旨説明で全体の概要をまとめていただいたので、構成が分かりやすかったです。ARROWの説明は初めて聞いたので参考になりました。年会費がかからないので、導入検討してみようと思いました。	
普段のILL利用件数が少ないため料金の面で躊躇してしまいましたが、次年度は電子ジャーナルの購読タイトル数をかなり削っていることもあり、今後の対策への参考にしたいと思いました。	
ジャーナル購読の代替になり得るのか、また、今後利用が拡大した場合に、著作権料など料金が値上がりしないのかが気になりました。（出版社は警戒しているのではないのでしょうか）	
ベンダーさんのところで時間がずれたような印象がありました。リハーサルやタイムキーパーが機能しているといいかなと思いました。運営お疲れ様です。	
公衆送信サービスに参加するべきか否か迷っている大学図書館は多いと思うため、次の選択肢として民間のDDSを活用するのも良いと感じた。	

内容がとても充実しており、大変勉強になりました。コロナ禍を経て、大学図書館のサービスが大きく変わりつつあることを実感いたしました。
ユサコさんの準備不足を感じた。時間が限られているのだから、PPTの発表方法について習熟するなど事前準備をしていただきたかった。
ご講演ありがとうございました。RapidILL便利なサービスだと思います。1年のサブスク料金がいくらなのか興味があります。
入手できる出版社や細かい提供方法や運用などについて、詳しく聞きたかったので質疑応答をもう少しできるようにしてほしい。
国内に所蔵がないなど入手困難な文献が増えているなかで、こうしたサービスがあることは、ひじょうに心強いと感じました。
聞きなれない用語が山のように出てきて、大学図書館に勤めるものとして、今後身に付けるべき知識の方向性が見えてきた。
どのようなサービスがあるかわからなかったため、複数の企業のサービスをまとめて聞ける機会となってよかったです。
外国雑誌購入の見直しを検討しているため、代替として検討しています。大変参考になりました。
様々なドキュメントデリバリーサービスの詳細についても知ることができ、参考になりました。
似て非なるILLサービスを一堂に会して説明していただけてよかった
DDSの内容について知ることができてためになりました。
趣旨説明からの各社への流れがわかりやすく良かったです。
趣旨説明が非常によくまとまっていた。すばらしい。
各社のサービス内容を確認できてよかったです。
参加できず回答できません。申し訳ありません

【問6-1】第2部：パネルディスカッションについて	
参考になった	57
とても参考になった	54
普通	11
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

【問6-2】第2部：特に参考になった話題があればお知らせください。（複数選択可）	
「次期ILLシステムの検討について」	87
「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」	80
「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」	74
パネルディスカッション	53
内訳	
「次期ILLシステムの検討について」、「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」、パネルディスカッション	41
「次期ILLシステムの検討について」、「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」	12
「次期ILLシステムの検討について」、「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、パネルディスカッション	1
「次期ILLシステムの検討について」、「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」、パネルディスカッション	1
「次期ILLシステムの検討について」、「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、	8
「次期ILLシステムの検討について」、「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」	5
「次期ILLシステムの検討について」、パネルディスカッション	2
「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」	10
「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」、パネルディスカッション	2
「次期ILLシステムの検討について」	17
「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」	6
「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」	5
パネルディスカッション	6
無回答	6

【問6-3】第2部：パネルディスカッションについて、ご感想ご意見がありましたらお知らせください。	
無回答	87
回答（以下の通り）	35

大変興味深く拝聴しました。議論をさらに深められるよう、もっと時間があるとよかったですね。さて、佐藤様 がご説明された事前アンケートの結果ですが、なぜ著作権協会管理著作物で認められている図書館間のDDSをや らないかという理由については、調べてもDDSできる著作物でないケースがほとんどを占めるから、この可否 の調査というほぼ実りの無い手間をかけるのが面倒ということもあるのではないのでしょうか。本学で図書館シス テムのリプレイスの際に、「著作権管理団体と合意したDDS可能な資料に該当する書誌を選択した際には、業務 担当者がその旨を把握できるよう、目立つ表示を行う」というILL機能を盛り込もうと検討したことがあります。 ところが、過去5年くらいの本学のILLデータと著作権協会管理著作物リストを照合したところ、DDSが可能な資 料は3%くらいしかなく、これでは割に合わないと思送りました。	
学術著作権協会Webサイト確認によるDDS送信ですが、事前アンケートで何と答えたか覚えていませんが、紙で の送付と手間はさほど変わらないかもしれません。しかし、A or Bの選択肢が1つ増えることは負担ですし、特 にILL受付は他のスタッフにやっていただくのをお願いする立場なので、ちょっと今の法規や仕組みのままでは、 すぐに導入を検討する動機に乏しいです。ずるいのは承知ですが、ILL依頼は担当者判断で適宜お願いしても良い と思いますし、後は学内の他の図書館・図書室で独自運用されるのも大いにけっこうだと思っています。	
小規模な公立大学に勤めており、現在は、基本的なILLサービス（紙媒体での文献複写や現物貸借等）しか提供出 来ていない状況ですので、各大学様の先進的な取り組みを知ることができ、大変参考になりました。次年度よ り、DDSサービス等の提供を開始する予定にしておりますので、本日ご教示いただいた内容を本学のサービス向 上に活かしていければと考えております。	
個人的にはDDSの方が負担が大きいと感じている。元資料中の図版の有無やスキャン設定によって鮮明さが異な り、更にスキャンしたものを紙にプリントアウトすると出来合いがまた異なってくるためである。（事前アン ケートの回答期限に間に合わなかったため、ここに記します。）	
電子ジャーナルのILLを提供するに当たり、NACSIS-CATに書誌を登録するという作業が大変でした。次世代ILL ではこれをしなくても良くなるということを想定されているのか気になりました。もしそうなのであればとても 便利になると思います。	
現在、電子ジャーナルへの依頼が増えているので、次期ILLシステムにはひじょうに期待しています。また、それ ぞれの館での取り組みは、事情が異なるのでそのまま取り入れることはできませんが、たいへん参考になりまし た。	
事前アンケートの内容を反映したパネルディスカッションをしていただき、タイムリーなトピック（公衆送信 サービスをILLに適用させることの是非等）についてお話をお伺いできてとても参考になりました。	
・各大学の事例報告の時間をもう少し長くして欲しかったです。（資料の公開に期待します）・パネルディス カッションも時間が短くなって少し残念でした。	
もっと時間をとっていただけたらとても良かった。今最も気になるトピックの一つにも思えるため質問も交えな がら1時間程度あっても良い内容だった。	
他の図書館員の生の意見、意気込みを聞ける機会をいただき大変ありがとうございました。気持ち新たにやる気 と勇気が湧いてきました。	
大学図書館で直接利用者に対応している方の最先端の話が聞けて、今後こういった利用者サービスを提供すれば いいか大変参考になった。	
パネルディスカッション最後に皆様から心温まる言葉をいただき、ILL担当として励みになりました。ありがとう ございました。	
2機関の事例報告が大変参考になりました。ディスカッションの時間がもう少し確保できていれば良かったと思 います。	
時間が短く残念でした。Q&Aに踏み込んだ質問がいくつか見受けられました。後日のご回答を楽しみにしていま す	
実際にILLをやられている方のお話だったので共感する部分が多く、自分のこれからの業務の励みになりました。	
時間が押したので仕方ありませんでしたが、パネルディスカッションの時間が短かったのが残念でした。	
各大学のサービスと事前アンケートの内容を踏まえた議論となっており、大変参考になりました。	
図書館利用の向上のためにいろんな取り組みがあることがわかり、今後の参考になりました。	
質疑応答の時間がほしかった。公衆送信サービスの情報をもっと取り上げてほしかった。	
皆さまの質問にもあったように、実際運用する際の詳細をもっとお聞きしたかったです。	
全国的な枠組みのことや、各機関の事例について知ることができ、参考になりました。	
他大学のILLの現状を知れる貴重な機会であった。（学生へのILL無料化等）	
時間が足りなかったのもう30分ほど設定してもよかったかもしれない。	
時間が短くなってしまっ残念でした。もっとお聞きしたかったです・・・	
全体的に駆け足気味で、もう少し詳しく話を聞きたい部分もあった。	
もう少し各トピックについて掘り下げたお話を聞きたかったです。	

聞き逃した部分があるため、後日の公開を楽しみにしています。
時間がない中、効率的に進捗されて内容も濃くよかったです。
残念ながら所用で、講演部分しか拝聴できませんでした。
複写利用許諾システムを教えていただきためになった
それぞれ示唆深い内容でしたので、よかったです。
時間が押してしまって残念でした。
時間が少し短かったですね。
時間が無くて残念です
時間が短かった。

【問7】本フォーラムに参加されたことで、ILLやDDSに関連して新規サービスの導入や既存サービスの合理化について検討してみたいと思われましたか。

思った	80
どちらとも言えない	39
現状のままでよい	3

【問8】今後の研修・フォーラム等で取り上げてほしいテーマがありましたらお知らせください。

無回答	105
回答（以下の通り）	17

・統合的発見環境の整備を意識した書誌データの作成、データベースの構築。（冊子・電子資料とも。購読電子リソース、自館資料のデジタル化、OAリソース等） ERDB-JPの状況や将来像なども。（CiNii Booksの検索結果画面に影響している（オレンジの電子リソースへのナビアイコン等）と思うのですが、本学では未加入のため詳細を知りたいです。具体的な作業内容や業務量なども） ・図書館公衆送信サービスへの対応。（管理者団体・出版社・図書館にとって持続可能な仕組みをどのように作っていいのか。現在のプランでは管理者団体や図書館の負担が非常に大きい） ・今回のように、これから委員会の検討状況を少し聞ける機会もありがたいです。（本来はこれから委員会で実施していただくことですが、小出しの情報もあるとありがたいです） ・ジャーナルの転換契約について。

本日のご講演の始めの「趣旨説明」につきましては、ILLサービスを取り巻く様々な問題を総括する内容で、大変興味深く、もっとゆっくりとお話を聞かせていただきたく思いました。著作権法の改正やコロナ禍以降の利用者ニーズの変化等の影響により、ILLサービスを取り巻く環境が大きく変わりつつある状況ですので、本日と同様のテーマにて、再度フォーラムを開催していただければと大変有難く思います（そのような機会があれば、ぜひまた参加させていただきたいです）。

ILLについて、折角ですので、もう少し継続、かつ実際の業務の改善に向けて掘り下げても良いかと思いました。経験から言って、書誌の確認作業や謝絶、決裁方法などが手間でしたが、担当していたのは10年以上前なので状況は変わっているかもしれません。CAT2020の影響なども気になることです。また佐々木氏のILLのデータで、最近年の件数が少し上がっているのが気になりました。

ILLで取り寄せた資料を利用者がその後どのように管理しているか。（あまり公にはしづらいが、取寄せた資料をスキャン-PDF化し、研究室内のLANで保存しているという話を耳にすることがある。著作権法の観点から望ましくない。）

今後も、図書館業務の効率化や、利用者支援に関わるテーマで、将来的な流れや他機関の動向を知る機会としても、研修・フォーラムの継続実施を希望いたします。

問7ですが、既に合理化は検討しており「現状のまま検討を続けたいと思った」のですが、差し当たり「思った」とさせていただきます。

大学図書館の利用者が、何を求めて図書館にくるのか。何も求めない利用者にできることはないか。

ILLに関するものは継続的にやるとよい。海外ILLは依頼だけでなく受付も議論してほしい。

学生協働、非来館型サービス、学生・教職員の所属に制約されないサービスの構築

オープンアクセスやプレプリントなど、学術情報の流通に関する研修・講演

佐藤さんの分析がよかったのでもっといろいろ聞きたいです。

各大学のラーニングコモンズの運用について

海外ILLの業務フロー効率化について

大学設置基準変更と大学における図書館

レファレンスに関すること

公衆送信サービスについて

ILL関連のもの

【問9】 その他全体を通して、ご意見ご感想等ありましたらお知らせください。	
無回答	71
回答（以下の通り）	51

貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。・事前アンケートを実施して下さったのはとても良かったです。アンケート結果の詳細の公開もぜひよろしくお願いいたします。・学内eDDSを終了して公衆送信サービスに切替える予定の機関もあるとのこと、とても興味深かったです。もしできれば参加者どうしの情報交換の機会を別途設けていただけるとありがたいです。・学内eDDSはPDF保存不可が前提になっていると思うのですが、本学では注意喚起だけで、システムでのDL制限はできていません。他大学も同様でしょうか。個人的には、システムでのDL制限を実現するよりは、公衆送信サービスに切替えて保存OKにした方がよいと思うのですが、費用負担が大きな問題です。・趣旨説明についてはできれば資料を事前配付していただけてありがたかったです。今回のフォーラムのイメージを事前に把握できたように思います。・ILL業務についても大変革の時期になっていると感じました。図書館業務は伝統的に如何に職員が介在するかを重視してきた傾向があるように思うのですが、そうではない方向を模索する必要もあることを痛感しました。職員が思っている以上に、利用者は職員が介在することにハードルを感じているようなので、完全な自動化は難しいとは思いますが、図書館職員ができるだけ介在しない仕組み（もしくはそのように感じられる仕組み）の構築は重要だと思います。（電子ジャーナルはその典型例だと思います）・ILLの費用支援では公平性を保つためや業務量の抑制のために何らかの制限を設定することが多いですが、そのための業務負担が増えることが気になりました。いろいろな利用者がいるのでモラルの踏まえた利用をしてもらうのはなかなか難しいですが、ある程度システムで自動的に管理できる方法がないと、この仕組み自体を持続していくことができなくなるのではないかと、心配です。

お疲れ様でした。ILLが文献入手のセーフティネットになっているのは確かだと思います。労働集約性の高い業務なので、今さらILL？と言う声も耳にはしますが、何らかの形で存続はしていくのではないかと考えています。小規模の病院図書室のようなところで、CATは利用していないが、ILLのみ利用しているところもあると聞いています。事例については、佐々木氏のご講演は、問題意識はわかるのですが、システムの実装部分やメタデータスキーマ、データの流れ、決裁方法などの技術的な実現方法部分が気になりました。またローカルの図書館システムとのデータのやり取りも気になりました。滋賀大での事例については、学部間で大きく状況が異なるような印象を持ちました。

今後もオンライン活用での研修会開催には大いに歓迎である。図書館の正規職員の減少は加速しており、司書業務が業務委託化が進んでおり、職員として図書館を将来的に持続させていくための自館のDNAを受け継ぐ後進の育成が困難となっている。私立大学は特に経営者により落差があることを痛感している。e-book、電子ジャーナル化、e-Library化を大学図書館としてはどのように考えて推進していくのか、今後も図書館を巡る課題は山積みであると感じている。国立図書館様には、短期大学も含め経済的に弱小な高等教育機関の図書館にも、様々な研修や共通課題を解決するためにご助力を賜ればと願う。

ありそうでなかなかできていないテーマだったので、とても良い内容だったと思いました。ありがとうございました。機器トラブルやスムーズな進行については、事前の準備によってかなり解消・実現できるものですので、今後の取り組みの経験にされればと思いました。フォーラムとして、多くの参加者の知見や問題意識を共有する場となるのに、とりあえず事前に寄せられた質問を回答を付さずに共有しておく等のことをしても、より参加者にとって示唆深いものになったのではないかと感じました。（回答する場合は、それはそれで後日されるという今回のやり方はもちろんアリなのですが）

こういった会を通じて、全体の利益のため、未来のため、大学図書館全体が協働してコミュニティやシステムを作り上げていくという機運が醸成していけたら嬉しいです。今のNACSIS-ILL停止期間中の、各館の対応を見ると、研究者や全体利益のことよりも、自館のトラブル回避とか、イレギュラー回避でデータをきれいにするとか本質的でないことを優先していて、本来の使命を忘れてしまっているようで、ガッカリしましたので。

有意義なセミナーをオンライン開催という形で広く開催して下さり、ありがとうございました。各ベンダーからの製品説明、実際にILL業務に関わっておられる皆様の事例報告やパネルディスカッションなど、とても参考になる内容が多かったです。前払いPPVやILL料金の負担免除のサービスなど、本学ではまだ導入していないものの検討しておく必要があると常々感じていたサービスについて、事例報告等でお話しをお伺いできてよかったです。ありがとうございました。

ILLの標準化の理想に共感しました。料金や印刷方法(電子ジャーナルを見開き印刷するかどうか)など、各感で対応が異なっていて、また特に明文化されていない暗黙の了解のようなものも多いなと感じています。様々な事情があるのは承知していますが、単に件数が減っていくことを嘆くのではなく、今の時代に合ったILLを目指して議論が活発化したら良いと感じています。貴重なご公演ありがとうございました。

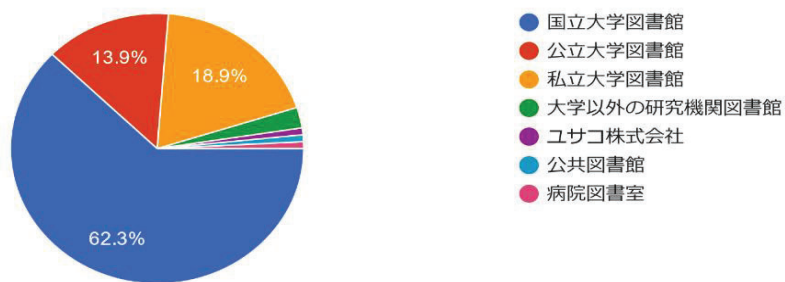
発表を聞きながらメモを取りたいので、スライド資料は事前に公開していただけるとありがたいです。また、第1部のスライドについて、スライドを入手するために参加者が個別に各企業へ連絡するのは効率的ではないと考えます。後日の資料公開についてもご検討いただければ助かります。

貴重なお話しをありがとうございました。料金無料化のお話しで、「気にすることが減る、より利用者にとっていい方を選択する」というお話しが、なるほどサービスの本質を見た思いです。本学で導入した場合、どの程度の反響があるかも考え、職員間の検討材料とさせていただきます。
業者さんのご発表が長すぎたように思います。もう少し要点をしぼっていただき、細かい操作説明は不要だった（後で資料を各自確認するで良かった）と思いました。ILLについての概況など、よく分かり勉強になりました。ありがとうございました。
個人的には、会の性質上、延びたのは差し支えなくもう少し気兼ねなく振る舞っていただいても全くOKだと思います。企画・運営、たいへんおつかれさまでした。論点整理の機会を作ってくださったことに御礼を申し上げます。
企画・準備段階から開催まで、関係の皆様にご尽力いただき、ありがとうございました。オンライン開催の形で、係内でも複数名同時に視聴することができました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
ILLは図書館に携わる多数の人の協力のもとに運営されているということが改めて感じられた。普段はNACSIS-ILL上でのやり取りだけだが、このように相手の顔がわかると安心感がある。
ILLの効率化を求めて様々な取り組みが各機関検討されていることがよく理解できた。互いにコミュニティをとりつつ本学でも新たに導入できるものがあれば前向きに進めたいと思いました。
大変、貴重な話題提供で、とても参考になるフォーラムでした。ありがとうございました。配付資料があればさらに内容理解が深まりますので、今後はご検討いただけましたら幸いです。
普段のILL業務が広く繋がっていることを実感できたフォーラムでした。つい自館の運用上の細かい問題点が気になってしまいましたが、視点を大きく持つことが学べて良かったです。
最後のパネルディスカッションでの議論が慌ただしく終わってしまったのが非常に残念なので、プレゼン時間の管理と登壇者への周知はしっかりしたほうがよいと思います。
所属館でも検討している内容が含まれており、大変興味深く視聴させていただきました。資料公開のご連絡をお待ちしております。関係者の皆様ありがとうございました。
全般的に非常に参考になりました。またぜひこういうフォーラムを企画していただけたら嬉しいです。また、現場で働く人たちの意見交換会などもあれば嬉しいです。
タイムリーな研修で大変参考になりました。また、日頃から抱えていた疑問をいくつか解消することができました。参加させていただきありがとうございました。
今後の図書館運営について、大変参考になる話が聞けたと思います。利用者がILLを日本語で操作できれば、ILLの利用をさらに広げることができると思う。
これからのILLサービスについて様々な方法を検討していかなければならない時期なのだと感じた。従来のILLの方法と融合させて考えていきたい。
分量に対して設定時間が短かったのでは。パネルディスカッションの時間が割を食ってしまって勿体なかったです。どうもありがとうございました。
一人職場なので、業務しながらの閲覧になってしまい、ところどころ聞けなかった箇所があったので、できれば後日録画を公開してほしいです。
大変興味深く拝聴しました。内容が盛りだくさんで難しかったとは思いますが、パネルディスカッションの方をもう少し聞きたかったです。
いろいろと調整等大変であったかと推察いたします。貴重なセミナーをご提供くださり、本当にありがとうございました！
理解が及んでいなかった部分を、事例を交えて聞くことができ理解を深めることができました。ありがとうございました。
タイムリーなテーマを取り上げていただき、ありがとうございました。とても良い企画でした。ありがとうございました。
ILLについて他機関の意見を聞く機会が無いのでとても良い研修となりました。ご準備などありがとうございました。
とても勉強になりました。説明も分かりやすく、2時間あっという間でした。企画・運営ありがとうございました！
今後の変化に対応していくためにも情報収集に尽力したいと思います。有意義な内容をありがとうございました。
貴重な機会をいただき、ありがとうございました。時間が足りなかったので第2回を是非ご検討いただきたいと思います。
部分参加でしたので、できるだけ資料を公開していただけると嬉しいです。ありがとうございました。
他大学のILL担当者の顔が見られる貴重な機会でした。企画して下さりありがとうございました。
他館の取り組み等を聞く機会もありないので大変参考になりました。ありがとうございました。
勤務時間が限られており、アンケートの期限に間に合いませんでした。申し訳ありませんでした。
フォーラムは難しくてよくわからないことが多いので、わかりやすく良かったです。
身近な課題に寄り添った良いテーマの研修だと思いました。運営お疲れさまでした。
講演資料を事前に公開していただければ、講演の理解にさらに役立ったと思います。
本日は素晴らしいフォーラムを開催して下さり、誠にありがとうございました。

非常に参考になった。予算が問題だが、事例を参考に学内で提案してみたい。
業務の合間での参加のため、なるべく時間通りに進行していただきかった。
もう少し時間があれば詳しく説明できたのでは とても参考になりました
ありがとうございました。ILLやDDSについて参考になりました。
実施時間を、10時～12時とか、午前実施も検討してほしい。
大変参考になりました。企画いただきありがとうございました。
大変勉強になりました。ありがとうございました。
大変参考になりました。ありがとうございました。
勉強になりました。ありがとうございました。
ありがとうございました。
有難うございました。

【問1】ご所属の区分について教えてください。

122 件の回答



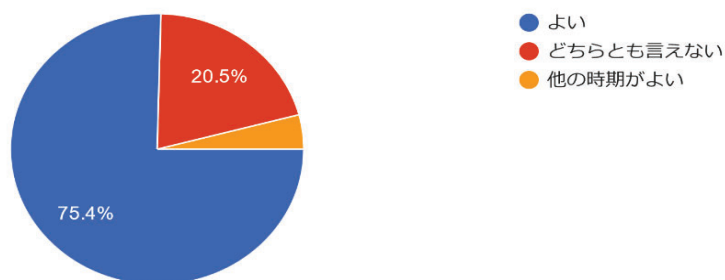
【問2】今回のフォーラムをどのようにして知りましたか。

122 件の回答



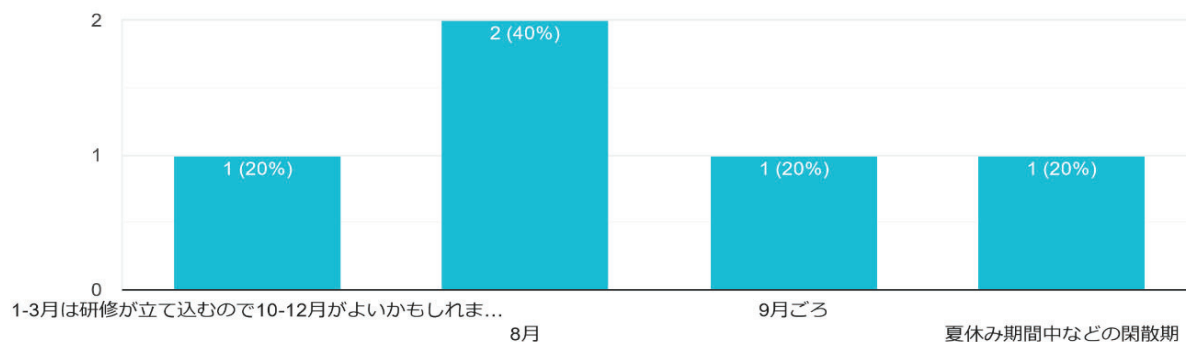
【問3-1】開催時期（1月）はいかがでしたか。

122 件の回答



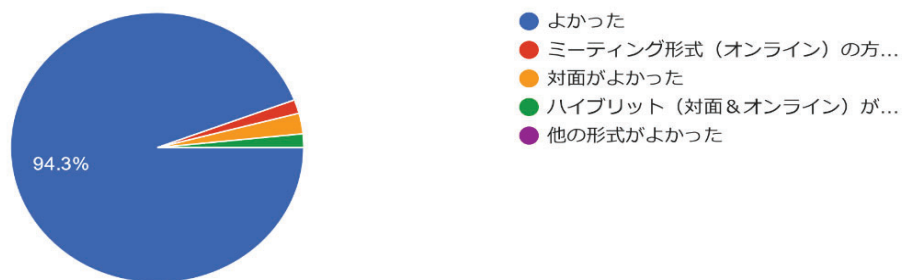
【問3-2】問3-1で【他の時期がよい】を選択した方はご希望の時期をお知らせください。

5 件の回答



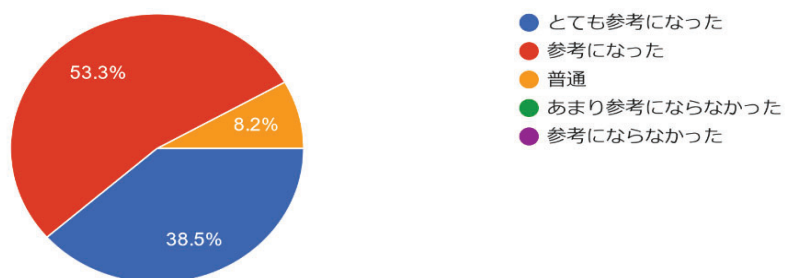
【問4】開催形式（Zoomウェビナーによるオンライン開催）はいかがでしたか。

122 件の回答



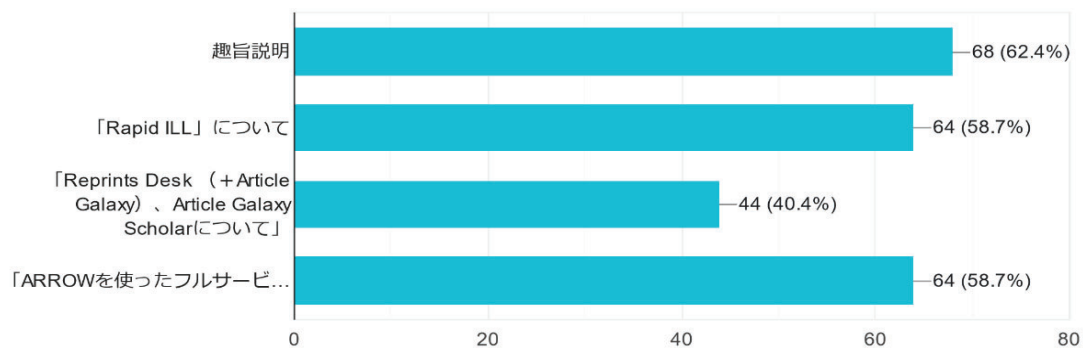
【問5-1】第1部：講演会について

122 件の回答

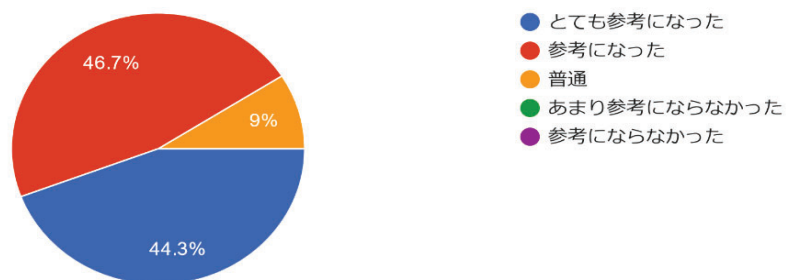


【問5-2】第1部：特に参考になった話題があればお知らせください。（複数回答可）

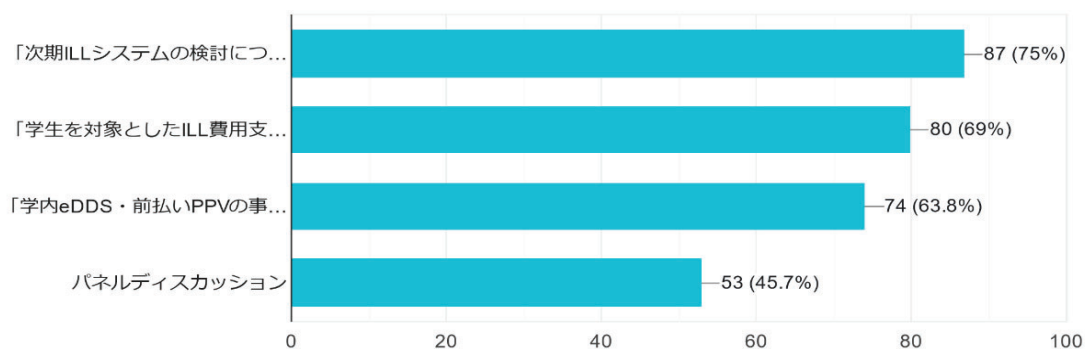
109 件の回答



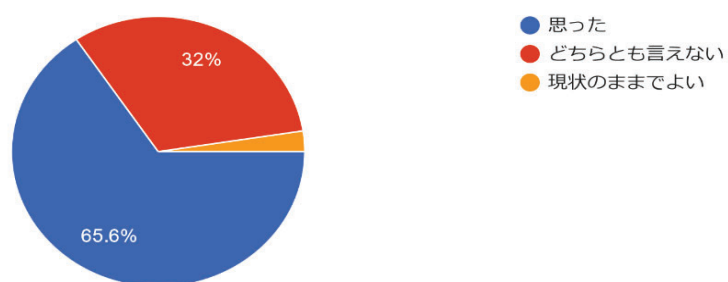
【問6-1】第2部：パネルディスカッションについて
122 件の回答



【問6-2】第2部：特に参考になった話題があればお知らせください。（複数選択可）
116 件の回答



【問7】
本フォーラムに参加されたことで、ILLやDDS...合理化について検討してみたいと思われましたか。
122 件の回答



附属図書館に関する自己点検・評価の実施について

令和4年10月18日付「教育課程、学生の受入並びに附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の提出について（依頼）」を受け、次のとおり附属図書館に関する自己点検・評価を実施した。

実施にあたっては、附属図書館における内部質保証実施要項（令和2年11月5日附属図書館運営委員会承認）に基づき、令和4年度第2回附属図書館運営委員会（令和4年9月8日～26日 メール審議開催）での「令和3年度神戸大学附属図書館年次報告（案）」の確認を、第4条第1項に規定する報告とし、第3回附属図書館運営委員会（令和4年11月8日）にて第4条第2項に規定する改善事項の審議を行った。

【評価事項①】

- ・附属図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備され、有効に活用されていること。

【評価結果①】

- ・学生用資料整備：

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。本年度の図書館予算は、各館室への配分比率を見直し前年度と同額の40,000千円とした。また、前年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。

今後も厳しい予算状況が続くと見込まれるが、教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、コンテンツへのアクセス可能性を担保・拡充するために冊子のみならず電子ブックを含めたリソース構築を目指す必要がある。

- ・研究用資料の整備：

第3期中期計画後半（令和元～3年度）の教育研究基盤資料整備費について、平成30年5月の部局長会議での承認に基づき、本年度は「教育研究基盤資料整備費」約3.63億円（決算ベース）が措置され、電子ジャーナル及びデータベースは平成28年度の契約規模を維持することができた。

第4期中期計画前半（令和4～6年度）の教育研究基盤資料整備費による整備方針について、令和2年10月8日の部局長会議において、上限4.1億円として承認を得た。

附属図書館運営経費は、本年度当初予算は約2.59億円で令和2年度より約0.04億円減（約1.6%減）となった。附属図書館図書資料費（学生用資料費・e-study 資料費・震災文庫資料費・外国雑誌センター館経費）の確保が困難となっているが、本年度は令和2年度と同額の約0.72億円の予算を確保した。しかし資料本体の値上げ等により、全体の購入資料数は減少が続いている。

外国雑誌センター予算については、附属図書館予算の約1割を目標とし、0.26億円（令和2年度は0.27億円）を確保した。令和元年度にパッケージ購読を開始しタイトル契約数を増やしたことにより、EJ利用数やILL受付件数が増えた。このことから資料の利便性が向上したと推測できる。

- ・電子的情報基盤の整備：

本年度末における電子ジャーナル購読数は37,077タイトル、総ダウンロード数は教育研究

基盤資料整備事業によるもので約 140 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。電子ジャーナル購読数は令和 2 年度の規模を維持している。

電子ジャーナルの価格上昇に加え、円安が顕著に進行している情勢であり、次期中期計画期間においては、転換契約の広がりを見越しつつも、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画を立案・進行する必要があると考えられる。

・開館サービス：

前年度以降、新型コロナウイルス感染症流行下における入構制限等に対応した臨時休館や利用制限を行ったが、徐々に制限を緩和し、年間総入館者数は約 19.4 万人で前年度比 2.5 倍となった。前年度における入館者数の減少、および今年度の増加は、感染症の流行によって学習場所としての図書館の重要性が明らかになったといえる。また、非来館型のサービスの重要性が明らかになったことから、開館サービスのみではない図書館の利用指標の設定が今後の課題となった。

・資料提供サービスと利用促進：

学生への年間貸出総冊数は約 191 千冊で、前年度比約 2 倍となった。1 日あたり入館者数も約 2.1 倍であり、比例して増加したといえる。感染症流行対策としての利用制限を実施しつつも、資料提供サービスの面では図書館としての役割を一定程度維持できていたと評価できる。

来館が難しい学生を対象とした郵送貸出の実施の他、利用促進においても非来館型の取り組みを行い、電子ブックを利用した「仮想展示」やイベント「オンライン読書室」、対面とオンラインのハイブリッド形式での「トークイベント 2021『外国語授業のその先に』」を実施した。

・資料の保存：

前年度に実施した意向調査、同じく前年度に更新した「実務指針」に基づき資料の除籍を実施し書庫狭隘化の課題解決に取り組んだ。今後は改修中の自然科学系図書館の増築部分に共同利用書庫が新設され、附属図書館全体における体系的な資料整備が進むことが期待される。また、突発的な空調機の故障や豪雨に伴う雨漏りなどに備え、資料保存の適切な環境整備になお一層努めていく必要がある。

【評価事項②】

- ・附属図書館の施設・設備の整備が適切に行われていること。

【評価結果②】

- ・学修支援機能の強化を目的とした LC 設置と、資料収容力強化を目的とした増床のための自然科学系図書館の施設改修を、本年度と次年度の 2 年間で実施する。次年度も引き続きこの実施が図書館での大きな課題となる。社会科学系図書館管理棟の外壁について、タイルが剥落する危険性があるため、建物老朽化対策経費等により改修工事を実施中で、次年度に完成予定である。附属図書館長裁量経費により、老朽化した防犯カメラを総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館の 4 館で更新することができた。医学分館においては、田嶋記念大学図書館振興財団助成金により、キャレルデスク 6 台と大型本用書架 1 台を購入し、設備整備を実施した。

【評価事項③】

- ・附属図書館の活動を展開するために必要な職員が配置され、適切に活用されていること。

【評価結果③】

- ・7月時点で、附属図書館事務部は2課2グループ11係、定員46名、非常勤職員32名の78名であった。経済経営研究所図書係に定員3名、大学文書史料室に定員2名、非常勤職員2名を配置している。大学文書史料室の再雇用職員1名の増員配置は、令和3年度より恒久的な増員配置として承認された。事務組織改編により電子図書館係と情報システム係は電子情報グループの各担当となり、あらたに震災文庫担当（社会科学系図書館配置）が設置された。自然科学系グループと医学グループは各館の情報サービス係となった。本年度も感染症拡大防止のため多くの研修が対面からWebに変更となるなか、学外のWeb研修に積極的に職員が参加した。係横断的な業務や課題解決のためのワーキンググループについては、具体的な業務目的を負ったものに絞って設置し、いずれも活発に活動し成果をあげている。

附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画及び進捗状況一覧

				令和4年度		
				令和4年12月（教育研究評議会）		令和5年5月（教育研究評議会）
分野	担当委員会	計画の実施主体	改善・向上が必要とされた事項	計画の進捗状況	①対応計画（改善方策）	計画の進捗状況 ②前回確認時からの進捗状況 ③今後の予定（令和5年1月時点）
1	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくなっているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進捗を目指す。 （電子的情報基盤の整備に関する事項）	対応中	①令和6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第4 期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備について検討し、本年度附属図書館運営委員会にて協議を続けていく。	対応中 ②附属図書館運営委員会での協議に向けて、附属図書館事務部で原案を作成中。また、電子ジャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約を大手1社と締結した。 ③引き続き附属図書館運営委員会にて協議し、令和6(2024)年の教育研究基盤資料の見直しは、令和5年度当初に承認を得る予定。また、第4期中期計画後半(2025-2027)における教育研究基盤資料の整備については、令和5年中に素案の作成、担当理事及び役員懇談会等と協議のうえ、部局長会議等にて確定の予定。
2	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	①非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。 （開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項）	対応中	①従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第4 期中期期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。	対応中 ②非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。 ③令和4年度からの第4期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて新たな評価指標に基づき報告を行う。
3	附属図書館運営委員会	附属図書館事務部	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。 （資料の保存に関する事項）	検討中	①令和5 年4 月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。	対応中 ②令和5年4月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。 ③共同利用書庫について、対象資料の選定及び移動計画を作成し、令和5年4月以降に移動等作業を行い、附属図書館全体としての体系的な資料整備につなげる。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

① 担当委員会 (担当委員会を■にして ください。)	☐ 大学教育推進委員会 ☐ 施設マネジメント委員会 ☐ 情報委員会 ☒ 附属図書館運営委員会 ☐ 学生委員協議会 ☐ 留学生委員会 ☐ 入試委員会	
年 月	・令和 4 年 11 月 ・令和 5 年 1 月 31 日	
② 改善・向上が必要とされた事項 (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)		
内 容	電子ジャーナルの価格上昇及び円安の影響により電子ジャーナル購読数の維持が厳しくな ってきているなか、基盤維持と経費のバランスを考慮した整備計画の立案・進行を目指す。(電 子的情報基盤の整備に関する事項)	
根 拠	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務部	
対 応 計 画 (改善方策)	令和 6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直し及び第 4 期中期計画後半(2025-2027)にお ける教育研究基盤資料の整備について検討し、本年度附属図書館運営委員会にて協議を続けて いく。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 ☐ 検討中 ☒ 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」) ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
前回確認時 (R4. 12. 15 教育研 究評議会) からの 進捗状況	・附属図書館運営委員会での協議に向けて、附属図書館事務部で原案を作成中。また、電子ジ ャーナル購読料とオープンアクセス出版料の包括契約を大手 1 社と締結した。	
今後の予定	引き続き附属図書館運営委員会にて協議し、令和 6(2024)年の教育研究基盤資料の見直しは、 令和 5 年度当初に承認を得る予定。また、第 4 期中期計画後半(2025-2027)における教育研究 基盤資料の整備については、令和 5 年中に素案の作成、担当理事及び役員懇談会等と協議のう え、部局長会議等にて確定の予定。 ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

① 担当委員会 (担当委員会を■にして ください。)	☐ 大学教育推進委員会 ☐ 施設マネジメント委員会 ☐ 情報委員会 ☒ 附属図書館運営委員会 ☐ 学生委員協議会 ☐ 留学生委員会 ☐ 入試委員会	
年 月	・令和 4 年 11 月 ・令和 5 年 1 月 31 日	
② 改善・向上が必要とされた事項 (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)		
内 容	非来館型サービスの重要性が顕著となっているなか、図書館の利用指標として非来館型サービスの項目について新たな指標の設定を行う。(開館サービスに関する事項・資料提供サービスと利用促進に関する事項)	
根 拠	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務局	
対 応 計 画 (改善方策)	従来の評価指標を見直しつつ、非来館型サービスに関する適切な評価指標を検討して追加した。今年度以降の第 4 期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて反映させる。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 ☐ 検討中 ☒ 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」) ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
前回確認時 (R4. 12. 15 教育研究評議会) からの 進捗状況	非来館型サービスを含めた新たな評価指標の設定を行い、数値目標を確認した。新たな指標として、蔵書検索システム検索回数、アカウントサービス提供回数、デジタル・アーカイブ利用数などを追加した。	
今後の予定	令和 4 年度からの第 4 期中期計画期間における実績評価、及び附属図書館年次報告にて新たな評価指標に基づき報告を行う。 ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

**附属図書館の施設及び設備に関する自己点検・評価結果を踏まえた
対応措置の実施計画の進捗状況
(改善・向上が必要とされた事項)**

※ 「改善・向上が必要とされた事項」が複数ある場合は、1 事項につき 1 枚で作成下さい。

① 担当委員会 (担当委員会を■にして ください。)	☐ 大学教育推進委員会 ☐ 施設マネジメント委員会 ☐ 情報委員会 ☒ 附属図書館運営委員会 ☐ 学生委員協議会 ☐ 留学生委員会 ☐ 入試委員会	
年 月	・令和 4 年 11 月 ・令和 5 年 1 月 31 日	
② 改善・向上が必要とされた事項 (記載にあたっては、NIAD「基準ごとの分析を行う際の手順等について」37-42 頁をご参照ください。)		
内 容	資料収容力強化を目的とした自然科学系図書館の増築により、共同利用書庫の新設にあわせ、附属図書館全体における体系的な資料整備を進める。(資料の保存に関する事項)	
根 拠	令和 3 年度神戸大学附属図書館年次報告	
計画の実施主体	附属図書館事務部	
対 応 計 画 (改善方策)	令和 5 年 4 月竣工予定の自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び運用方針を策定する。基準に応じて附属図書館全体での調査を行い、共同利用書庫および各館室の資料構成を見据えて適切な配架となるよう資料移動等を行い、附属図書館全体として体系的な資料整備を目指す。	
計画の進捗状況	※現時点での状況を記載ください。 ☐ 検討中 ☒ 対応中 (令和 4 年 12 月は「対応中」) ☐ 対応済 ☐ その他 ()	
前回確認時 (R4. 12. 15 教育研究評議会) からの 進捗状況	自然科学系図書館における共同利用書庫について、対象とする資料の基準及び方針を策定し、使用するスペースと収容冊数の確認を行った。	
今後の予定	共同利用書庫について、対象資料の選定及び移動計画を作成し、令和 5 年 4 月以降に移動等作業を行い、附属図書館全体としての体系的な資料整備につなげる。 ※いつまでに、実行するかも含めて記載ください。	

※ 記載いただいた改善計画等については、自己評価書(別紙様式 2-3-1)に盛り込む予定です。

◆自然科学系図書館の改修とその結果

令和3年度当初予算（施設整備費補助金）として「自然科学系図書館改修および増築」事業が採択された。

昭和59（1984）年に設置された自然科学系図書館は経年による老朽化が顕著であり、「神戸大学ラーニングコモンズWG報告書」（平成26年）に基づき「Aタイプ」ラーニングコモンズを設置すべく、また、同館の狭隘を解消し閲覧座席数及び資料収容力を確保するための共同利用書庫棟新設のため、次の通り改修および増築を行った。

【対象】自然科学系図書館（改修・増築）

【予算】令和3年度当初予算（施設整備費補助金）

【工事期間】令和4年1月～令和4年12月

【概要】自然科学系図書館に、高度な情報リテラシー能力の養成やアクティブラーニングのため、また問題発見・課題解決型のグローバル人材を育成するための諸機能を提供すべく、新しい学修環境としてラーニングコモンズを整備。これにより教育・研究の両面から支援するための基盤整備が可能となり、大学が掲げる文理融合の研究推進の場としての共創スペースを提供できる。また共同利用書庫を新設することで全館室の狭隘解消を目指し、閲覧座席数の増加とリモート学習環境を整備した新たな学習スペースも確保する。

1階・2階・3階（一部）：共同利用書庫（増築）

2階：閲覧室（改修）

3階・4階：ラーニングコモンズ、共創スペース（改修および増築）

（改修：3,272 m²、増築：900 m²）

主な施設整備としては、2階へ「開架閲覧室」を集約、3階全体を「ラーニングコモンズ」とし、個人・グループどちらでも利用できるような仕切りをつけた5つのゾーンおよび増築箇所は従来の閲覧スペースと同じように利用できる「サイレントスペース」と多様な学習スタイルで利用できるように設計、加えてコロナ禍から需要の増えたオンライン授業や会議等参加に対応できるよう4つの個室「オンラインポッド」を設けた。4階は共創スペースと位置付け大型ディスプレイと音響設備を装備した「イノベーションスタジオ」、オンラインによるミーティング開催を想定した「コラボレーションルーム」、展示会場としての利用も可能な「オープンスクエア」などを設置した。

また、R4年8月から全図書館内から教育用端末が撤去されたため、図書館内での各自ノートパソコン持ち込み利用を考慮し、各フロアでの無線AP増設やコンセント整備も行った。

増築棟の1階、2階（一部）、3階（一部）は、全館室の狭隘解消を目的とした「共同利用書庫」としての運用を予定している。

各階の施設設備構成と概要は次の通り。

・1階

受付カウンター、新着雑誌室、和洋雑誌バックナンバー書庫、リフレッシュコーナー、テラス、共同利用書庫、事務室

・2階

開架閲覧室、中庭、共同利用書庫、事務室

・3階

ラーニングコモンズ、オンラインポッド(4室)、サイレントスペース、共同利用書庫

・4階

イノベーションスタジオ、コラボレーションルーム(3室)、オープンスクエア、ホワイエ、教職員

会議室

・予約施設概要

コラボレーションルーム 1（定員 3・20 名）

【予約受付】3 か月（93 日）前から

【予約対象者】自然科学系図書館サポート部局所属の院生・教職員
（当日申し込みは全部局所属院生・教職員対象）

【用途】研究活動、ゼミ・ラボの活動、オンライン会議など

【機器】ディスプレイ 75 インチ、無線対応プレゼンテーション用機器

コラボレーションルーム 2、3（定員 3・12 名）

【予約受付】1 週間前から

【予約対象者】自然科学系図書館サポート部局所属の学部生・院生・教職員
（当日申し込みは全部局所属学生・教職員対象）

【用途】グループワーク、オンライン会議など

【機器】ディスプレイ 55 インチ、無線対応プレゼンテーション用機器

オンラインポッド（定員 1 名）

【予約受付】1 週間前から

【予約対象者】自然科学系図書館サポート部局所属の学部生・院生・教職員
（当日申し込みは全部局所属学生・教職員対象）

【用途】オンライン授業、オンラインミーティングなど

教職員会議室（定員 1・26 名）

【予約受付】本年度末までの予約受付

【予約対象者】本学所属教職員

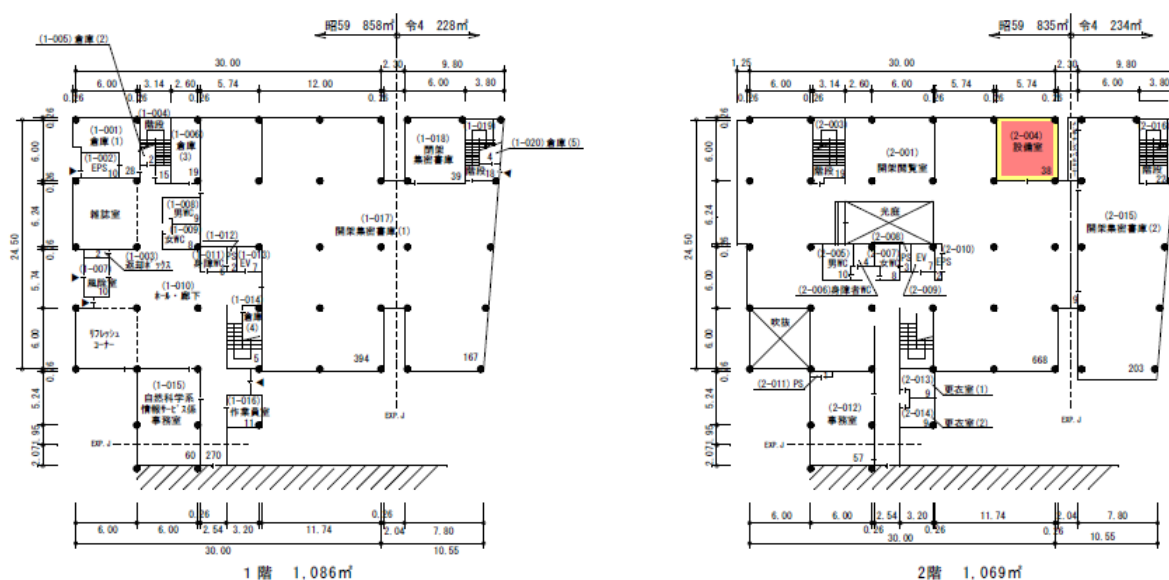
【用途】教職員の会議など

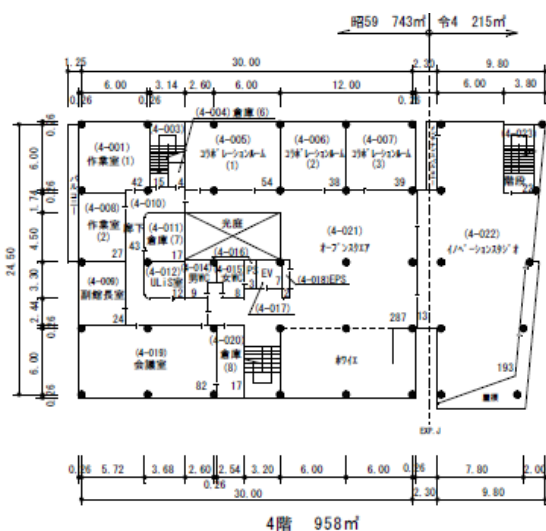
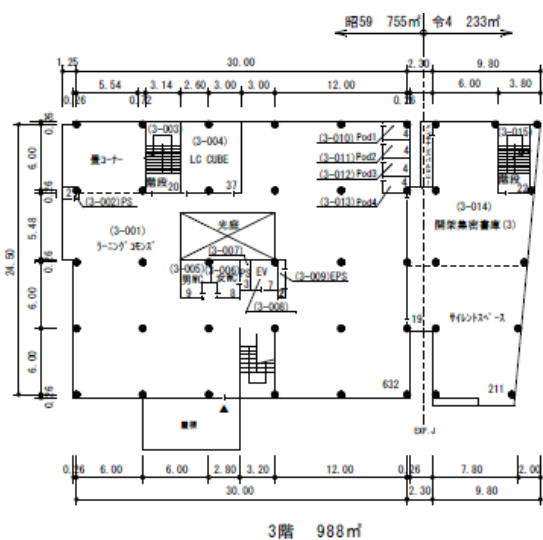
【機器】プロジェクター、マイク

工事開始に先立ち、令和 3 年 12 月 1 日より休館、工事期間中は社会科学系図書館および人文科学図書館内にそれぞれ、臨時事務室および臨時窓口を設置。

令和 5 年 4 月 3 日リニューアルオープンした。

＜改修後図面＞





〈改修後写真〉

1 F

受付カウンター

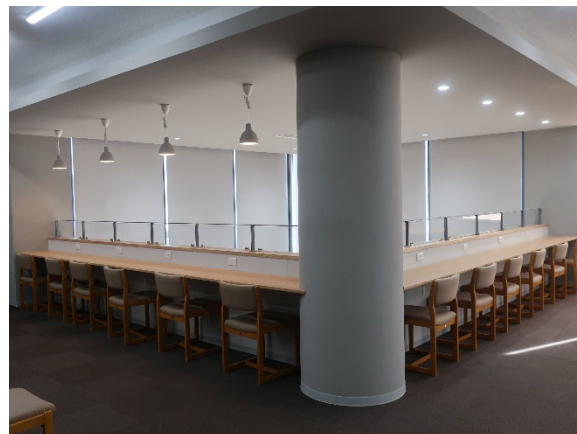
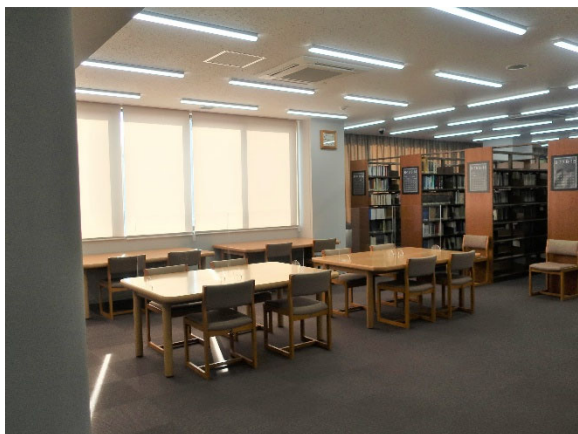


リフレッシュコーナー



2 F

閲覧室

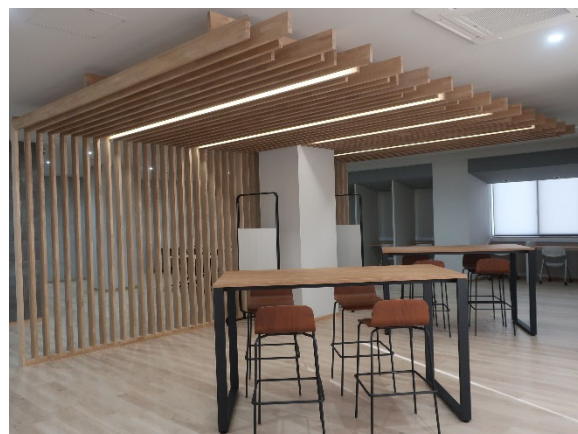
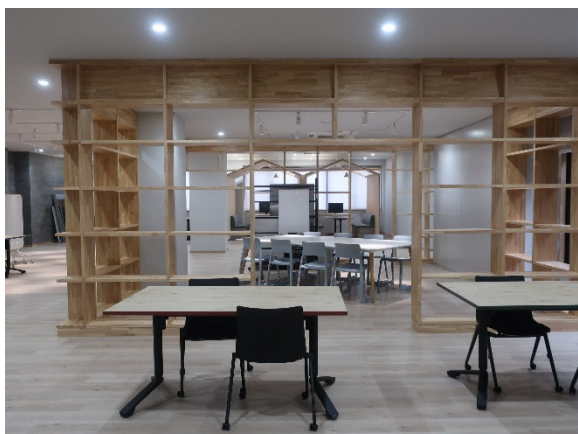
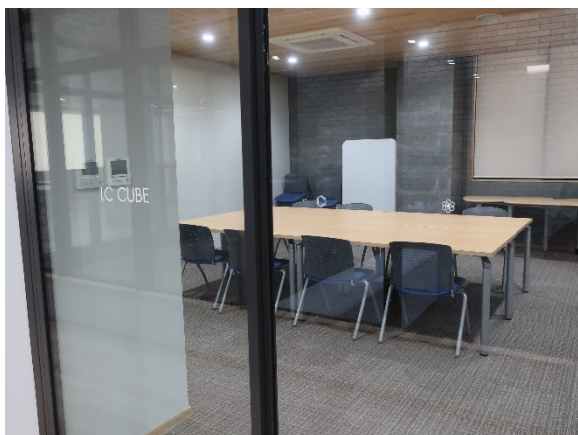


3 F

サイレントスペース

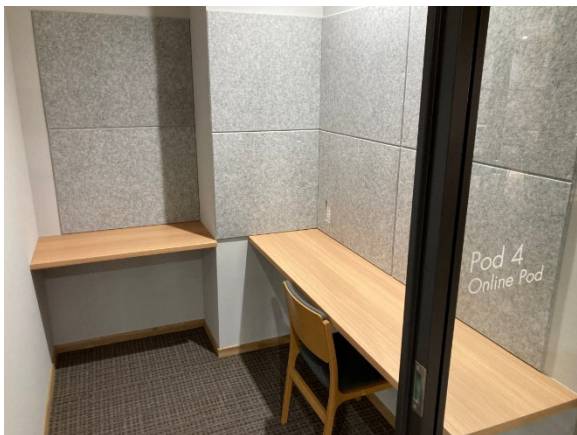


ラーニングコモンズ





オンラインポッド

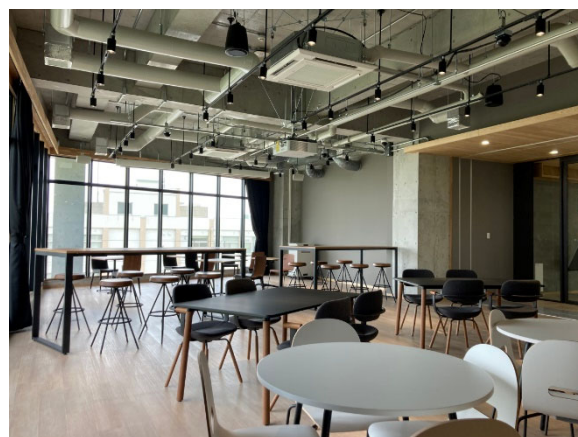


4 F

コラボレーションルーム



イノベーションスタジオ

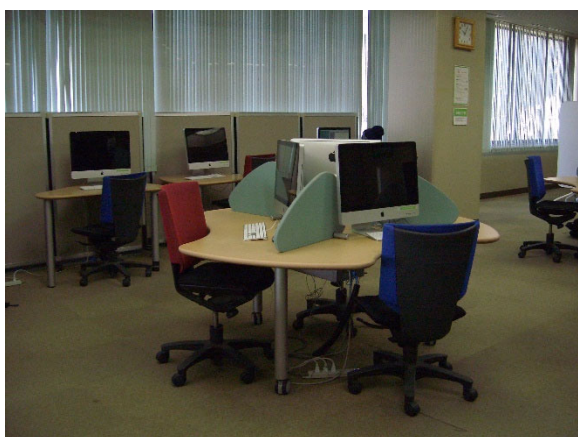


〈改修前写真〉

1 F



2 F



3 F



附属図書館蔵書・受入等の現況（令和4年度）

		総合・国際		社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
蔵書	蔵書数 (冊)		495,259		1,427,119	438,182	330,906	344,163	270,303	156,797	57,903	258,994	3,779,626
	和洋区分	和漢書	353,253		692,262	220,034	213,498	267,421	121,961	74,462	50,571	202,291	2,195,753
		洋書	142,006		734,857	218,148	117,408	76,742	148,342	82,335	7,332	56,703	1,583,873
	遡及状況	入力済	467,999		1,363,289	313,480	296,802	295,556	201,698	99,650	57,435	258,994	3,354,903
		未入力	27,260		63,830	124,702	34,104	48,607	68,605	57,147	468	0	424,723
	所蔵雑誌数 (タイトル数)		2,455		18,134	5,280	3,679	3,657	6,849	3,041	947	3,041	47,083
和洋区分	国内雑誌	1,597		6,715	2,292	2,729	2,491	3,113	1,586	751	2,034	23,308	
	外国雑誌	858		11,419	2,988	950	1,166	3,736	1,455	196	1,007	23,775	
図書受入	受入図書数 (冊)		1,925	1,930	7,894	2,315	4,059	2,754	439	1,040	978	1,288	24,622
	和洋区分	和漢書	1,897	1,468	4,784	1,846	3,198	2,510	327	1,003	943	1,165	19,141
		洋書	28	462	3,110	469	861	244	112	37	35	123	5,481
	取得手段	購入(一般財源)	1,922	1,137	3,146	1,238	1,735	1,486	206	719	369	995	12,953
		補助金による購入	3	701	2,323	612	2,097	557	36	97	126	164	6,716
		一般寄贈	0	72	772	402	152	616	104	130	418	69	2,735
		再受入	0	0	1,278	2	0	0	17	1	0	0	1,298
		製本編入	0	20	375	54	75	95	76	93	65	60	913
		所属換	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7
	取得目的	学生用図書	1,793	153	2,055	901	373	522	18	552	308	697	7,372
		図書館備付	129	557	3,132	366	1,055	1,326	382	358	551	375	8,231
		研究室備付	3	1,220	2,707	1,048	2,631	906	39	130	119	216	9,019
	除却・移譲等による減 (冊)		3,370		2,188	10,683	994	4,721	3,424	749	610	877	27,616
	和洋区分	和漢書	2,424		1,670	9,237	652	4,488	1,283	700	602	764	21,820
		洋書	946		518	1,446	342	233	2,141	49	8	113	5,796
	所属換による減 (冊)		7		0	0	0	0	0	0	0	0	7
	和洋区分	和漢書	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
		洋書	7		0	0	0	0	0	0	0	0	7
	年間増加数 (冊)		478		5,706	-8,368	3,065	-1,967	-2,985	291	368	411	-3,001
	和洋区分	和漢書	941		3,114	-7,391	2,546	-1,978	-956	303	341	401	-2,679
		洋書	-463		2,592	-977	519	11	-2,029	-12	27	10	-322
雑誌受入	受入雑誌数 (タイトル数)		84	105	1,081	272	767	140	486	374	94	251	3,654
	和洋区分	国内雑誌	77	89	530	229	675	137	390	275	80	230	2,712
		外国雑誌	7	16	551	43	92	3	96	99	14	21	942
	取得手段	購入(一般財源)	84	42	842	173	225	101	137	154	62	71	1,891
		補助金による購入	0	0	36	15	7	0	0	46	2	4	110
		一般寄贈	0	63	203	84	535	39	349	174	30	176	1,653
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	70	19	14	116	15	64	0	130	60	67	555
		図書館備付	3	63	934	87	752	39	482	174	30	176	2,740
		研究室備付	11	23	133	69	0	37	4	70	4	8	359
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)		8	0	15	3	6	8	6	5	3	8	62
	和洋区分	国内新聞	6	0	12	3	4	8	5	4	3	8	53
		外国新聞	2	0	3	0	2	0	1	1	0	0	9
	取得手段	購入	7	0	15	3	6	7	6	5	3	7	59
		寄贈	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	データベース(年間契約点数)		14	0	8	2	0	0	0	4	2	0	30
	電子ジャーナル(利用可能数)		37,668										37,668
資料購入費	一般財源資料費		385,219,275	6,498,852	126,962,171	27,390,283	16,253,886	11,503,249	13,837,594	42,631,726	6,971,438	7,822,697	645,091,171
	図書館セグメント	学生用資料費	5,314,484	1,439,030	7,896,069	6,366,088	2,336,925	2,875,294	406,157	3,642,811	2,254,747	2,744,448	35,276,053
		その他資料費	379,076,686	0	26,081,057	0	0	0	0	0	0	0	405,157,743
	部局セグメント	館室備付	412,319	3,131,560	85,761,765	343,024	10,365,716	4,413,942	13,396,741	36,471,268	4,499,555	4,444,189	163,240,079
		研究室備付	415,786	1,928,262	7,223,280	20,681,171	3,551,245	4,214,013	34,696	2,517,647	217,136	634,060	41,417,296
	その他の財源 補助金等		8,779,536	3,023,683	26,472,198	20,314,086	18,833,512	8,637,469	216,680	3,788,373	337,986	1,788,723	92,192,246
	図書購入費		4,256,084	8,320,114	44,473,469	11,246,921	22,185,887	7,974,295	4,780,272	5,354,967	1,930,949	4,967,931	115,490,889
	和洋区分	和漢書	4,099,912	4,821,434	20,405,513	5,958,944	14,352,149	6,039,117	1,275,875	4,561,202	1,694,240	3,418,393	66,626,779
		洋書	156,172	3,498,680	24,067,956	5,287,977	7,833,738	1,935,178	3,504,397	793,765	236,709	1,549,538	48,864,110
	雑誌購入費		1,380,592	726,303	71,949,847	16,915,308	6,677,592	3,405,938	8,932,822	34,927,783	4,458,981	3,664,539	153,039,705
	和洋区分	国内雑誌	1,045,912	187,196	6,739,715	3,852,662	1,297,820	1,350,014	2,313,495	3,997,288	1,255,887	1,003,822	23,043,811
		外国雑誌	334,680	539,107	65,210,132	13,062,646	5,379,772	2,055,924	6,619,327	30,930,495	3,203,094	2,660,717	129,995,894
	新聞購入費		391,560	0	1,154,484	118,119	285,960	251,472	154,070	285,960	175,560	312,581	3,129,766
	電子資料費		387,917,639	476,118	32,537,220	12,515,789	1,619,601	716,205	103,783	5,567,225	637,745	211,889	442,303,214
	その他の資料購入費		52,936	0	3,319,349	6,908,232	4,318,358	7,792,808	83,327	284,164	106,189	454,480	23,319,843
	資料購入費 計		393,998,811	9,522,535	153,434,369	47,704,369	35,087,398	20,140,718	14,054,274	46,420,099	7,309,424	9,611,420	737,283,417
電子コンテンツ作成費		12,401,671										12,401,671	
製本費		46,200		866,250	124,740	173,250	219,450	175,560	214,830	150,150	157,520	2,127,950	

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする（平成23年度変更）

附属図書館サービス業務の現況(令和4年度)

※令和3～4年度に実施した自然科学系図書館改修に伴う施設・設備の変更を反映した。

			総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
施設	施設面積合計(㎡)		3,558	10,308	4,101	1,288	1,474	1,097	1,715	837	2,170	26,548
	現行用途別(㎡)	サービススペース	1,954	2,077	2,205	664	538	141	793	598	763	9,733
		書庫スペース	1,208	5,771	777	535	714	900	462	97	988	11,452
		事務スペース	130	672	432	48	89	27	141	48	103	1,690
		その他	266	1,788	687	41	133	29	319	94	316	3,673
	閲覧座席数	閲覧座席数	389	411	435	138	153	29	225	106	169	2,055
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	書架収容力	棚板延長(m)	12,285	49,040	13,732	8,028	7,857	6,873	6,268	1,920	7,258	113,261
		収容可能冊数	341,250	1,362,222	381,450	223,000	218,250	190,916	174,111	53,333	201,611	3,146,143
利用者端末台数		8	17	4	10	7	0	5	3	3	57	
利用者	利用対象者総数		4,781	3,961	5,807	719	1,188	73	3,779	1,036	1,174	22,518
	利用者別	学部学生	4,176	2,177	2,458	343	625	0	597	502	716	11,594
		大学院生	213	1,102	1,825	224	287	0	550	319	214	4,734
		教職員	381	576	1,524	140	247	69	2,533	215	220	5,905
		その他	10	80	0	12	17	4	99	0	24	246
		学外登録者総数	1	26	0	0	12	0	0	0	0	39
	内訳:卒業生37、放送大学等2、一般市民0											
開館入館	開館日数	年間	299	329	0	267	267	237	283	269	268	2,219
		土曜(内数)	31	46	0	31	30	0	44	30	30	242
		休日(内数)	31	46	0	0	0	0	0	0	0	77
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	668	673	0	483	483	0	682	486	486	3961
		土曜開館	248	359.25	0	248	240	0	352	240	240	1927.25
		休日開館	248	361	0	0	0	0	0	0	0	609
	入館者数	年間入館者総数	106,972	98,934	0	61,886	24,240	1,136	31,288	26,619	19,198	370,273
		(内訳)時間内(含:土日)	98,868	92,438	0	55,559	22,221	1,136	28,484	26,017	17,775	342,498
		平日時間外	8,104	6,496	0	6,327	2,019	0	2,804	602	1,423	27,775
		閉館時(無人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土曜(内数)	1,762	4,078	0	1,929	430	0	1,176	467	487	10,329
		休日(内数)	1,920	3,455	0	0	0	0	0	0	0	5,375
		学外者(内数)	203	1,113	0	71	69	14	8	2	105	1,585
		(内訳)卒業生	69	101	0	59	25	2	4	2	6	268
		他大学生・研究者等	39	54	0	12	4	11	0	0	6	126
		一般市民	95	958	0	0	40	1	4	0	93	1,191
貸出	貸出総冊数		67,351	87,796	0	23,902	26,825	2,241	10,190	14,279	21,772	254,356
	利用者別	学生	38,918	36,585	0	9,218	11,379	580	4,788	9,260	14,979	125,707
		院生	18,913	39,316	0	10,949	12,453	692	1,263	3,913	4,446	91,945
		教員	6,645	7,580	0	3,015	2,054	834	764	780	1,763	23,435
		職員	2,642	4,128	0	686	914	132	3,350	311	568	12,731
		その他	161	105	0	1	12	0	19	1	5	304
		学外者総数	72	82	0	33	13	3	6	14	11	234
		卒業生(内数)	68	78	0	33	13	3	6	14	11	226
一般市民(内数)	0	-	-	-	-	-	-	-	0	0		
参考調査	参考調査件数		1,114	1,880	0	1,753	1,085	470	1,988	339	1,189	9,818
	利用者別	学生	1,006	1,109	0	1,490	807	129	333	304	1,012	6,190
		教職員	100	113	0	239	208	197	1,123	35	109	2,124
		学外者	8	658	0	24	70	144	532	0	68	1,504
	チャットによる利用者相談		182									
複写相互利用	来館複写件数		455	2,793	0	2,345	743	243	362	66	196	7,203
	利用者別	学内者	358	2,648	0	2,341	719	227	362	66	188	6,909
		学外者	97	145	0	4	24	16	0	0	8	294
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	22	91	0	60	58	21	40	54	93	439
		ILL文献複写 依頼	68	72	0	22	103	11	23	12	20	331
	図書配送	発送申込冊数	8,192	7,610	0	1,129	3,763	496	526	946	2,433	25,095
		受取申込冊数	3,986	2,723	0	13,377	2,111	272	948	752	926	
		申込者数	929	581	0	1,240	333	48	128	127	176	3,562
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	183	2,765	0	249	359	138	986	304	128	5,112
		ILL文献複写 依頼	420	470	773	892	563	51	273	260	56	3,758
		ILL現物貸借 受付	393	1,008	0	412	203	21	11	18	82	2,148
		ILL現物貸借 依頼	153	154	89	418	55	4	10	4	32	919
	海外ILL	文献複写 受付	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4
		文献複写 依頼	4	3	9	6	0	0	3	0	1	26
		現物貸借 受付	8	0	0	2	0	0	0	0	0	10
		現物貸借 依頼	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

電子的情報サービスの現況 (R4・2022年度)

電子ジャーナルアクセス状況 ※基盤整備費にかかるもの

	2022.4	2022.5	2022.6	2022.7	2022.8	2022.9	2022.10	2022.11	2022.12	2023.1	2023.2	2023.3	合計
ACS	11,257	12,093	14,383	11,908	9,524	10,796	12,782	12,280	10,910	11,204	11,140	9,465	137,742
APS	979	1,041	1,029	972	957	886	948	1,404	866	928	815	678	11,503
Cambridge UP	1,072	1,538	1,655	1,307	1,171	820	1,164	1,334	1,421	1,168	950	819	14,419
Elsevier ScienceDirect	47,905	54,936	61,641	53,792	42,285	42,894	49,698	56,138	50,430	56,202	44,980	40,763	601,664
HeinOnline	487	849	689	569	549	543	609	850	646	605	772	410	7,578
JSTOR	3,879	5,137	5,973	4,634	3,493	2,861	4,495	4,655	4,315	4,620	3,653	3,273	50,988
Nature	8,088	8,838	8,903	8,057	6,441	6,993	8,149	7,774	7,834	8,132	7,743	7,236	94,188
Ovid	1,020	1,031	1,302	1,180	1,237	1,112	1,043	1,177	1,195	1,083	1,065	893	13,338
Oxford UP	4,532	5,733	5,684	4,662	3,931	3,552	4,769	5,185	5,055	5,430	3,934	4,044	56,511
Project Euclid	64	61	134	92	124	87	142	100	72	150	90	90	1,206
Science Online	1,424	1,952	2,100	1,991	1,435	1,423	1,760	1,690	1,433	1,842	1,324	1,220	19,594
SpringerLINK	16,285	16,195	19,008	16,947	12,731	14,356	16,622	17,142	14,892	17,753	14,077	13,719	189,727
Wiley Online Library	18,721	21,132	21,194	20,990	15,871	15,684	18,438	19,443	17,598	21,562	15,693	15,126	221,452

フルテキストへのアクセス数

導入データベース数 ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	56 WWWアクセス
キャンパス限定(医学)	5 医学4(医中誌、EBMR、MEDLINE、Up to date) 保健1(最新看護索引Web)

データベースアクセス状況 ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるもの

	2022.4	2022.5	2022.6	2022.7	2022.8	2022.9	2022.10	2022.11	2022.12	2023.1	2023.2	2023.3	合計
Business Source Premier	294 (295)	261 (315)	356 (431)	496 (546)	192 (248)	213 (377)	276 (256)	279 (201)	279 (154)	197 (134)	156 (63)	172 (154)	3,171 (3,174)
CINAHL	85 (242)	46 (124)	55 (201)	49 (187)	32 (106)	57 (228)	28 (158)	34 (120)	29 (79)	44 (222)	40 (133)	17 (80)	516 (1,880)
CiNii Research	3,809 (11,272)	7,437 (20,449)	7,672 (18,900)	6,603 (16,411)	3,834 (8,667)	3,420 (7,340)	5,648 (14,703)	6,008 (14,914)	5,643 (14,252)	5,476 (11,649)	3,564 (7,096)	2,690 (5,818)	61,804 (151,471)
EconLit	54 (122)	48 (295)	24 (69)	42 (126)	38 (117)	63 (238)	18 (73)	26 (191)	20 (83)	24 (69)	17 (71)	17 (42)	398 (1,496)
Index to Legal Periodicals & Books(EBSCOhost)	36 (69)	29 (84)	21 (54)	26 (64)	18 (56)	26 (132)	12 (61)	7 (16)	9 (59)	19 (58)	8 (14)	7 (16)	218 (683)
JCR	248 (447)	204 (485)	402 (977)	405 (1,103)	282 (554)	199 (286)	216 (426)	206 (393)	190 (309)	190 (318)	206 (493)	244 (533)	2,992 (6,324)
JDreamIII	74 (212)	269 (786)	117 (278)	58 (163)	61 (144)	55 (114)	104 (240)	138 (281)	84 (199)	85 (210)	116 (237)	96 (272)	1,257 (3,136)
Lexis	46 (15)	15 (107)	107 (110)	17 (17)	21 (21)	57 (57)	82 (82)	46 (46)	86 (86)	59 (59)	52 (52)	52 (52)	698 (698)
Academic OneFile	190 (255)	233 (358)	188 (243)	187 (233)	143 (346)	110 (166)	198 (313)	188 (236)	189 (213)	170 (173)	132 (156)	114 (117)	2,042 (2,809)
General OneFile	30 (81)	73 (212)	40 (85)	26 (52)	57 (221)	13 (25)	66 (193)	46 (73)	29 (68)	24 (61)	17 (28)	12 (26)	433 (1,125)
MathSciNet	2,480 (2,480)	2,649 (2,649)	2,936 (2,936)	3,536 (3,536)	2,819 (2,819)	3,232 (3,232)	3,577 (3,577)	3,003 (3,003)	2,498 (2,498)	3,375 (3,375)	3,585 (3,585)	3,138 (3,138)	36,828 (36,828)
OECD iLibrary	96 (167)	74 (186)	103 (197)	73 (151)	69 (102)	13 (145)	111 (211)	55 (133)	92 (167)	74 (142)	29 (129)	28 (161)	817 (1,894)
PhycARTICLES	167 (303)	186 (242)	197 (161)	151 (489)	102 (193)	145 (216)	211 (347)	133 (213)	167 (160)	142 (152)	129 (194)	161 (245)	1,894 (2,915)
PhycINFO	66 (308)	88 (242)	67 (168)	55 (465)	62 (188)	68 (188)	108 (328)	58 (193)	66 (181)	49 (150)	69 (237)	106 (257)	862 (2,905)
Readers Guide to Periodical Literature(EBSCOhost)	34 (67)	27 (82)	18 (43)	25 (60)	18 (56)	27 (135)	16 (65)	8 (20)	10 (60)	20 (59)	8 (14)	7 (20)	218 (681)
SciFinder-n / SciFinder	6,696 (6,696)	7,238 (7,238)	9,615 (9,615)	8,523 (8,523)	4,875 (4,875)	6,867 (6,867)	8,258 (8,258)	7,356 (7,356)	5,075 (5,075)	5,255 (5,255)	5,138 (5,138)	4,127 (4,127)	79,023 (79,023)
Web of Science Core Collection	5,167 (15,861)	4,941 (16,469)	4,987 (14,980)	4,351 (12,788)	3,409 (8,394)	3,863 (11,165)	4,862 (15,902)	4,221 (15,925)	3,609 (11,365)	3,761 (14,056)	3,237 (10,538)	2,574 (9,211)	48,982 (156,254)
Westlaw Next	278 (797)	474 (1,368)	581 (1,364)	301 (627)	321 (681)	383 (838)	271 (553)	289 (622)	299 (655)	478 (1,255)	248 (587)	361 (1,088)	4,284 (10,435)
医学中央雑誌	3,857 (12,688)	4,080 (8,152)	3,284 (7,527)	2,966 (7,010)	2,782 (5,937)	2,557 (5,176)	3,008 (6,801)	3,308 (7,202)	2,272 (4,784)	2,200 (4,572)	2,784 (6,440)	2,198 (4,275)	35,296 (80,564)
開蔵IIビジュアル / 朝日新聞クロスサーチ	327 (3,830)	507 (21,733)	648 (9,371)	707 (14,207)	315 (76,520)	266 (3,786)	482 (10,509)	535 (9,790)	534 (64,865)	677 (15,146)	421 (8,166)	214 (1,666)	5,633 (239,589)
ざっさくプラス	20 (18)	40 (96)	29 (101)	52 (121)	13 (38)	12 (72)	30 (88)	12 (25)	52 (116)	25 (57)	9 (27)	17 (30)	311 (789)
ジャパンナレッジLib	969 (9,444)	1,633 (17,338)	1,612 (15,933)	1,434 (14,840)	873 (5,894)	605 (6,457)	1,298 (14,611)	1,545 (18,186)	1,521 (16,085)	1,320 (11,906)	985 (7,698)	530 (4,448)	14,325 (142,840)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	110 (139,645)	99 (203,075)	96 (142,572)	114 (221,307)	90 (52,986)	85 (70,668)	88 (126,945)	136 (352,778)	162 (144,840)	101 (81,982)	143 (64,097)	162 (125,609)	1,386 (1,726,504)
日経テレコン	263 (7,575)	348 (10,292)	326 (10,066)	525 (19,855)	243 (9,564)	157 (6,961)	277 (18,404)	311 (25,639)	297 (27,401)	295 (12,247)	290 (13,178)	143 (13,092)	3,475 (174,274)
メディカルオンライン	6,500 (6,500)	6,450 (6,450)	6,576 (6,576)	6,495 (6,495)	6,082 (6,082)	5,448 (5,448)	6,012 (6,012)	6,702 (6,702)	4,951 (4,951)	4,885 (4,885)	5,824 (5,824)	4,827 (4,827)	70,752 (70,752)
ヨミダス歴史館	106 (720)	190 (2,014)	183 (2,143)	177 (1,581)	107 (1,144)	103 (1,158)	106 (770)	157 (1,520)	199 (2,265)	145 (924)	138 (869)	123 (569)	1,734 (15,677)

※官報は統計データ未公開

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計

	2022.4	2022.5	2022.6	2022.7	2022.8	2022.9	2022.10	2022.11	2022.12	2023.1	2023.2	2023.3	合計
図書館トップページ※	7,708	58,013	55,352	51,489	42,102	32,113	50,516	47,872	43,540	44,284	36,027	27,344	496,360
OPAC延べ検索回数	180,270	187,748	169,393	173,724	148,701	157,406	192,305	161,784	157,451	157,751	164,687	130,185	1,981,405
ディスカバリー延べ検索回数	939	1,228	1,492	1,212	1,208	1,524	1,726	1,355	1,586	1,162	852	917	15,201
震災文庫トップページ※	783	886	1,018	943	850	968	752	468	567	1,565	705	1,774	11,279
(うち学内)	195	218	274	267	163								
(うち学外)	588	668	744	676	687								
新聞記事文庫トップページ※	5,482	6,211	7,230	5,598	5,131	3,832	4,543	4,314	3,728	4,277	3,946	3,901	58,193
(うち学内)	285	286	433	431	255								
(うち学外)	5,197	5,925	6,797	5,167	4,876								

※システム不具合のため、図書館トップページは2022年4月の数値が不正 / システム改修により、震災文庫・新聞記事文庫は2022年9月から全体アクセス数のみ取得

リンクリゾルバ(SFX)利用統計

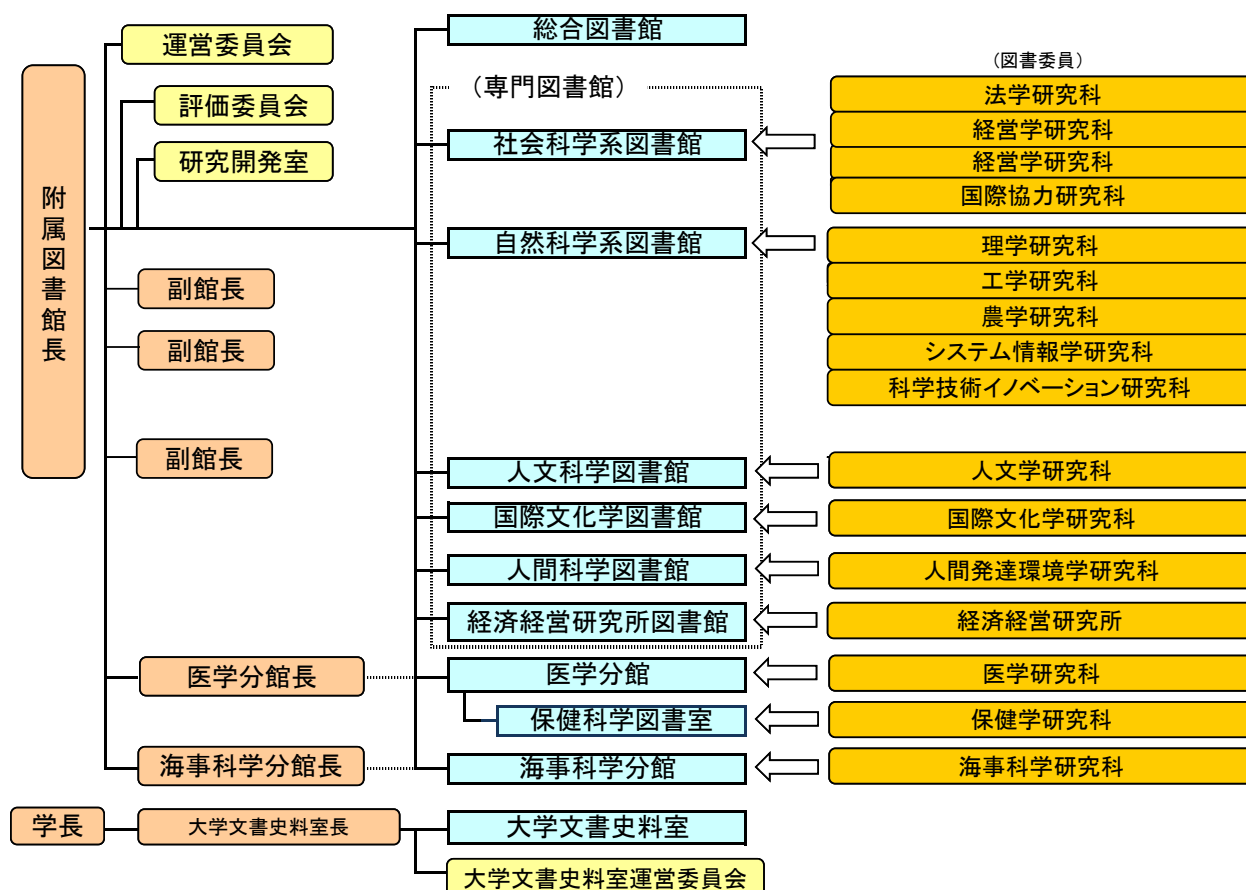
	2022.4	2022.5	2022.6	2022.7	2022.8	2022.9	2022.10	2022.11	2022.12	2023.1	2023.2	2023.3	合計
電子リソースアクセス数	43,806	14,545	14,173	11,665	31,081	8,337	12,135	11,844	10,675	9,906	8,832	7,173	184,172
電子リソースリスト	30,408	3,836	3,678	2,669	21,669	2,147	2,797	2,769	2,321	2,339	2,163	2,100	78,896
DBからのアクセス数	13,398	10,709	10,495	8,996	9,412	6,190	9,338	9,075	8,354	7,567	6,669	5,073	105,276
→ フルテキスト	14,780	7,942	7,803	5,961	12,874	4,986	6,473	6,659	5,516	5,487	5,175	4,532	88,188
→ 所蔵検索数	1,225	1,621	1,387	1,336	803	358	670	542	537	390	385	258	9,512
→ 文献複写依頼	152	163	157	228	190	129	227	279	211	81	114	138	2,069

※ アクセス数: 電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数: OPAC、Webcatのアクセス回数

各DB(CiNii、WoS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

附属図書館組織

(令和5年7月現在)



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置

(令和5年7月現在)

情報管理課		係名			正規	準正規	非常勤	館室名
事務部長	情報管理課長 (社)	課長補佐 (社)	企画係	3		1	社会科学系図書館	
			管理係	3		0		
		課長補佐 (研究)	資料整備グループ受入担当	3		1		
			資料整備グループ雑誌担当	2		1		
		課長補佐 (研究)	資料整備グループ目録担当	2	1	1		
			資料整備グループ整備担当	(1)		0		
			電子情報グループ電子図書館担当	2		3		
			電子情報グループ震災文庫担当	1		1		
			電子情報グループ情報システム担当	2		0		
			社会科学系情報サービス係	2		6		
	情報サービス課長 (自)	課長補佐 (自)	情報リテラシー係	2		0	自然科学系図書館	
			自然科学系情報サービス係	3		4		
			人文科学情報サービス係	3		2	人文科学図書館	
			総合・国際文化学情報サービス係	2		5	総合・国際文化学図書	
			人間科学情報サービス係	2	1	2	人間科学図書館	
			海事科学情報サービス係	2		2	海事科学分館	
			医学情報サービス係	2		4	医学分館	
			保健科学情報サービス係	2		1	保健科学図書室	
			大学文書史料室長	大学文書史料室	3		2	大学文書史料室
神戸大学出版会				(1)				

附属図書館 正規職員45名 準正規職員2名 非常勤職員34名
 大学文書史料室 正規職員 3名 非常勤職員 2名
 * 非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務課長	経済経営研究所事務課図書係	2	1	0	経済経営研究所図書館
-------------	---------------	---	---	---	------------

令和4年度附属図書館諸会議一覧

＜附属図書館運営委員会＞

第1回： 7月15日（金）10：40～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和3年度決算について
- （2） 令和4年度電子図書館事業について
- （3） 令和4年度総合図書館学生用資料整備計画について
- （4） 令和5年度外国雑誌センターの予算について
- （5） 資料の不用決定について
- （6） その他

報告事項

- （1） 神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策
緊急募金（学生）による令和3年度電子ブックの拡充について
- （2） 令和3年度入退館管理システムの更新について
- （3） 田嶋記念大学図書館振興財団「令和2年度助成金交付」
- （4） 2023年外国雑誌購読調査について
- （5） 令和3年事業年度に係る業務の実績について
- （6） 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る附属図書館の利用について（令和4年度4～6月）
- （7） 令和4年度前期情報リテラシー事業実施報告
- （8） 各図書館・室報告について
- （9） その他

第2回： 審議期間 9月8日（木）～ 26日（月） （メール回議）

審議事項

- （1） 令和3年度附属図書館年次報告（評価委員会案）について

第3回： 11月8日（火）13：20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直しについて
- （2） 令和5(2023)年度の時間外開館について
- （3） 学生用図書整備計画大綱の改正について
- （4） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （5） 附属図書館に関する自己点検・評価の実施及び
自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画について
- （6） 資料の不用決定について
- （7） その他

報告事項

- （1） Wiley 社及び Springer 社からの転換契約の提案について
- （2） 令和5(2023)年教育研究基盤資料の整備について
- （3） 令和5(2023)年度施設関係事業(学内宮繕費)要求について
- （4） 令和5(2023)年外国雑誌センター購読誌の契約について
- （5） 附属図書館事務組織体制について(令和4年10月現在)
- （6） 各図書館・室報告について
- （7） その他

第4回： 1月31日（火）10:40～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和5年度学生用資料費について
- (2) 令和5年度E-Study 資料について
- (3) 令和5年度附属図書館開館日について
- (4) 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- (5) 資料の不用決定について
- (6) その他

報告事項

- (1) 令和6年度概算要求について
- (2) 令和5年度事業計画について
- (3) シュプリンガー・ネイチャーとのオープンアクセス(OA)出版の取扱いについて
- (4) 学生選書ツアー2022 実施報告について
- (5) 各図書館・室報告について
- (6) その他

第5回： 3月31日（金）13:20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和5年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 令和5(2023)年度5月以降の時間外開館について
- (3) 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- (4) 令和3年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- (5) 神戸大学機関リポジトリ運用指針の改正について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 附属図書館における経費節減について
- (2) 自然科学系図書館のリニューアルオープンについて
- (3) 令和5(2023)年度の図書館サービス方針について
- (4) 情報リテラシー事業 令和4年度報告・令和5年度計画について
- (5) 令和4(2022)年度購入電子書籍コンテンツ利用状況について
- (6) 海事科学分館ネーミングライツについて
- (7) 読書マラソン開催報告
- (8) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）
- (9) 各図書館・室報告について
- (10) その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 6月29日（水）13:20～ （於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- (1) 令和3年度決算について
- (2) 令和4年度電子図書館事業について
- (3) 令和4年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (4) 令和5年度外国雑誌センターの予算について
- (5) その他

第2回： 10月31日（月） 15:10～（於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和6(2024)年以降の教育研究基盤資料の見直しについて
- （2） 令和5(2023)年度の時間外開館について
- （3） 学生用図書整備計画大綱の改正について
- （4） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （5） 附属図書館に関する自己点検・評価の実施及び
自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画について
- （6） その他

第3回： 1月23日（月） 15:10～（於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和5年度学生用資料費について
- （2） 令和5年度 E-Study 資料について
- （3） 令和5年度附属図書館開館日について
- （4） 自己点検・評価結果を踏まえた対応措置の実施計画の進捗状況について
- （5） その他

第4回： 3月23日（木） 15:10～（於：Web 会議、社会科学系図書館館長室）

協議事項

- （1） 令和5年度附属図書館当初予算配分について
- （2） 令和5(2023)年度5月以降の時間外開館について
- （3） 総合図書館学生用雑誌の見直しについて
- （4） 令和3年度総合図書館学生用図書選定結果と評価について
- （5） 神戸大学機関リポジトリ運用指針の改正について
- （6） その他

＜附属図書館評価委員会＞

第1回： 8月8日（月）～ 31日（金）（メール回議）

議題

- （1） 令和3年度神戸大学附属図書館年次報告について

＜附属図書館研究開発室会議＞

電子化部会 第1回： 5月12日（木）～ 19日（木）（メール回議）

報告事項

- （1） 令和3年度電子図書館事業報告
- （2） 令和3年度学術成果リポジトリ事業報告

協議事項

- （1） 令和4年度電子図書館事業計画（案）

教育研究支援部会 懇談会： 3月30日（金） 15:00～（Web 会議）

議題

- （1） 令和4年度情報リテラシー教育実施報告
- （2） 令和5年度情報リテラシー事業計画

<情報サービス課連絡会議>

第1回： 4月14日（木） 10：00～10：45（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） NDL デジタル化資料送信サービスの変更点について
- （2） 令和4年度学生用資料費の保留について

第2回： 5月12日（木） 10：00～10：35（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） お問合せフォームへの自動返信メールの送信について
- （2） LC Web サイト (<https://lib.kobe-u.ac.jp/lc/>) の管理権限について
- （3） NDL デジタル化資料送信サービスの変更点について（4/14の続）

第3回： 6月9日（木） 10：00～ （Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） 後期学生アルバイト募集について
- （2） 図書館資産点検計画について（R4～R9）
- （3） オープンキャンパスの見学対応について
- （4） 夏季の冷房運転等について

第4回： 7月14日（木） 10：00～11：30（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） ILL 料金の改訂について
- （2） 自館所蔵資料の複写サービスについて
- （3） 緊急時対応マニュアルについて
- （4） 附属中等教育学校生徒の訪問利用について
- （5） HP 上での開館カレンダー公開の範囲・タイミングについて
- （6） 学外者の訪問利用について
- （7） オープンキャンパス（OC）で来学した学外者の見学可否

第5回： 8月4日（木） 10：00～11：20（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） 図書館システムリプレイス及びネットワーク切替について
- （2） 貴重書・特殊文庫のウェブサイトについて
- （3） 図書館システムリプレイス・OPAC ヒアリングシートについて
- （4） 夏の卒業生延滞者督促について
- （5） 社会系、総合・国際の LC 試行について
- （6） 図書館等公衆送信サービス実施に向けた補償金徴収・支払いに関する確認について

第6回： 9月8日（木） 10：00～10：35（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） 後期からのラーニングコモンズでの発話について（社会図、総合・国際図）
- （2） 紹介状（公印省略）についての情報共有
- （3） 予約取り置き本の期限について

第7回： 10月4日（金） 10：00～10：50（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- （1） グループ学習室再開の判断について
- （2） 製本雑誌の遡及入力について
- （3） 図書館資産点検計画（R4～R9）の変更について
- （4） Reprints Desk の導入について
- （5） 督促メールの一本化（業務改善継続）について
- （6） 学内他部署からの見学依頼について

- (7) 医学文献検索サポートデスクについて
- (8) 学生希望図書費の共通予算化（業務改善新規）について

第8回： 11月1日（火） 10：00～11：30（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) R5 年度時間外開館要員（学生アルバイト）募集について
- (2) 自然系図書館共同利用書庫の活用について
- (3) 研究室備付図書の借用申込フォームでの必須項目について
- (4) KULiP「授業資料ガイド」の運用変更について
- (5) NACSIS-CAT/ILL 停止のお知らせについて
- (6) 冬季利用案内について
- (7) 研究室への和雑誌購読調査取り止めについて
- (8) 学生希望図書費の共通予算化について
- (9) 教員（常勤を除く）・職員による希望図書リクエストの提案

第9回： 12月6日（火） 10：00～11：30（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) R5 年度時間外開館要員（学生アルバイト）募集について
- (2) （続き）「学生希望図書費の共通予算化」について
- (3) 資料収容力確保策に関する実務指針（改訂案）について
- (4) 学外者の利用再開について
- (5) 図書館におけるマスク着用と座席収容者数について
- (6) NACSIS-CAT/ILL システム更新に関するお知らせ（ILL 処理遅延・資産図書の引き渡し遅延）の掲載について
- (7) NACSIS-CAT/ILL システム更新中の ILL 業務について

第10回： 12月27日（火） 10：00～11：10（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) R5 年度時間外開館要員（学生アルバイト）募集について
- (2) （年末年始および1/14～1/30）（国際図）レンディングポリシー上、「ILL 受付は非相殺や着払も含め停止」とお知らせ予定
- (3) 春季利用案内について
- (4) 大学入学共通テストに伴う休館・開館時間変更のお知らせ
- (5) OPAC の書影について
- (6) ガイダンスに関する全学アンケートについて
- (7) 学外者の利用再開について
- (8) シュプリンガーネイチャー社のオープンアクセス出版の取扱いについて
- (9) アカウントサービスを使った貸出期間延長の回数制限について
- (10) WEB 施設予約のリンクをメガメニューに掲載するかについて検討

第11回： 2月8日（水） 10：00～（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 令和5（2023）年度開館予定表について
- (2) 卒業（修了）生に対する貸出サービス登録について
- (3) 入学試験に伴う休館のお知らせ
- (4) 附属学校の学生は2/13以降も来館不可の件

第12回： 3月7日（水） 10：00～（Web 会議）

議題 （各館室報告に続き）

- (1) 4月以降のマスク着用について
- (2) 退職教員の研究室所蔵未返却資料の取り扱いについて_改正

- (3) 不用図書に関わる各種連絡方法について
- (4) 2023 年度サービス課連絡会議予定について
- (5) 附属学校への各館からのデリバリー発送冊数および直接来館(人数、冊数)の記録について
- (6) 4 月以降の HP 開館カレンダーについて

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職 名	氏 名	任 期 等
附属図書館長	国文・教授	櫻井 徹	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	法・教授	井上 典之	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	農・教授	藤嶽 暢英	R3. 4. 1～R5. 3. 31
副館長 (附属図書館評価委員長)	国文・教授	長 志珠絵	R3. 4. 1～R5. 3. 31
医学分館長	医・教授	中村 誠	R3. 4. 1～R5. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	若林 伸和	R3. 4. 1～R5. 3. 31
大学教育推進機構	教 授	石川 慎一郎	R4. 4. 1～R6. 3. 31
人文学研究科	教 授	市澤 哲	R3. 4. 1～R5. 3. 31
国際文化学研究科	教 授	小笠原 博毅	R3. 4. 1～R5. 3. 31
人間発達環境学研究科	教 授	山口 悦司	R4. 4. 1～R6. 3. 31
法学研究科	教 授	小田 直樹	R3. 4. 1～R5. 3. 31
経済学研究科	教 授	岩壺 健太郎	R4. 4. 1～R6. 3. 31
経営学研究科	教 授	梶原 武久	R4. 4. 1～R6. 3. 31
理学研究科	教 授	和田 昭英	R4. 4. 1～R6. 3. 31
保健学研究科	教 授	古和 久朋	R4. 4. 1～R6. 3. 31
工学研究科	教 授	西山 覚	R3. 4. 1～R5. 3. 31
システム情報学研究科	教 授	陰山 聡	R4. 4. 1～R6. 3. 31
農学研究科	教 授	坂本 克彦	R4. 4. 1～R6. 3. 31
国際協力研究科	教 授	土佐 弘之	R4. 4. 1～R6. 3. 31
科学技術イノベーション研究科	経営・教授	蔭山 広明	R4. 4. 1～R6. 3. 31
経済経営研究所	教 授	佐藤 隆広	R3. 4. 1～R5. 3. 31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	R4. 4. 1～R6. 3. 31
附属図書館	事務部長	鈴木 雅子	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職 名 (委員は全て官職指定)	氏 名	備 考
附属図書館長	櫻井 徹	
副館長	井上 典之	
副館長	藤嶽 暢英	
副館長	長 志珠絵	委員長
医学分館長	中村 誠	
海事科学分館長	若林 伸和	
事務部長	鈴木 雅子	
情報管理課長	矢野 真弓	
情報サービス課長	篠栗 伸一	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

令和4年10月1日現在

所 属	職 名	氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	櫻井 徹	室長
電子化部会	文・講師	吉川 圭太	R3. 4. 1～R5. 3. 31 (震災関連資料電子化)
	文・助教	有澤 知世	R4. 4. 1～R6. 3. 31 (国文学研究資料館古典籍データベース)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	R4. 4. 1～R6. 3. 31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館 担当専門職員	花崎佳代子	R3. 7. 1～R5. 6. 30
	図・情報管理課 課長補佐	菊池 一長	R4. 10. 1～R6. 9. 30
教育研究支援部会	大教・国際コミュニケーションセンター・教授	石川慎一郎	R3. 4. 1～R5. 3. 31
	国文・准教授	清光 英成	R4. 4. 1～R6. 3. 31
	国協・教授	木村 幹	R4. 4. 1～R6. 3. 31
	バリエーションスクール・准教授	祇園 景子	R4. 4. 1～R6. 3. 31
	図・情報サービス課課長補佐	笠原 夕美	R3. 7. 1～R5. 6. 30
	図・情報リテラシー係長	田中志瑞子	R3. 4. 1～R5. 3. 31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	R4. 4. 1～R6. 3. 31 (情報システム)

<附属図書館研究開発室 電子化部会震災関係資料小委員会委員名簿>

令和5年1月1日現在

所属	職名	氏 名	任期
委員長 人文学研究科	講師	吉川 圭太	※R3. 4. 1～R5. 3. 31
委員 附属図書館	専門職員	花崎 佳代子	※R3. 7. 1～R5. 6. 30
委員 附属図書館	課長補佐	菊池 一長	※R4. 10. 1～R6. 9. 30
専門委員 人文学研究科	特命助教	加藤 明恵	R5. 1. 1～R6. 12. 31
専門委員 人文学研究科	学術研究員	佐々木 和子	R5. 1. 1～R6. 12. 31

※研究開発室室員の任期とする

令和4年度 附属図書館決算

1. 既定経費 (単位:円)

事 項	令和4年度 予算配分額 (当初) (A)	令和4年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和4年度 予算配分総額 (C)	令和4年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要 適要欄()内 単位:千円
A. 経常運営費						
(1) 備品・消耗品費	5,100,000		5,100,000	5,901,857	△ 801,857	図書館用品(2,509)、蛍光灯類(746)、電算用品(606)、事務用品(420)、備品・什器類(397)、用紙類(170)、雑用品(802) パソコン:ノート2台(252)
(2) 事務用図書費	300,000		300,000	278,708	21,292	事務用図書、事務用雑誌
(3) 印刷製本費	150,000		150,000	105,369	44,631	利用案内等
(4) 光熱水料	26,058,000	27,517	26,085,517	23,263,299	2,822,218	【予算】令和4年度課外活動施設維持費配分(28) 【執行】電気料(18,542)、ガス料(3,196)、上下水道料(1,525)
(5) 通信運搬費	6,000,000		6,000,000	5,556,995	443,005	書籍等運送業務(3,198)、宅配便(1,532)、郵便料(526)、電話料(300)
(6) 借料及び損料	1,000,000		1,000,000	955,075	44,925	複写機保守費等
(7) 雑役務等諸経費	30,000,000	27,703	30,027,703	40,599,959	△ 10,572,256	清掃業務(8,487)、EV保守(5,586)、警備業務(5,016)、構地区設備保守(3,341)、特高保守(1,646)、機器修理(265)、空調保守修繕(361)、蔵書点検業務(993)、消防設備保守(774)、廃棄物処理(899)、電話交換保守(398)、諸会費(428)、建物修繕(2,788)、給水設備保守(57)、除草剪定(268)、空調フィルター清掃(351)、機器等保守(843)、建物等保守(462)、その他役務(566) 医学IF空調更新(3,666)、医学エレベーター改修工事(1,650)、自然木製家具解体(495)
(8) 非常勤職員給与等	71,000,000		71,000,000	70,329,071	670,929	非常勤職員人件費
(9) 電子計算機維持経費	210,000		210,000	210,000	0	情報基盤センター利用負担金
(10) 職員旅費	500,000	153,920	653,920	482,990	170,930	会議・研修会・講習会等旅費(309)、バス・地下鉄・私鉄カード(20)、赴任旅費(154)
(1)～(11)小 計	140,318,000	209,140	140,527,140	147,683,323	△ 7,156,183	
B. 経常事業費						
(1) 時間外開館経費	10,000,000		10,000,000	7,395,647	2,604,353	職員雇用、学生雇用
(2) 電子図書館事業	904,000		904,000	997,417	△ 93,417	研究開発室へ決算報告
人件費	5,000,000		5,000,000	4,633,498	366,502	
(3) その他事業費(展示会経費)	150,000		150,000	184,381	△ 34,381	資料展経費、図書館グッズ(クリアファイル・バッグ)
(4) 図書館資料費	71,064,000		71,064,000	66,013,107	5,050,893	
学生用資料費	40,000,000		40,000,000	35,276,053	4,723,947	
e-study資料費	4,664,000		4,664,000	4,664,110	△ 110	
震災文庫資料費	400,000		400,000	238,842	161,158	
外国雑誌センター館経費	26,000,000		26,000,000	25,834,102	165,898	
(5) 製本費	1,000,000		1,000,000	998,360	1,640	
(6) 附属図書館長裁量経費	20,000,000	20,544,500	40,544,500	40,518,552	25,948	【予算】学内預り金制度(20,000)、インセンティブ配分(825)、OA出版受益者負担(800) 大学文書史料室前年度繰越(-338) 【執行】 ・自然科学系図書館移転(集密書架)復路(12,118)、移転(什器)復路(22,330)、集密書架移設(1,650)、植栽追加・手摺設置(649)、除湿機取付(477)、電話機移設(201)、複写機移設(44)、照明制御改修(105)、入退館システム再設置(748)、度し作業(482) ・海軍ネーミングライツ式典(147) ・社会科学系図書館書籍移動作業(1,540)
(7) 研究科長等運営経費返却分	400,000		400,000	400,000	0	平成30年度目録検索用端末更新(chromebox)借入(2,000) (令和元年度～令和5年度返済 ※400千円×5年)
(1)～(7)小 計	108,518,000	20,544,500	129,062,500	121,140,962	7,921,538	
運営費＋事業費	248,836,000	20,753,640	269,589,640	268,824,285	765,355	
C. 大学文書史料室						
運営経費	6,117,000	338,000	6,455,000	6,232,842	222,158	【予算】前年度繰越(338)、自然系図書館改修負担金等(-782) 令和5年度繰越(222)
D. 出版会						
管理運営経費		2,983,214	2,983,214	2,829,047	154,167	【予算・収入】前年度繰越(1,116)、収入(1,867)、自然系図書館改修負担金等(-500) 令和5年度繰越(150)
附属図書館＋大学文書史料室＋神戸大学出版会 既定経費 計	254,953,000	24,074,854	279,027,854	277,886,174	1,141,680	

2. 収入確保インセンティブ経費等から繰入

事 項	令和4年度 予算配分額 (当初) (A)	令和4年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和4年度 予算配分総額 (C)	令和4年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
E. 収入確保インセンティブ経費等		7,494,477	7,494,477		7,494,477	【予算】前年度繰越(1,227)、ILL等収入(4,724)、複写機使用料等(1,547)
(1) 建物老朽劣化対策経費		△ 4,462,280	△ 4,462,280	0	△ 4,462,280	施設部予算へ(4,462)
(2) ILL管理運営経費			0	1,555,836	△ 1,555,836	文献複写等 他大学へ依頼分(1,556)
(3) 複写機使用料 管理運営経費		0	0	1,476,361	△ 1,476,361	
収入確保インセンティブ経費等 小計	0	3,032,197	3,032,197	3,032,197	0	
1. 既定経費＋2. 収入確保インセンティブ経費等 総 計	254,953,000	27,107,051	282,060,051	280,918,371	1,141,680	令和5年度繰越額

3. 臨時的経費等(参考)

事 項	令和4年度 予算配分額 (当初) (A)	令和4年度 予算配分額 (追加等) (B)	令和4年度 予算配分総額 (C)	令和4年度 執行額 (D)	残額 (C-D)	摘 要
F. 電算機借料						
情報化推進経費(図書館システム)	45,412,000		45,412,000	44,829,400	582,600	令和4年度図書館システム更新
次期図書館システムネットワーク整備	4,873,000	0	4,873,000	4,528,069	344,931	令和4年度図書館システム更新によるネットワーク整備
小 計	50,285,000	0	50,285,000	49,357,469	927,531	
G. 臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	374,412,576	8,697,753	383,110,329	383,110,329	0	SciFinder受益者負担金(870)
図書館時間外開館経費	6,533,000	0	6,533,000	6,353,515	179,485	
神戸大学出版会事業	361,000	0	361,000	361,000	0	出版事業、出版会事務経費、図書館総合展(179)
光熱費(追加配分)	—	1,940,000	1,940,000	1,940,000	0	電気料
管理運営経費(防災管理点検)	—	46,200	46,200	46,200	0	防災管理点検
施設整備費補助金(ライフライン(給排)施設整備)	—	19,166,451	19,166,451	19,166,451	0	電気設備工事(2,018)、排水設備等工事(16,772)、屋外配管他撤去工事(376)
環境・安全推進事業 屋外配管調査業務(六甲台1)	—	1,480,327	1,480,327	1,480,327	0	電気設備工事(1,322)、屋外配管調査業務(159)
施設整備費補助金(災害復旧事業)	—	237,362	237,362	237,362	0	電気設備工事
自然科学系図書館改修						
移転費	8,382,000	0	8,382,000	8,382,000	0	書架修設作業
建物新當設備費	20,843,000	0	20,843,000	20,843,000	0	什器・設備類
設備整備事業経費	20,269,000	0	20,269,000	20,247,188	21,812	什器類
施設整備費補助金(附帯設備)	—	447,030,000	447,030,000	447,030,000	0	改修工事
社会科学系図書館	—	6,743,800	6,743,800	6,743,800	0	監視カメラシステム(1,515)、ブラインド等(5,229)
学内宮繕・環境対策経費	—	18,660,000	18,660,000	18,660,000	0	管理棟外壁改修工事
施設営繕事業	—	51,535,620	51,535,620	51,535,620	0	書庫A棟照明設備改修工事(9,229) 管理棟外壁改修工事(42,307)
小 計	389,688,576	555,537,513	986,338,089	986,136,792	201,297	
1. 既定経費＋2. 収入確保インセンティブ経費等＋ F. 電算機借料＋G. 臨時的経費 計	694,926,576	582,644,564	1,318,683,140	1,316,412,632	2,270,508	
H. 外部資金						
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	9,175,093	0	9,175,093	9,175,093	0	新聞記事文庫 テキストデータ作成作業(5,934)、人件費(3,241)
国文学研究資料館(資料修復費)	—	94,920	94,920	94,920	0	
葉子基金	506,384	100,000	606,384	40,440	565,944	歴史的典籍NWN事業 撮影契約等は 国文学研究資料館が実施
神戸大学出版会出版基金	47,500	0	47,500	0	47,500	山口文庫関連書籍購入費、残額は令和5年度繰越
神戸大学出版会出版事業助成金(KTC)	980,000	0	980,000	980,000	0	令和5年度繰越
120年史編集刊行事業	—	4,500,000	4,500,000	4,340,932	159,068	出版制作委託業務
国立大学図書館協会地区事業助成金	2,708	12,000	14,708	8,195	6,513	消耗品等(920)、人件費(3,421) フォーラム開催費
小 計	10,708,977	4,706,920	10,903,897	14,639,580	779,025	
臨時的経費等 計	450,682,553	560,244,433	1,047,526,986	1,050,133,841	1,907,853	

令和4年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館 室 名	学生用資料				震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	e-study 事業費	** その他	*** 教育研究基盤 資料整備費	計 ****
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊数						
総合図書館	6,339	5,314	1,025	1,793			4,664		374,412	384,391
社会科学系図書館	7,406	7,896	-490	2,055	238	25,834		9		33,977
自然科学系図書館	8,404	6,366	2,038	901						6,366
人文科学図書館	2,392	2,336	56	373						2,336
国際文化学図書館	2,482	1,439	1,043	153						1,439
人間科学図書館	2,926	2,875	51	522						2,875
経済経営研究所図書館	408	406	2	18						406
医学分館	3,926	3,642	284	552						3,642
保健科学図書室	2,468	2,254	214	308						2,254
海事科学分館	3,249	2,744	505	697						2,744
小 計	40,000	35,276	4,723	7,372	238	25,834	4,664	9	374,412	440,433

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 電子図書館事業費の複写費

注*** 電子ジャーナル経費

注**** これ以外に、電子コンテンツ作成費 12,402千円がある

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	412	415	828
社会科学系図書館	85,761	7,223	92,985
自然科学系図書館	343	20,681	21,024
人文科学図書館	10,365	3,551	13,916
国際文化学図書館	3,131	1,928	5,059
人間科学図書館	4,413	4,214	8,627
経済経営研究所図書館	13,396	34	13,431
医学分館	36,471	2,517	38,988
保健科学図書室	4,499	217	4,716
海事科学分館	4,444	634	5,078
計	163,240	41,417	204,657

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他 *	計
総合図書館	28	0	0	8,750	8,779
社会科学系図書館	18,751	2,487	3,476	1,756	26,472
自然科学系図書館	16,855	1,082	2,146	228	20,314
人文科学図書館	14,817	484	2,034	1,498	18,833
国際文化学図書館	2,791	18	128	85	3,023
人間科学図書館	7,452	18	204	962	8,637
経済経営研究所図書館	145	0	0	71	216
医学分館	142	2,969	566	109	3,788
保健科学図書室	157	0	0	180	337
海事科学分館	986	594	89	117	1,788
計	62,129	7,655	8,647	13,760	92,192

単位:千円

合計
393,998
153,434
47,704
35,087
9,522
20,140
14,054
46,420
7,309
9,611
737,283

* 千円未満切捨のため、合計等は一致しません

2022（令和4）年度 附属図書館活動日誌

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面会議やイベントの中止や変更があった

＜4月＞	【開催せず】附属図書館令和4年度着任式
1（金）～28日	図書館セルフツアー ＜於：総合・国際文化学図書館、保健科学図書＞
1（金）～5月31日	図書館セルフツアー ＜於：社会系図書館＞
1（金）～6月10日	図書館セルフツアー ＜於：海事科学分館、研究所図書館＞
4（月）	国際文化学研究科新入生ガイダンス ＜於：国際文化学研究科学舎 F301 教室 説明：リテラー係長＞
4（月）～28日	図書館セルフツアー ＜於：医学分館＞
4（月）～6月10日	図書館セルフツアー ＜於：人文科学図書館＞
5（火）	入学式 【オンライン】国際人間科学部新入生ガイダンス ＜説明：リテラー係員＞ 医学部保健学科新入生ガイダンス ＜説明：保健サービス係＞ 保健学研究科新入生ガイダンス ＜説明：保健サービス係＞ 医学部2年次進学ガイダンス ＜説明：医学サービス係＞
7（木）	次期図書館システム検討WG ＜於：社系図書館会議室＞
8（金）	ベルカンによる新入生対象図書館ツアー＜於：社系図書館＞
11（月）～5月31日	図書館セルフツアー ＜於：人間科学図書館＞
12（火）	総合教養科目「阪神・淡路大震災」震災文庫ガイダンス ＜於：K202 教室 説明：係員1名＞
13（水）	アウトリーチWG ＜於：社会科学系図書館会議室＞
14（木）	【オンライン】サービス課連絡会議
15（金）	理学部生物学科安全講習会 ＜於：情報基盤センター分館第1演習室 説明：係員（自然）1名、リテラー係員＞ 経済学部初年次セミナー ＜説明：社系サービス係＞ ホターガイダンス（保健） ＜於：名谷キャンパスC棟大会議室 説明：係員（保健）1名、リテラー係長＞
18（月）	理学部化学科初年次セミナー ＜説明：自然サービス係、リテラー係＞ 【オンライン】国立大学図書館協会近畿地区総会 ＜出席：館長、部長、情報サービス課長＞
19（火）	ホターガイダンス（法学） ＜説明：リテラー係＞ ホターガイダンス（人間発達） ＜説明：係員（人間）1名、リテラー係員＞
20（月）～22日	兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修 ＜出席：係員1名＞
21（火）	ホターガイダンス（保健） ＜於：名谷キャンパスC棟大会議室 説明：係員（保健）1名、リテラー係長＞
22（金）	ホターガイダンス（法学） ＜説明：社系サービス係＞ 国際人間 グローバル文化学科初年次セミナー ＜説明：国文サービス係、リテラー係＞ 国際人間 環境共生学科初年次セミナー ＜説明：人間サービス係＞ 工学部応用化学科初年次セミナー ＜説明：自然サービス係＞ 経済学部初年次セミナー ＜説明：社系サービス係＞ 海洋政策科学部初年次セミナー ＜説明：海事サービス係＞
25（月）	法学部初年次セミナー① ＜説明：社系サービス係、リテラー係＞ 法学部初年次セミナー② ＜説明：社系サービス係＞
25（月）～5月6日	社会科学系図書館 第1回図書委員会（メール回議）
26（火）	ホターガイダンス（国際協力）

	＜於：社系図書館 LC 説明：社系サービス係、リテラシー係＞
28 (木)	【オンライン】近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会 ＜出席：部長、情報管理課長＞
< 5 月 >	
2 (月)	国際人間 グローバル文化学科初年次セミナー ＜説明：国文サービス係、リテラシー係＞
6 (金)	国際人間 グローバル文化学科初年次セミナー ＜説明：国文サービス係、リテラシー係＞
	国際人間 発達コミュニケーション学科初年次セミナー ＜説明：人間サービス係＞
9 (月)	法学部初年次セミナー ＜説明：社系サービス係、リテラシー係＞
12 (木)	【オンライン】サービス課連絡会議 ホターガイダンス（人間発達環境学研究科） ＜於：鶴甲第2キャンパス 説明：人間サービス係、リテラシー係＞
12 (木) ～ 19 (木)	第1回附属図書館研究開発室会議電子化部会（メール回議）
13 (金)	国際人間 グローバル文化学科初年次セミナー ＜説明：リテラシー係＞
	国際人間 子ども教育学科初年次セミナー ＜説明：人間サービス係＞
16 (月) ～ 19 (木)	情報基礎・第5回「情報の活用」オンデマンド型授業 ＜説明：情報リテラシー教育支援 WG＞
16 (月)	社会系図書館 LC 試行開始
17 (火)	【オンライン】日本古典籍研究国際コンソーシアム代表委員会議＜出席：係長1名＞
18 (水)	海事科学分館 第1回図書委員会＜於：事務棟第一会議室＞
19 (木)	ホターガイダンス（理学） ＜於：情報基盤センター分館第1演習室 説明：リテラシー係＞
	神戸大学出版会関係者と神戸新聞総合出版センターとの打合せ ＜於：本部事務局4階応接室、 出席：部長、管理課長、管理課補佐、係長1名、係員1名＞
20 (金)	【オンライン】兵庫県大学図書館協議会役員会・企画委員会合同会議 ＜出席：部課長、管理課補佐、企画係長＞
24 (火)	医学分館 第1回図書委員会＜於：楠キャンパス研究棟B 共同会議室＞
25 (水)	【オンライン】人文科学図書館 第1回図書委員会
27 (金)	第1回研究データ管理 WG ＜於：社会系図書館会議室＞ カンテレビジョンと震災文庫に関する打合せ ＜於：社会系図書館会議室 出席：情報管理課課長補佐、震災文庫担当専門職員、係員1名＞
27 (金) ～ 6月2日	第1回神戸大学出版会出版運営委員会（メール回議）
29 (日)	保護者説明会図書館見学 ＜於：医学分館、対応：係長1名＞
30 (月)	人事ヒアリング＜於：事務局6階中会議室＞ 【オンライン】クラレバトとの打合せ、Wos 新機能説明会 ＜参加：リテラシー WG＞ 【オンライン】第93回日本医学図書館協会総会分科会 ＜参加：係長1名、係員1名＞
< 6 月 >	
2 (木)	システム更新 WG ＜於：社会系図書館会議室、オンライン＞ 【オンライン】「NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2022」 大学における研究データガイダンス ＜参加：係長1名＞
3 (金)	カンテレ 震災取材映像追加公開 【オンライン】JPCOAR コンテンツ流通作業部会第1回作業部会 ＜出席：係員1名＞

6 (月)	【オンライン】保健科学図書室 第1回図書委員会
6 (月) ~ 10 (金)	トライやるウェーク (筒井台中学校) 2022年度漢籍整理長期研修 ＜於：東京大学東洋文化研究所 参加：係員1名＞
7 (火)	法学 (増島先生) オナーカンファレンス ＜於：フロンティア館403・社会系図書館 説明：リテラー係＞
8 (水) ~ 15 (水)	国際文化学図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
9 (木)	【オンライン】サビース課連絡会議
9 (木) ~ 15 (水)	海事科学分館 第2回図書委員会 (メール回議)
10 (金)	【オンライン】JOSS2022 機関リポジトリでの研究データ公開に向けた グループディスカッション ＜参加：係長1名＞ 【オンライン】これから委員会第8回システムワークフロー検作業部会＜出席：係員1名＞ 【オンライン】国大図協システム委員会 ＜出席：部長＞
14 (火)	【オンライン】経営 (黄先生) オナーカンファレンス ＜説明：リテラー係＞
16 (木)	第5回EDIX (教育総合展) 関西 ＜於：インテックス大阪 参加：係長1名、係員2名＞
17 (金)	第1回情報リテラー教育支援WG ＜於：鶴甲第1キャンパスA棟4階中会議室＞
18 (土)	神戸大学育友会見学 ＜於：人文図書館、対応：係員1名＞
19 (日)	電気設備定期点検に伴う停電 ＜於：鶴二キャンパスを除く六甲台地区全域＞
20 (月)	【オンライン】第123回日本医学図書館協会近畿地区会例会＜出席：係長1名＞
21 (火)	【オンライン】総合教養科目「阪神・淡路大震災A」震災文庫カンファレンス ＜説明：係員1名＞ 【オンライン】SciFinder-n 講習会 ＜説明：化学情報協会＞
22 (水)	【オンライン】自然科学系図書館 第1回図書委員会
23 (木)	【オンライン】SciFinder-n 講習会 ＜説明：化学情報協会＞ 【オンライン】第69回国立大学図書館協会総会 【オンライン】国立大学図書館協会R4年度第1回理事会
23 (木) ~ 29 (水)	経済経営研究所図書館 第1回図書委員会 (メール回議)
27 (月)	第2回研究データ管理WG ＜於：館長室、オンライン＞
28 (火)	【オンライン】CiNii Research 講習会 ＜説明：リテラー係＞ 【オンライン】人間科学図書館 第1回図書委員会 【オンライン】第1回大学図書館近畿仁シティブ運営委員会
29 (水)	【オンライン】第1回館長・副館長・分館長懇談会 【オンライン】eol 講習会 ＜説明：アイ・エヌ情報センター＞
30 (木)	システム更新WG ＜於：社会系図書館会議室、オンライン＞ 【オンライン】CiNii Research 講習会 ＜説明：リテラー係＞ 【オンライン】日本古典籍研究国際コンソーシアム第5回代表委員会 ＜出席：係長1名＞

< 7月 >

1 (金)	発達 (安達先生) オナーカンファレンス ＜於：鶴甲第2キャンパスA棟303 説明：リテラー係＞
4 (月) ~ 15 (金)	【オンライン】大学図書館職員長期研修 ＜受講：係長1名＞
6 (水)	【オンライン】人文科学図書館 第2回図書委員会
8 (金)	【オンライン】第1回選書WG

1 1 (月)	【オンライン】国大図協 OS 小委員会 <出席：部長>
1 2 (火)	資金管理に関する内部監査 <於：人間科学図書館> 【オンライン】経済経営研究所図書館 第2回図書委員会
1 2 (火) ～ 1 5 (金)	【オンライン】第20回日本古典籍講習会 <受講：補佐員1名>
1 3 (水) ～ 1 4 (木)	令和4年度神戸大学係長相当職研修 <於：理学研究科Z棟201・202教室 参加：係長3名、係員1名>
1 4 (木)	【オンライン】サービス課連絡会議
1 5 (金)	【オンライン】第1回附属図書館運営委員会
2 0 (水)	第3回研究データ管理検討WG 【オンライン】JUSTICE電子資料契約実務研修 <部長、係長1名、係員3名>
2 1 (木) ～ 2 2 (金)	【オンライン】新図書館システム操作説明会
2 5 (月)	第1回展示WG <於：社会系図書館会議室>
2 6 (火)	近畿地区国立大学法人等職員統一試験機関訪問説明会<於：六甲ホール>
2 7 (水)	第1回神戸大学出版会出版委員会 <於：理事室、オンライン> 【オンライン】医学分館 第2回図書委員会
2 7 (水) ～ 8 月 1 日	自然科学系図書館 第2回図書委員会（メール回議）
2 9 (金)	【オンライン】第121回兵庫県大学図書館協議会総会
3 0 (土)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験 <於：京都大学附属図書館 要員：部課長>

< 8 月 >

2 (火)	オーダーカードダンス（保健） <於：総合・国文図書館 LC 説明：リテラシー係>
2 (火) ～ 3 (水)	近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験（二次） <於：社会科学系図書館 6F 会議室>
4 (木)	【オンライン】サービス課連絡会議
5 (金)	次期図書館システム更新WG
8 (月) ～ 3 1 (水)	第1回附属図書館評価委員会（メール審議）
1 0 (水)	【オンライン】人文科学図書館 第3回図書委員会
1 2 (金) ～ 1 6 (火)	令和4年度一斉休業 ※図書館は全館室閉館
2 2 (月) ～ 2 8 (日)	図書館システム更新によるシステム停止（閲覧・ILL 以外）
2 3 (火) ～ 2 4 (水)	消防設備点検 <於：社会系図書館>
2 5 (木)	【オンライン】第11回月刊 JPCOAR「オープンアクセス新任担当者相談会」 <講師：部長、参加：係員1名>
2 6 (金) ～ 2 8 (日)	図書館システム更新によるシステム停止（閲覧・ILL）
2 9 (月)	図書館システムサービスイン 消防設備点検 <於：社会系図書館>
2 9 (月) ～ 3 0 (火)	【オンライン】近畿仁愛アイティ初任者研修 <参加：係員2名>

< 9 月 >

1 (木) ～ 8 (木)	保健科学図書室 第2回図書委員会（メール回議）
5 (月) ～ 9 (金)	2022年度漢籍整理長期研修（於：東京大学東洋文化研究所） <受講：係員1名>
6 (火)	学内会計監査（海事分館） 【オンライン】令和4年度目録システム書誌作成研修 <受講：係員1名>

7 (水)	【オンライン】人文科学図書館 第4回図書委員会
7 (水)～8 (木)	【オンライン】大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 版元提案説明会 ＜参加：雑誌担当係長＞
8 (木)	【オンライン】サービス課連絡会議
1 (火)～4 (金)	第1回附属図書館評価委員会 (メール審議)
8 (木)～9 (金)	神戸大学若手職員研修 ＜於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 受講：係員1名＞
8 (月)～26 (月)	第2回附属図書館運営委員会 (メール審議)
9 (金)	外国雑誌センター館会議意見交換会 【オンライン】第11回大学図書館学生協働交流シンポジウム ＜参加：係員2名＞
13 (火)	第2回展示 WG 【オンライン】令和4年度目録システム書誌作成研修 ＜受講：係員1名＞
15 (木)	学内会計監査 ＜於：医学分館＞
16 (金)～28 (水)	人文科学図書館 第5回図書委員会 (メール回議)
21 (水)	学内会計監査 ＜於：総合・国文図書館＞
21 (水)～27 (火)	海事科学分館 第3回図書委員会 (メール回議)
22 (木)	学位記授与式
26 (月)	国大図協システム委員会 ＜出席：部長＞
26 (月)～30 (金)	人間科学図書館 第3回図書委員会 (メール回議)
26 (月)～10月3日	国際文化学図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
27 (火)	学内会計監査 (於：社会系図書館) オーダーカーディナンス (保健) ＜於：総合・国文図書館 LC 説明：リテラシー係＞ 【オンライン】医学分館 第3回図書委員会 (メール回議)
28 (水)	国大図協シンポジウム ＜於：東京大学、オンライン 登壇：部長、 参加：課長2名、係長2名、係員3名＞
28 (水)～29 (木)	図書館等職員著作権実務講習会 ＜於：京都大学、受講：係員1名＞
28 (水)～10月17日	社会科学系図書館 第2回図書委員会 (メール回議)
29 (木)	第2回情報リテラシー教育支援 WG ＜於：鶴甲第一キャンパス E 棟 4 階大会議室＞
30 (金)	【オンライン】図書館に向けた図書館公衆送信サービス説明会 1 回目 ＜出席：係員1名＞
< 10月 >	
3 (月)～7 (金)	漢籍担当職員講習会 (初級) ＜於：京都大学東アジア人文情報センター 受講：係員1名＞
3 (月)～31 (月)	非常時参集訓練 ＜於：総合・国文図、社会系図、人文図、海事図 参加：8名＞
4 (火)	【オンライン】サービス課連絡会議
7 (水)	【オンライン】第1回国立情報学研究所図書館系サービス作業部会 ＜出席：係長1名＞ 令和5年度新規採用者見学 ＜於：社会科学系図書館＞
8 (土)	電気設備点検に伴う一斉停電のため人間科学図書館臨時休館
12 (水)	大学経営人材育成セミナー① ＜於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室受講：係長1名＞ 【オンライン】国立大学図書館協会セミナー

- ＜参加：情報管理課課長補佐1名＞
- 13（木）～14（金） 海事科学分館 第4回図書委員会（メール回議）
- 14（金）～17（月） 医学分館 第4回図書委員会（メール回議）
- 14（金）～11月10（木） 資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」（前期） ＜於：社会科学図書館＞
- 15（土） 広報課キャンパスツアー ＜於：社会科学系図書館＞
- 18（火） 【オンライン】図書館公衆送信サービス説明会 ＜参加：部長＞
- 18（火）～21（金） 【オンライン】大学図書館職員短期研修
- ＜受講：係員1名、講師派遣：係員1名＞
- 18（火）～24（月） 自然科学系図書館 第3回図書委員会（メール回議）
- 20（木） Web of Science オンライン講習会（初級編） ＜講師：情報リテラシー係＞
- 21（金） 資金管理に関する内部監査 ＜於：保健科学図書室＞
- 神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム（KUPI）受講生見学
- ＜於：社会科学図書館＞
- 24（月） 大学経営人材育成セミナー②
- ＜於：理学研究科Z棟201・202教室 受講：係長1名＞
- 25（火） 国際人間科学部（松本先生）オーダーガイダンス
- ＜於：総合・国際文化学図書館 説明：リテラシー係＞
- 【オンライン】東海北陸地区研修会「知ろう学ぼう考えよう～大学図書館の研究データ管理・公開支援～」 ＜参加：部長、係長1名、係員1名＞
- 26（水） 【オンライン】西洋社会科学古典資料セミナー ＜出席：係員2名＞
- 27（木） 【オンライン】CAT/ILL リプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会
- ＜参加：係長1名、係員2名＞
- 【オンライン】Web of Science オンライン講習会（中級編） ＜外部講師＞
- 29（土） 第16回神戸大学ホームカミングデイ
- ＜於：社会科学系図書館
- 来館者応対：管理課長、管理課補佐、情報リテラシー係＞
- 31（月） 【オンライン】第2回館長・副館長・分館長懇談会
- <11月>**
- 1（火） 【オンライン】サービス課連絡会議
- 1（火）～30（水） 【オンライン】図書館総合展「図書館×DX＝新しい図書館の実践」
- ＜参加：係員1名＞
- 2（水） 【オンライン】海洋政策科学部（岩田先生）オーダーガイダンス
- ＜説明：リテラシー係＞
- 4（金） 全学防災訓練
- 選書ツアー ＜於：ジュンク堂書店三宮店 随行者：係長1名、係員5名＞
- 5（土） 広報課キャンパスツアー ＜於：社会科学系図書館＞
- 7（月）～11（金） 上野中学トライやるウィーク ＜於：社会科学系図書館 来館：2名＞
- 御影中学トライやるウィーク ＜於：人文科学系図書館 来館：2名＞
- 漢籍担当職員講習会（中級）
- ＜於：京都大学東アジア人文情報センター 受講：係員1名＞
- 8（火） 【オンライン】第3回附属図書館運営委員会
- 9（水） 大学経営人材育成セミナー③
- ＜於：理学研究科Z棟201・202教室 受講：係長1名＞
- 10（木） 【オンライン】国立国会図書館レファレンスサービス研修

- 「経済社会情報の調べ方」＜参加：係員 1 名＞
- 10（木）～11月14日 人文科学図書館 第6回図書委員会（メール回議）
- 11（金） 施設部との意見交換（キャラバン）
 ＜於：社会科学系図書館会議室＞
 出席：館長、部長、管理課長、情報サービス課長、管理課補佐、管理係長＞
 【オンライン】第12回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る
 情報交換会 ＜挨拶：館長 出席：部長、管理課長、
 管理課課長補佐、係員 1 名、震災文庫担当 1 名＞
- 12（土） 豊見城高校、興南高校生徒による見学 ＜於：総合・国際文化学図書館＞
- 14（月） 【オンライン】図書館総合展「学術機関におけるデータキュレーション
 サービスの検討」 ＜参加：部長＞
 【オンライン】図書館総合展「機関における研究データ公開サービスへの
 期待と展望」 ＜参加：係長 1 名、講師派遣：部長、係長 1 名＞
 【オンライン】オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会
 （第6回）＜傍聴：部長、係員 1 名＞
- 15（火） 【オンライン】図書館総合展「みんなで考えよう、これからの学術情報
 システムで実現を目指すこと」 ＜参加：係長 1 名、係長 1 名＞
 【オンライン】図書館総合展「水戸芸術館のアート事例から学ぶ知的財産」
 ＜参加：係員 1 名＞
 【オンライン】ダイバーシティフォーラム「ジェンダー・性・セクシュアリティが
 尊重される社会をえがく—私たちの課題と展望—」
 ＜参加：課長 1 名＞
- 16（水） 【オンライン】図書館総合展「CAT/ILL リプレイス&電子リソースデータ共有
 サービス説明会」 ＜参加：係長 1 名、係員 1 名＞
 【オンライン】図書館総合展「学術情報発見サービスの表と裏」
 ＜参加：係長 1 名、係員 1 名＞
- 16（水）～12月20日 資料展「古典籍でみる鎖国下の漂流」（後期） ＜於：社会科学図書館＞
- 17（木） 【オンライン】国立大学図書館協会 R4 年度秋季理事会
 【オンライン】図書館が「30 分でおさらい！論文検索きほんのき」
 ＜説明：リテラー係＞
- 18（金） 【オンライン】目録システム書誌作成研修 ＜係員 1 名＞
 【オンライン】図書館総合展「機関リポジトリで実現する書誌多様性」
 ＜参加：係長 1 名＞
 【オンライン】図書館総合展「オープンアクセス・オープンサイエンスは
 図書館をどう変えるのか」 ＜参加：課長補佐 1 名、係員 1 名＞
- 22（火） 【オンライン】図書館総合展「図書館員向けカビ対策セミナー工場編」
 ＜参加：係長 1 名＞
 監事と部局長等との懇談
 ＜於：社会科学系図書館会議室＞
 出席：館長、部長、課長、課長補佐＞
 監事と若手事務職員との懇談
 ＜於：社会科学系図書館会議室 出席：係員 4 名＞
- 24（木） 国際人間科学部（工藤先生）オーダーメイド
 ＜於：総合・国際文化学図書館 LC 説明：リテラー係＞
- 25（金） 【オンライン】図書館総合展「JPCOAR2021：これからのオープンアクセスと

	JPCOAR を考える」 <参加：部長>
28 (月)	大学経営人材育成セミナー④ <於：理学研究科 Z 棟 201・202 教室 受講：係長 1 名> 【オンライン】国大図協 OS 小委員会「研究データポリシー策定のためのワークショップ」 <参加：部長、係長 1 名>
29 (火)	第 2 回研究データ管理 WG <於：館長室、オンライン> 第 2 回神戸大学出版会出版委員会 <於：理事室、オンライン>
29 (火) ～ 30 (水)	蔵書点検 <於：経済経営研究所図書館>
30 (水)	広報業務研修会「写真撮影」 <於：瀧川記念学術交流会館 参加：係員 1 名>
< 12 月 >	
2 (金)	【オンライン】「地区協会助成事業成果共有会：地区協会助成事業のこれまでとこれから」 <発表：係員 1 名、参加：部長、係長 1 名>
6 (火)	【オンライン】サビス課連絡会議
7 (水)	兵庫県立相生高等学校・兵庫県立姫路南高等学校見学 <於：社会科学系図書館> 【オンライン】2022 年度大学図書館シンポジウム「図書館等公衆送信サービス関係者協議会における協議状況報告」 <出席：情報サビス課長、係長 1 名> 「研究データ管理 (RDM) 説明会 2022 in 大阪」 <於：グランフロント大阪 参加：係員 1 名>
8 (木)	六甲台 1 団地 6 部局合同・自衛消防訓練 <於：経済学研究科本館> 「神戸大学卒業 65 周年さんさん会」 <於：神戸大学大阪クラブ 講演：大学文書史料室長補佐> 【オンライン】「2022 年度 JUSTICE 転換契約に関する勉強会」 <参加：係長 1 名>
9 (金)	【オンライン】第 4 回人間科学図書館図書委員会 【オンライン】第 6 回 JMLA 学術集会 <受講：課長補佐 1 名、係員 1 名>
12 (月)	国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 <於：大阪教育大学、オンライン 参加：部長、課長 2 名>
14 (水)	資金管理に関する内部監査 <於：総合・国際文化学図書館、海事科学分館>
15 (木)	広報業務研修会「インタビュー・取材の仕方/文章の書き方」 <於：瀧川記念学術交流会館 参加：係員 1 名> 【オンライン】(JMLA)診療ガイドライン文献検索ワークショップ <参加：係員 1 名> 幹部職員セミナー <参加：部長、情報サビス課長>
16 (金) ～ 23 (金)	国際文化学図書館 第 3 回図書委員会 (メール回議)
17 (土)	深江キャンパス計画停電実施のため海事科学分館臨時休館
20 (火)	【オンライン】第 15 回月刊 JPCOAR「オープンアクセス新任担当者相談会」 <参加：係員 1 名>
22 (木)	国際文化学研究推進インスティテュート地域連携センター発足記念セミナー 「観光とまちづくり：京都・美山」 <於：総合・国際文化学図書館 LC 参加：14 名>
23 (金)	【オンライン】国大図協 OS 小委員会「GakuNin RDM に触れてみる会」 <参加：課長補佐 1 名>

26 (月)	【オンライン】オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会 ＜出席：部長＞
27 (火)	【オンライン】サービス課連絡会議
<1月>	
10 (火)	第1回研究データ管理WG ＜於：社会系図書館会議室＞
11 (水)	【オンライン】国立大学図書館協会東北地区協会「ストレスマネジメント：結果につなげるマインドフルネス」＜参加：係長1名、係員1名＞
12 (木)～31 (火)	震災リバイバル展示 ＜於：社会系図書館会議室＞
12 (木)	第1回研究データ管理・公開ポリシー実施検討WG＜於：本部特別会議室＞ ＜出席：部長＞
13 (金)	自衛消防・防災訓練 ＜於：保健科学図書室＞ 大学入試共通テストに伴い13時で臨時閉館（保健科学図書室） 大学入試共通テストに伴い17時で臨時閉館（研究所、医学、保健を除く）
14 (土)～15 (日)	大学入試共通テストに伴い臨時休館（社会科学系図書館）
18 (水)	第1回ロールモデル交流会女性研究者と話そう～自然科学系編～ ＜於：眺望館1F V.School 教室、参加：係長1名＞
20 (木)	研究データWG(サブチーム)の打合せ ＜於：館長室＞
23 (月)	【オンライン】第3回館長・副館長・分館長懇談会 資金管理に関する内部監査 ＜於：人文科学図書館＞
24 (火)	自衛消防・防災訓練 ＜於：大学文書史料室＞
24 (火)～30 (月)	人間科学図書館 第5回図書委員会（メール回議）
25 (水)	自衛消防・防災訓練 ＜於：大学文書史料室＞ 【オンライン】「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」（第8回）＜参加：部長＞ 大雪による交通機関運休のため臨時休館
27 (金)	【オンライン】令和4年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業フォーラム 「ILL/DD サービス2.0へ向けて」 ＜主担当：神戸大学附属図書館、申込：235名、最大接続：205＞
27 (金)～2月2 (木)	医学分館 第5回図書委員会（メール回議）
30 (月)	【オンライン】ULiCSと神戸松蔭女子学院大学図書館サポーターの交流会
31 (火)	【オンライン】第4回附属図書館運営委員会
<2月>	
1 (水)	自衛消防・防災訓練 ＜於：研究所図書館＞ 【オンライン】「データジャーナルとはどんなものなのか南山さんに教えてもらう会」＜参加：部長、係長1名＞
1 (水)～14 (火)	国大図協近畿地区協会助成事業 パネル展示「100人の大学図書館員展」 ＜於：社会科学図書館＞
2 (木)	【オンライン】近畿仁シティブ中級研修「日本目録規則2018年版：新NACSIS-CATへの適用を見据えて」＜参加：係員3名＞
3 (木)	学内ヒアリング＜於：事務局6階大会議室＞
6 (月)	120年史部局史打合せ ＜於：館長室＞
7 (火)	ネーミングライツ施設開設記念式典 ＜於：海事科学分館 出席：館長、海事科学分館長＞

	【オンライン】シュプリンガーネイチャー転換契約 10 大学情報交換会
7 (火)	卒業生・放送大学生・EU 研究修了証プログラム登録者の入館・貸出を再開
8 (水)	【オンライン】サービス課連絡会議
8 (水) ～ 15 (水)	医学分館 第 6 回図書委員会 (メール回議)
9 (木)	【オンライン】令和 4 年度国立大学図書館協会東海北陸地区協会助成事業研修会 ＜登壇：課長補佐 1 名＞
	【オンライン】近畿仁愛ティブ中級研修「図書館でできるライティング支援」 ＜参加：係員 1 名＞
10 (金)	トークイベント「トショカンインの時間」 ＜於：大阪大学総合図書館 出席：部長、課長 1 名、係員 3 名＞
13 (月)	第 6 回研究データ管理 WG ＜於：館長室、オンライン＞
14 (火)	自衛消防・防災訓練 ＜於：人文科学図書館＞ 【オンライン】令和 4 年度大阪大学職員研修「オープンサイエンス時代の研究データ管理支援と求められる人材の育成」＜参加：課長補佐 1 名＞
15 (水)	【オンライン】学術コミュニケーション技術セミナー (JPCOAR Monday) B ＜登壇：部長、係長 1 名＞
17 (金)	【オンライン】SPARC Japan セミナー「電子ジャーナルの転換契約と APC 問題で変わるオープンアクセスの現状と課題」＜参加：課長補佐 1 名＞ 【オンライン】令和 4 年度国立大学図書館協会関東甲信越地区協会助成事業研修会 ＜参加：係長 1 名、係員 1 名＞ 第 2 回 NII セミナー ＜於：NII 参加：部長＞
18 (金)	2023 年度日本労働ペンクラブ労働遺産認定証交付式 ＜於：エル・おおさか 出席：館長、随員：課長 1 名、課長補佐 1 名＞
18 (金) ～ 3 月 27 日 (日)	大学文書史料室巡回展「神戸大学 120 年」＜於：社会科学系図書館＞
19 (土)	六甲台第一キャンパス計画停電のため社会科学系図書館臨時休館
20 (月)	自衛消防・防災訓練 ＜於：海事科学分館＞
21 (火)	【オンライン】国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 令和 4 年度第 1 回拠点連携委員会 ＜出席：係長 1 名＞ 第 2 回研究データ管理・公開ポリシー実施検討 WG ＜於：本部 4 階応接室 出席：部長、陪席：係長 1 名＞
24 (金)	前期入学試験に伴い 13 時で閉館 (保健科学図書館) 前期入学試験に伴い 17 時で閉館 (社会科学系図書館) 自衛消防・防災訓練 ＜於：社会科学系図書館＞
27 (月)	【オンライン】令和 4 年度国立大学図書館協会関東甲信越地区協会助成事業研修会 ＜参加：係長 1 名＞
27 (月) ～ 3 月 6 日 (月)	社会科学系図書館 第 3 回図書委員会 (メール回議)
28 (火)	【オンライン】国大図協システム委員会 ＜出席：部長＞
< 3 月 >	
1 (水)	神戸大学出版会第 3 回出版委員会 ＜於：理事室、オンライン＞
1 (水) ～ 7 (火)	人間科学図書館 第 6 回図書委員会 (メール回議)
1 (水) ～ 8 (水)	国際文化学図書館 第 4 回図書委員会 (メール回議)
1 (水) ～ 8 (水)	保健科学図書室 第 3 回図書委員会 (メール回議)
2 (木)	【オンライン】アカデミック・リンク/ALPS セミナー「DX 後の大学と学習資源」 ＜参加：部長＞
2 (木) ～ 9 (木)	医学分館 第 7 回図書委員会 (メール回議)

3 (金)	【オンライン】2022 年度大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 総会 ＜出席：部長、管理課長、雑誌担当係長＞ 研究データ WG(サブチーム)の打合せ ＜於：館長室＞
7 (火)	【オンライン】サービス課連絡会議 【オンライン】BEEF+講習会 ＜参加：課長補佐 1 名＞
8 (水) ～ 14 (火)	海事科学分館 第 5 回図書委員会 (メール回議)
10 (金)	自衛消防・防災訓練 ＜於：総合・国際文化学図書館＞ 後期入学試験に伴い 13 時で閉館 (保健科学図書室) 前期入学試験に伴い 17 時で閉館 (社会科学系図書館)
10 (金) ～ 15 (水)	人文科学図書館 第 7 回図書委員会 (メール回議)
10 (金) ～ 16 (木)	経済経営研究所図書館 第 5 回図書委員会 (メール回議)
11 (土)	後期入学試験に伴い閉館 (社会科学系図書館)
13 (月)	第 7 回研究データ管理 WG ＜於：館長室＞
14 (火)	海事科学分館改修打合せ ＜於：深江団地事務棟 課長 2 名、係長 1 名＞ 【オンライン】第 18 回月刊 JPCOAR「研究データのメタデータの共通項目への対応に向けて」＜出席：係長 1 名＞
15 (水)	自衛消防・防災訓練 ＜於：人間科学図書館＞ 【オンライン】国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会 ＜出席：部長＞
16 (木)	【オンライン】JPCOAR 総会＜出席：部長、課長 1 名、係長 1 名＞
17 (金)	サテライトと地域連携センターとの震災文庫に関する打合せ ＜於：社会科学系図書館 6F 会議室 出席：補佐 1 名、係員 1 名＞
23 (木)	【オンライン】第 4 回館長・副館長・分館長懇談会
24 (金)	【オンライン】NII 講演会 ＜参加：部長＞
24 (金) ～ 29 (水)	社会科学系図書館 第 4 回図書委員会 (メール回議)
29 (水)	オーダーガイダンス (保健) ＜説明：リテラシー係員＞
30 (木)	【オンライン】附属図書館研究開発室教育支援部会懇談会
31 (金)	【オンライン】第 5 回図書館運営委員会